

42910

教科書文庫

4
290
51-1913
20000 71959



© Kodak, 2007 TM: Kodak

© Kodak, 2007 TM: Kodak

資料室

教科書文庫
4
290
51-1913
2000071959

5a
290
+2

文部省檢定濟

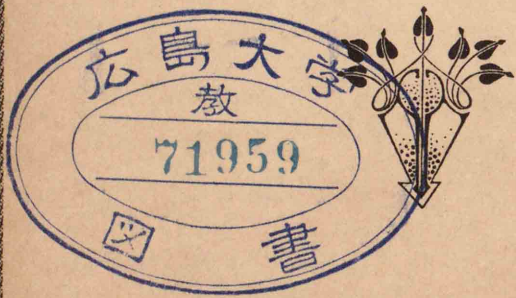
大正二年十一月一日

三省編輯所纂

師範教科

最近地理概說

全



広島大学図書

2000071959



東京

三省堂發兌

辯言

本書は、文部省所定の師範學校教授要目に則り、最近の事實に基きて編纂したるものにして、教科最近日本地理及び師範教科最近地理概説と脈絡一貫し、又最近世界地圖とは、相俟ちて雙翼の關係を有するものなり。本書の編纂に際し、著者の採りたる方針及び特に意を用ひたる點は、大要左の如し。

- 一、師範學校の教科用書たらしむるを以て目的とし、教材の選擇及び排列は、専ら要目の示す所に據りたりと雖、實際教育家の意見を參酌し、自然地理概説は、人文地理概説と共に、之を別冊となしたり。
- 一、地名の稱呼は、小學地理との聯絡を保ち、又其記載も、普通に漢字を用ふるものは、之を混合したり。
- 一、挿畫の選擇に留意すると共に、又其數を増加し、觀念の構成に便ならしめたり。
- 一、各洲に於ける地勢、海流、雨量、氣溫及び人種、人口、宗教の分布に關する地圖は、最近

世界地圖に掲載したるを以て重複を避けんが爲本文中には挿入せず。

一、木版の地圖が明瞭を缺くは、一般の憾とする所なり、本書挿入のものは、悉く石版彩色刷を用ひ、全く其缺點なきを期したり。

一、卷末に索引を附して、搜索研鑽に便ならしめたり。

一、地名の左側に記したる數字は人口にして、萬を單位とし、二十萬以上の都邑のみに之を記載したり。

一、距離は日本里を以て示し、尺度は日本尺によりたりと雖、鐵道航路等には哩、哩を用ひ、溫度は攝氏によれり。

一、統計は、其種類によりて最近の數量或は最近數年間の平均數量を採れり。

本書の編纂は、諸校の教官各位より、屢寄せられたる有益なる注意に負ふ所少からず、謹て茲に深厚なる謝意を表す。

大正二年初冬

編者識

教師範

最近地理概説

目次

前編 自然地理

第一章 地球

第一節 宇宙・太陽系・太陽

宇宙と星 太陽系 星霧説

第二節 地球の狀態

地殼と地熱 地球の形狀 緯度經度

第三節 地球の運動

自轉 公轉

第四節 月及び其運動

月の盈虚 日月蝕 二
第五節 曆 一四

第二章 陸 界 一六

第一節 陸地の變動 一六
一 内力に基づく變動 一七
山脈の成生 土地の昇降 火山 地震

二 外力に基づく變動 二四

大氣の作用 水の作用 生物の作用

第二節 地形の類別 三三

島嶼 山嶽 平原 河湖

第三章 水 界 三五

第一節 海洋及び海水 三五

海洋の形状 海水の性質 三六
第二節 海水の運動 三七
波浪 海流 潮汐

第四章 氣 界 四二

第一節 大 氣 四三
氣壓 氣温

第二節 降 水 四四
凝結物 雨量

第三節 大氣の運動 四七
大氣の循環 風の種類

第四節 天氣及び氣候 五一

第五章 地勢氣候生物相互の關係 五三

後編 人文地理

第一章 自然と人類との關係……………五

氣候と人類 地形と人類 海洋と人類
生物と人類 日本の自然

第二章 住民及び其狀態……………六

人種言語宗教の類別 人口の密度 人民の聚落
日本の國民

第三章 生業及び重要産物……………七

文化と生業 世界の主要産物 主要國の貿易
日本の生業

第四章 交通……………七

線路及び機關 世界の交通 日本交通

第五章 國家……………七

國家の組成 國家の種類 國家の境界 國家の版圖
外交 日本國家

第六章 主要國の國力比較……………八

財政 軍備 日本國力

結論 世界に於ける本邦の地位……………九

附 録

小松校に於ける地理教授法

第一章 教授の目的……………一

第二章 教授の材料

選擇 排列 進程

三

第三章 他學科との關係

人的教科との關係 物的教科との關係

七

第四章 教授の方法

教授の階段 教段の應用 地理と教段 教式

一〇

第五章 教授上の注意

地圖地球儀 繪畫寫真標本 遠足距離 暗記 教科書

三

教師範 最近地理概説目次 終

教師範 最近地理概説挿圖畫版目次

一	望遠鏡に映じたる天空の一部	一	破裂後の磐梯山	九
二	太陽系に屬する星の位置	二	水洲の大間歇泉	〇
三	太陽面の寫眞	三	塊狀火山と成層火山	〇
四	太陽と他の遊星との比較	四	富士山の側火山	〇
五	二種の星雲	五	火山は海岸に多き理	三
六	隕石の一例	六	根尾谷の斷層	三
七	海岸より船舶の入港を見たる狀	七	地震震動傳播の狀	三
八	經緯度及び經緯線	八	地震震動の狀態	三
九	寫眞機に映じたる北極の天	九	砂丘と其進行	三
一〇	緯度は北極星が地平面となす角に等しき理	一〇	埃國チロルの土柱	三
一一	我國の標準時たるべき經線	一〇	石灰洞内部の狀	三
一二	日附變更線	一一	河段丘の圖式	三
一三	地球は一日轉の上に尙若干の回轉をなさざれば太陽はもとの地點を照らさざる理	一二	石狩川沿岸の河跡湖	三
一四	晝夜の長短及び四季の變を生ずる理	一三	諏訪湖の變遷	三
一五	望遠鏡にて望みたる月面	一三	波浪の浸蝕を受けたる雀島	六
一六	月の盈虚を生ずる理	一三	水河と水山	六
一七	日月蝕を生ずる理	一四	植物根の地盤を霽爛する狀	六
一八	日月蝕の起る場合	一四	亞弗利加に於ける白蟻の塔	六
一九	人工的に山脈成生を示せる圖	一四	各種の珊瑚礁	三
二〇	淺間火山噴出の狀	一七	各種の山嶽	三
		一八	各種の地相を示す圖式	三

- ㉓ 海棚の状
- ㉒ 深海の堆積物
- ㉑ 深海の動物
- ㉐ 靜浦の磯浪
- ㉏ 海流の圖式
- ㉍ 潮汐の起る理
- ㉌ 大潮と小潮
- ㉋ 錢塘江の海嘯
- ㉊ 水銀氣壓計
- ㉉ 緯度によりて熱量の差異を示す圖式
- ㉈ 雲の種類
- ㉇ 東京に降りたる雹
- ㉆ アネモトル
- ㉅ 大氣循環を示す圖式
- ㉄ 海風と陸風
- ㉃ 旋風と逆旋風の圖式
- ㉂ 颶風の移動を示す圖式
- ㉁ 龍卷の狀
- ㉟ 文明起原地と氣温との關係を示す地圖
- ㊀ 海岸線と都邑發達との關係を示す地圖
- ㊁ 山村の一例
- ㊂ 英國の河底洞道
- ㊃ 古代希臘と現代英國の殖民地
- ㊄ 緯度上に於ける日本の位置

㊅ ㊆ ㊇ ㊈ ㊉ ㊊ ㊋ ㊌ ㊍ ㊎ ㊏ ㊐ ㊑ ㊒ ㊓ ㊔ ㊕ ㊖ ㊗ ㊘ ㊙ ㊚

- ㊛ 人種の容貌
- ㊜ 奧地利洪牙利の人種分布圖
- ㊝ 各宗信徒数の比較
- ㊞ 主要國の人口密度比較
- ㊟ 各種の形狀に發達する村落
- ㊀ 放射狀の都邑と直交狀の都邑
- ㊁ 農牧鑛工相互の關係を示す地圖
- ㊂ 小麥産地の分布圖
- ㊃ 米産地の分布圖
- ㊄ 羊毛及び綿産地の分布圖
- ㊅ 各種の主要品産額比較
- ㊆ 主要國の貿易額比較
- ㊇ 日本貿易額の増進表
- ㊈ 鐵道線路延長の比較
- ㊉ 商船噸數の比較
- ㊊ 世界一周の大交通系
- ㊋ 緯線に基ける人為的の國境
- ㊌ 經線緯線に基ける國境
- ㊍ モレネ中立地
- ㊎ 主要國の本土と領土との比較
- ㊏ 日本人の外國に於ける事業の一例
- ㊐ 主要國の財政比較表
- ㊑ 主要國の軍備一覽表
- ㊒ 明治年間に於ける本邦の進歩

㊓ ㊔ ㊕ ㊖ ㊗ ㊘ ㊙ ㊚ ㊛ ㊜ ㊝ ㊞ ㊟ ㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊄ ㊅ ㊆ ㊇ ㊈ ㊉ ㊊ ㊋ ㊌ ㊍ ㊎ ㊏ ㊐ ㊑ ㊒ ㊓ ㊔ ㊕ ㊖ ㊗ ㊘ ㊙ ㊚

- 第一版 汀線變動區域圖
- 第二版 阿蘇箱根兩火山地形及斷面圖
- 第三版 火山及地震分布圖
- 第四版 世界海深分布圖
- 第五版 世界海流圖
- 第六版 世界等溫線圖
- 第七版 日本等溫線圖
- 第八版 世界等壓線圖

- 第九版 日本等壓線圖
- 第十版 世界雨量分布圖
- 第十一版 日本雨量分布圖
- 第十二版 天氣圖
- 第十三版 人種分布圖
- 第十四版 宗教分布圖
- 第十五版 世界各國領土分布圖

最近地理概說 目次終

教師範 最近地理概説

前編 自然地理

第一章 地球

第一節 宇宙・太陽系・太陽

宇宙と星

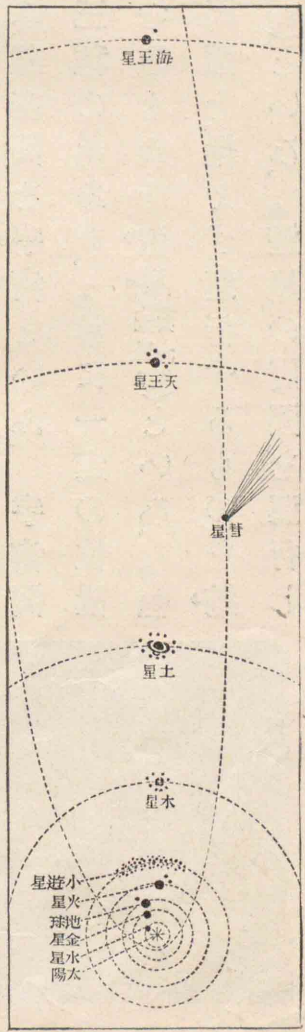
天空は、廣漠無限にして、只日月の高く懸り、星辰の多く輝くを見るのみ、此空間を宇宙といふ。宇宙間には三種の星あり、常に一定の位置を占むるものを恒星其太陽は其一例はといひ、恒星の周圍を、絶えず運行するものを遊星地球は其一例はといひ、遊星の周圍を運行し

望遠鏡に映じたる天空の一部星の無数なるを見るも宇宙の無涯なるを覺り得べし

天空に見ゆる星の大多数は恒星なり



太陽系に属する星の位置



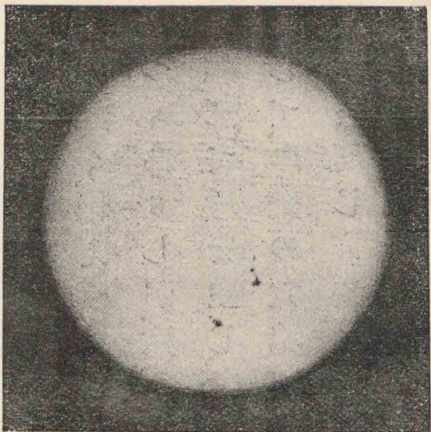
つゝ、恒星を回すも、このを衛星(月は其の一例)といふ。此等の星は、相集りて宇宙間に無数の星團を作る。

太陽系 太陽系は星

團の一にして、太陽といへる恒星を中心とし、之に属する水星・金

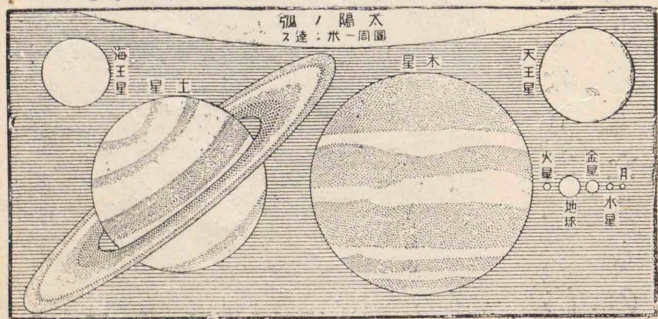
星	地球をひとし て直徑の比較	摘	要
水星	二	太陽に最近きを以て凡八十八日にて其周囲を一週轉す。	
金星	四	世人の所謂明星にして僅に拂曉暮天の際のみ之を見る。	
火星	三	表面には海陸の別等ありて總ての狀態地球と相似たり。	
木星	二、六	遊星の中光輝最鮮明にして其面には數多の横條紋あり。	
土星	九、四	數條の輪體ありて星を圍繞し恰も釜の鏝を見るが如し。	
天王星	三、七	距離遠きが故に肉眼にて之を見得ることは甚だ稀なり。	
海王星	四、五	遊星中最遠く太陽を一週轉するに百六十四年餘を要す。	
小遊星	?	小き星の一群にして辛うじて肉眼に見得るは數個のみ。	
彗星	?	所謂彗星にして不規則なる軌道を進行し時々出現せり。	
隕星	?	地球に近づき空氣の爲に光を發し時に落下する事あり。	

太陽面の寫眞



太陽と他の遊星との比較

の距離は約三千八百萬里あり。太陽の表面には、數多の黒點を有し、其位置の移動によりて、自轉あることを知るなり。太陽は、吾人に光と熱とを與ふる主源なれば、地球は、其表面に晝夜・四季を生ずる等、之より受くる影響は、實に大なりといふべし。



星霧説

太陽系の成

因に就ては、素より之を明に知ること能はずと雖、學者の推考によれば、遼遠の昔、宇宙間に酷熱の瓦斯塊ありて、現に存在する星雲の如く、絶えず旋轉しつゝ、ありしが、遠心力の爲に、扁平橢圓體となり、其外縁終に離れて環を生じ、環は再び集合して、小塊となりたるものにして、中央の大塊は即ち太陽となり、周圍の小塊は遊星となり、之と同じ方法により、遊星の周圍に衛星を生じたりと、之を星霧説といふ。

星雲 二種の



星霧説は十八世紀の頃、獨のカント佛のラプラス兩氏の唱へしものなり

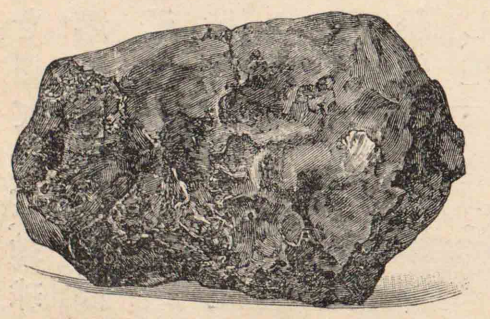
第二節 地球の狀態

地殼と地熱

地球が運動するに、地理學ノ引カニ作用する力ニ入り、空を作用サレテモ、木ノ核がモ、エキウナク、イテ、モ、ナリ

一例 隕石の嘗て宮城縣に落下せしもの、現に東京帝室博物館に陳列せり(圖は實物の凡十分の一)

地球の外皮を地殼といふ。地殼を構成する岩石の平均比重は、二・八に過ぎずと雖、地球の比重は、五・六なるを以て、其内部は重き物質なること明かなり。流星の核たる隕石が、主として鐵なるに照せば、地球の核も或は鐵なるべしといへり。地殼は熱の放散を遮り、爲に其内部には、尙酷熱を保持すること、火山・温泉等によりて推知すべし、之を地熱といふ。地球表層の一部は、太陽熱の影響を受くと雖、地下には終年同温度の所あり、此を常温帯といふ。常温帯以下は、百尺を下る

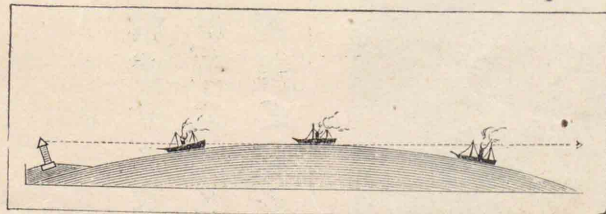


固體況

毎に、凡一度の温度を増加すといふ、此割合を以てせば、地球半径の百分一にも及ばずして、已に岩石を熔融し得べき高温に達するを以て地球の内部は、酷熱の液体なるが如しと雖、外部の壓力至大なれば、之が爲に固體の状を保ち、一朝地殻に變動起り、壓力の減少を來せば、忽ち液化して、地表に迸出するもの、如し。

地球の形状

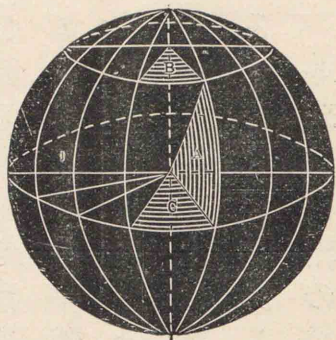
地球が球體なることは、海上の船舶が、距離の遠近によりて觀望の部分に異にし、地面の廣狹が觀察點の高低に應じて變じ、南北地を變ずれば、恒星の高度を異にし、東西所を異にせば、太陽の出没に遲速を來し、世界を回航せし者が、終に其出發點に歸着する等の事實によりて、推知するを得べし。されど、地球は眞の球



海岸より入港する船を見たる状

地球は眞の球にあらずるが故に緯度一度の間隔は赤道地方より極に近くに従ひて大なり
1 地球の赤道半径は一千六百二十三里餘にして兩極半径は一千六百十八里弱なり

緯度及び經緯線



にあらずして、稍、兩極に扁平なる橢圓體をなすと雖、扁平の度は、僅に直径の三分の一に過ぎざといふ。

緯度經度 地表に於ける位置を定むる爲に、經緯度を測定し、經緯線によりて之を示せり。

緯度とは某地點と赤道との間隔(角度)をいひ、同緯度の地點を連ねたる線を緯線といふ。緯線は、赤道を零度とし、此より南北に數へて、各九十度あり。

經線は又子午線といひ、通常英國のグリニチ天文臺を通ずるものを、本初子午線と定め、此線と他の經線との間隔(角度)を經度といふ。經度は、本初子午線より東西に數へて、各百八十度あり。

1 緯度一度の距離は約二十八里なり
2 經度一度の距離は赤道に於て約二十八里にして極に近づくに従て短し
經緯線は市街に於て何通の何町目といふが如く我が東京天文臺は東經百三十九度四十四分北緯三十五度三十九分の經緯線交叉地に當れり

第三節 地球の運動

地球は、絶えず自體を旋轉(自轉)しつゝ、又常に太陽の周圍を運行(公轉)す。自轉の軸と想像せらるゝ線を地軸といひ、公轉の道筋を軌道といふ

自轉 地球に自轉あるが爲に、日月は、東より出で、西に

没し、北天の星は時計の針と反對に廻るが如き觀を呈す。高塔上より落したる物體が、直下に來らずして稍、東に偏するは、自轉の證なり。地球上に晝夜の別を生ずるも、亦此運動あるによる。

地球は、自轉の爲に先、東より太

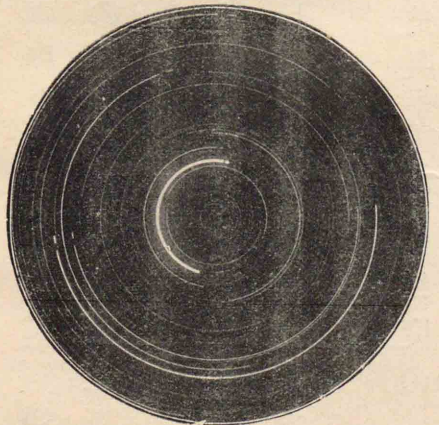
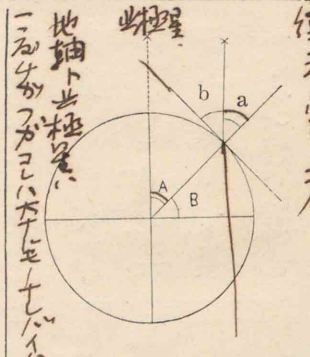


圖 寫眞機に映じたる北極の天

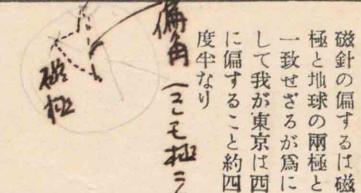
此の如き星は、時計の針と反對に廻るが如き觀を呈す。高塔上より落したる物體が、直下に來らずして稍、東に偏するは、自轉の證なり。地球上に晝夜の別を生ずるも、亦此運動あるによる。

明石にて正午の時
東京は零時十九分
八秒にして那覇に
ては十一時三十分
四十一秒なり

某地點の緯度Bは其地の地平面と北極星となす角度bに等し



磁針の偏するは磁極と地球の兩極と一致せざるが爲にして我が東京は西に偏すること約四度半なり



陽に照らされ、次第に西に及ぶを以て、東西兩地の地方時は相異れり、されば其時差によりて、兩地の經度を推測するを得べし。地球は斯く自轉すと雖、地軸の方向は殆ど變ぜざるを以て、北極星は常に北極の天頂にあり、故に其高度によりて、其地の緯度をも推測することを得るなり。

方位を測るにも、北極星によりて先、北を知り、次で他の方位を測るを例とす。通常は磁石を以て方位を定むと雖、磁石の針は、必しも正確に南北を指すことなく、又水平の位置を保つものにあらず。斯く磁石の針が、南北より偏する角を偏角といひ、水平より傾く角を傾角といふ。經度の異ると共に、一々時刻を異にするは、不便甚しきを

前編 自然地理 第一章 地球
九

我國の標準時たるべき經線及び其時刻を用ふる區域

中央標準時

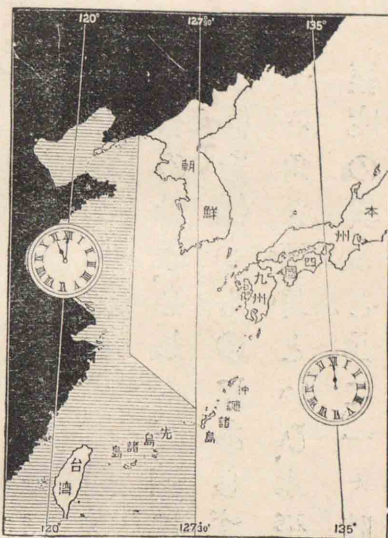
東經百三十五度に於ける時刻

西部標準時

東經百二十度に於ける時刻

朝鮮は東經百二十七度半に於ける時刻を標準時となし來りしが明治四十五年より中央標準時に據ることとなり

日附變更線



以て、便宜上或る經線上の時刻を以て、一國又は一地方の時刻と定むるを常とす、之を標準時と呼ぶ。我國には二の標準時ありて、内地及び朝鮮と臺灣の時刻とは一時間の差あり。

斯く太陽は、順次に各地點を照らすを以て、日附の界線を設くる必要あり。されば、太平洋を通過する凡百八十度の經線を其境界と定め、西に向て此線を越ゆる船は、一日を省き、東に向て越ゆるときは、一日を重ねて數へ、以て日附の



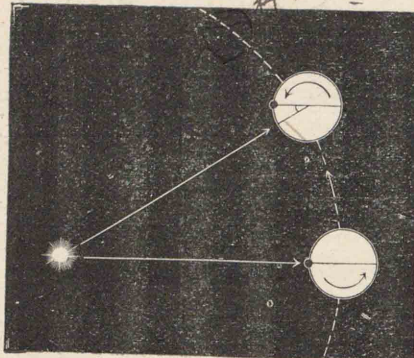
一致を圖れり。

公轉

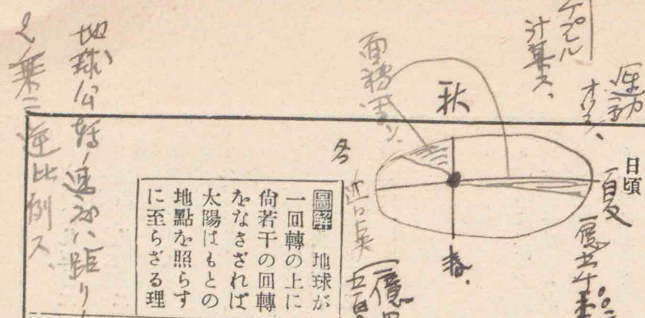
地球の一公轉は三百六十五日餘を要し、其軌道は橢圓なれば、太陽との距離は常に同じからず、其兩極點を近日點、遠日點といふ。近日點にありては公轉速度最大にして、遠日點にありては最小なり。

地球は、公轉の爲に位置を變ずるを以て、一自轉の後、更に幾分の回轉をなさざれば、太陽はもとの地點を照さず。

地球の一自轉間を恒星日といひ、太陽が或る地點より再び其地點を照すに至る時間を太陽日といふ。太陽日の長は公轉の速度に應じて日々異なるが故に、之を平均して、平均太陽日とす、即ち二十四時間なり。



地球が一回轉の上に、尙若干の回轉をなさざれば、太陽はもとの地點を照らすに至らざる理



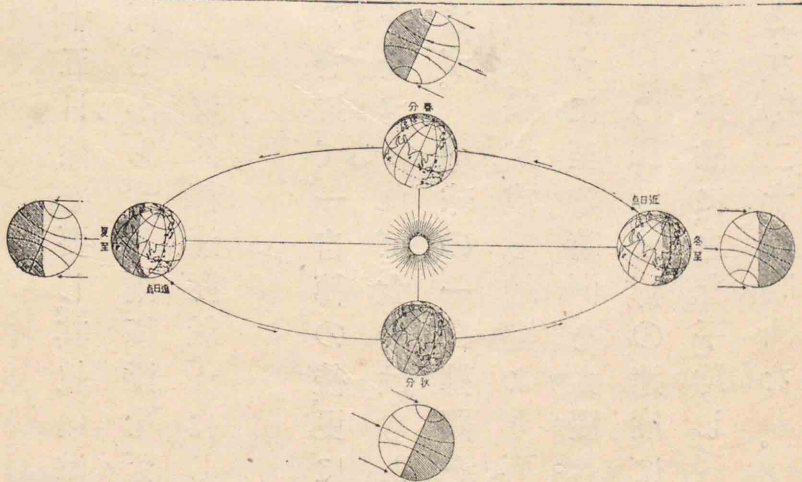
- 1 春分は凡三月二十一日
- 2 夏至は凡六月二十一日
- 3 秋分は凡九月二十三日
- 4 冬至は凡十二月二十一日

【圖解】 晝夜の長短及び四季の變を生ずる理

- 5 一年に二回太陽の直射を受く(南北兩極點の外)
- 6 一年に少くも一回は太陽出沒せず
- 7 直射なく又出沒せざることなし

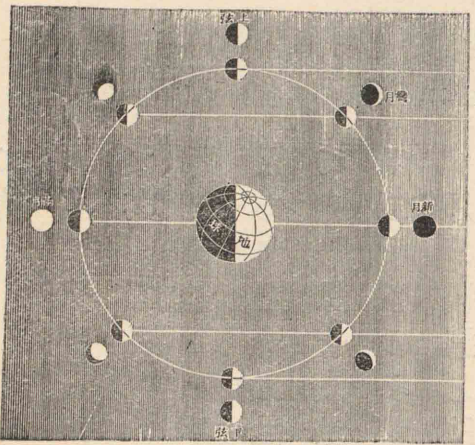
地球は公轉すと雖、地軸は常に凡二十一度半の傾をなすを以て、其位置によりて、晝夜の長短及び四季の變を生ず。我國にては、地球が春分にある時、氣候溫和にして、晝夜の長短相等しく、夏至には暑くして晝永しと雖、秋分に至れば再び新涼を生じて晝夜平分となり、更に冬至に達せば、寒くして夜長し。斯る關係に基き地表を熱帶・寒帶・溫帶に分つ。

三ノキ 第四節 月及び其運動

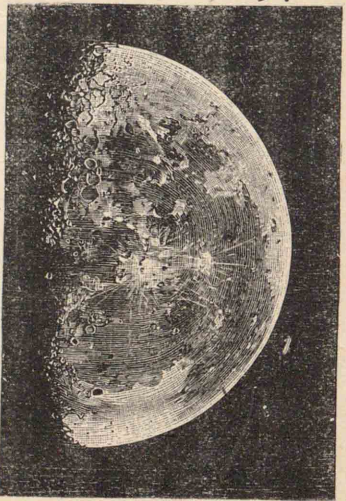


【圖解】 月面を望遠鏡にて望みたる状

【圖解】 月の盈虚を生ずる理



【月の盈虚】 月は又太陰といひ、直徑地球の四分一よりも稍小さく、其表面は、大小無數の噴火口を以て満たさる。月は二十九日餘を以て地球を一周し、同時日を以て一

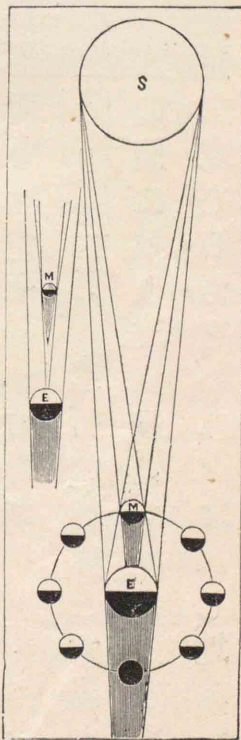


自轉をなすと雖、自光を發することなく、只太陽の光線を反射するに過ぎざれば、其位置によりて盈虚を生じ、日々光面を變化するものなり

【日月蝕】 月の運行中、地球と太陽との間に挟りて、太陽面を掩ふことあり、之を日蝕といひ、之に反し、地球が

日月蝕の生ずる理の生ずる理の傍の小圖は金環蝕

日月蝕の起る場合



太陽と月との間に挟りて、其影を月面に寫すことあり、之を月蝕といふ。日月蝕は、蝕の状態によりて、部分蝕・皆既蝕と稱し、又日蝕の際には、時として太陽の中心のみを掩ひ、金環蝕を生ずることあり。月の軌道と地球の軌道とが一平面上にあらば、常に新月の時は日蝕にして、満月の時は月蝕たるべしと雖、兩者の軌道は、些少の角度をなすを以て、日月蝕は、切合點又は其附近に於てのみ起るものなり。

第五節 曆

大陰曆布告

明治廿九年三月三十一日

大陰曆として満月より次の満月までの日数を一月と定むる曆ありと雖、文明國には行はれず

神武天皇即位紀元年數の四を以て整除し得べき年を閏年とす但紀元年數より六百六十を減じ、百を以て整除し得べきもの中、更に四を以て其商を整除し得ざる年は平年とす

羅馬法王カレゴリオ十三世の更正に基くを以てグレゴリアン曆と稱す

大陽曆の一種

365,2422 15年
768 平均
2922.7
0.9685

0.9688
0.0312
1+0.0312
0.0312+100
=5.18

他の天體との關係によりて、地球面に起れる種々の事項を記載したるものを曆といふ。現今我國を始め、列國に多く用ひらるゝものは、太陽曆と稱し、地球が其軌道を一周するに、費す時間を一年とす。眞の一年は三百六十五日と五時四十八分餘なりと雖、曆には、實際上の便を計り、端數を省きて三百六十五日を一年となす、之を平年といふ。斯の如く、毎年端數を省くのみにては、曆は終に季節よりも後るゝに至るが故に、四年毎に一日を増して、三百六十六日の一年を設く、之を閏年と稱す。然れども五時四十八分餘は、一日の四分の一に満たざるを以て、其結果として、曆は却て季節よりも進み、四百年間に約三日の差を生ずるに至るが故に、四百年間に三回の閏年を廢し、以て曆と季節との一致を圖れり。

第二章 陸界

第一節 陸地の變動

地球上に於ける陸地の分布は、甚しく平均を失すると共に、其形状も亦種々にして、廣大なる大陸あり、渺たる孤島あり、一方に岬角突出すれば、他方に海灣の彎入あり。斯く水平的形状の錯雜すると共に、垂直的形状も亦種々にして、山嶽あり、平原あり、河流あり、湖沼あり、其状態所によりて同じからず。

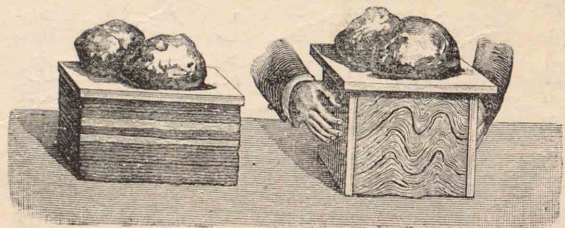
陸地が、斯の如く、千態萬殊の形状を有するに至れるは、抑、何に由て然るか。これ畢竟、遼遠の古より、各種の作用を受け、數多の變動を重ね來りし結果に外ならず。今其營力を大別して、内力・外力の二となす。

人工的に山脈成生の理を示す

一 内力に基づく變動

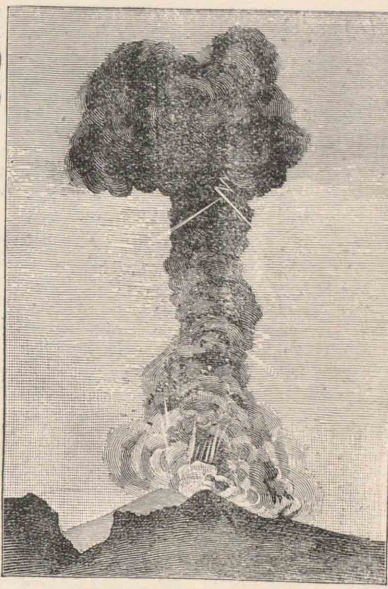
山脈の成生 地球は、地熱の減少に伴ひ、容積を縮小とすと雖、外皮は固體なれば、中心に向へる收縮力は、水平に働く横壓力、即、造山力となりて、地表に凸凹を生ず、山脈は即、其結果として成りたるものとす。

土地の昇降 地球の冷縮は、今も尙連續するを以て、陸地は所によりて隆起或は沈降しつゝあり、されど其運動徐々なるが故に、著しく目撃すること能はざれども、之を推知すべき證據少からず、即、海水浸蝕の痕を、汀線以上の地に存し、海生物の遺骸を、海より距りたる内地に認むる等は、以て土地の上昇せしを知るべく、陸上にありし建物・森林等の址を、



1 珊瑚蟲は水温高き浅海のみに生活し得るものなり
陸地の沈降著しきは獨逸の海岸、ケリ
ーランド等にして隆起するはスカ
ンデナヴィアの南部、
ラブラドル等なり

火山噴出の状
明治四十二年六月淺間山の活動



海底に發見し、珊瑚蟲の繁殖せし遺跡を深海中に認むる等は、以て土地の下降せしを推知すべし。

火山

地球收縮の結果は、地殻を脆弱ならしめ、内部の岩漿弱點を通じて噴出することあり、之を火山作用といひ、噴出物の堆積を火山といふ。深く地下に浸入したる水は、著しく高温となれるを以て、地殻の弱點に會する時は、張力の爲に、忽ち其一部を破りて氣化昇騰し、内部の岩漿中に含まるゝ水も、之に伴ひて氣化し、其勢を以て岩漿を流出又は飛散せしめ、此に火山活動を生ずるなり。

火山噴出の際は、轟然たる鳴動と共に地盤を震動し、水蒸氣は岩片と混じ

三十七年

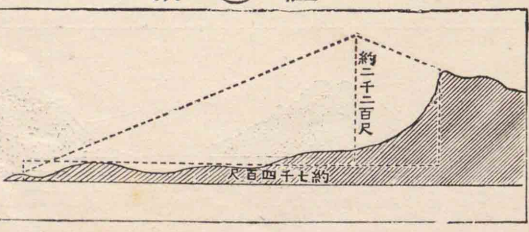
磐梯山破裂の際山體を崩壞したる状

貞觀六年富士山活動
天明三年淺間山活動の如きは噴出の例にして明治年間に於ける磐梯山吾妻山の變の如きは破裂の例なり
1 淺間山・三原山
2 富士山・開開嶽
3 箱根山・天城山
嘗てベスピヤス火山噴出の際山麓にありしポンペイ等の市街泥流の爲に埋没せられしことあり

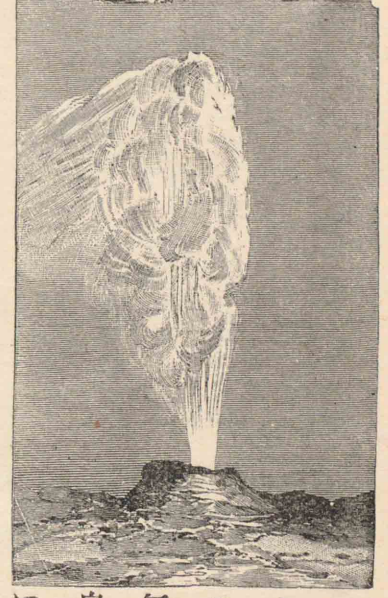
て黒烟の觀を呈し、時に電光を放ち暴風雨を醸し、岩塊飛び泥流溢れ、灰塵空を蔽ひて天爲に晦く、灼々たる熔岩之に映じ、恰、火焰の上るが如く、其光景凄愴を極む。

水蒸氣の張力甚しく大なるときは、急に山體を破壊して逸散することあり、之を火山破裂といふ。火山の活動は、時に盛衰あるを以て、活火山・休眠火山・死火山等の稱あれども、永久不變の區別にあらず。

活火山は、常に水蒸氣・亞硫酸・硫化水素等の瓦斯體を昇騰する外に、尙熔岩・泥流等を噴出することあり。熔岩の噴出したる當時は、酷熱なる液體なりと雖、其凝固するや、概、鑛滓狀を呈す、熔岩の一部が分離飛散するときは、其形狀によりて、火山彈・火山礫・火山砂・火山灰・火山毛等と稱す。



水洲に於ける大間歇泉の活動せる状

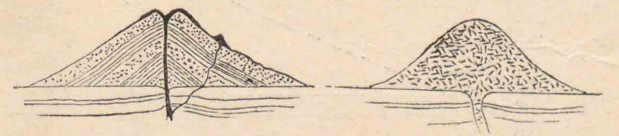


火山活動の休止したる後も、諸種の瓦斯體を噴出することあり、之を噴氣孔と稱す。溫泉も亦火山地方に多し、これ地殻

塊状火山と成層火山

噴氣孔は瓦斯の種類によりて(a)硫氣孔(b)炭酸孔(c)蒸氣孔等あり
a箱根の大湧谷
b立山の鳥地獄
c阿蘇山の湯谷
4 鳳來寺山
5 富士山

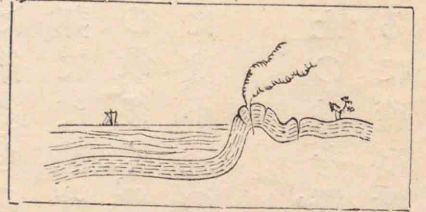
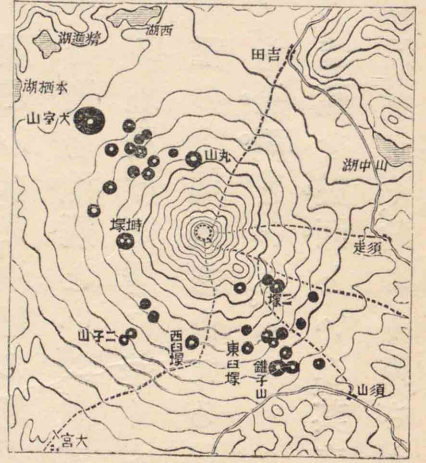
の裂罅に富めると、割合に表層にても、地熱高きとよるなり。溫泉には、時を定めて噴出する間歇泉あり、熱海、鬼首等は之に屬す。火山の構造には二種あり。一時に、熔岩のみを堆積して成れるを塊状火山といひ、各種の噴出物、相重りて成れるを成層火山といふ。又舊火口内に、更に新火山を生ずることあり、箱根



富士山に於ける側火山

海岸は地皮の裂罅に富み従て火山多き理を示す

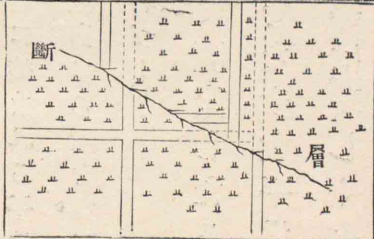
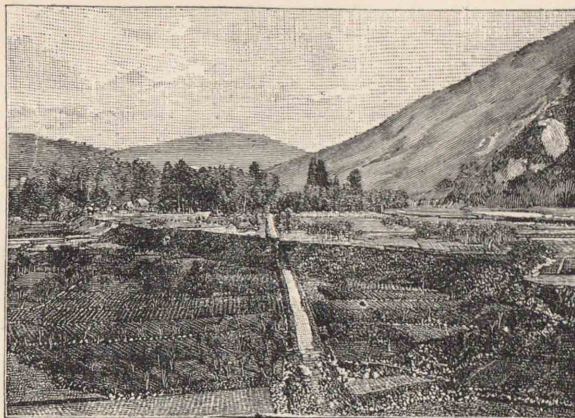
阿蘇等は其適例にして、稱して複火山といひ、之に對して、富士山の如く單純なるものを單火山と呼ぶ。



複火山の舊火口壁を外輪山といひ、中央の新火山を火口丘といふ、此兩者に挾まれる平地を火口原と稱し、火口原の水が、外輪山の一部を破りて流出する所を火口瀨といふ、又山側より新に噴出する時は、之を側火山と名づく。

火山は、地殻の裂罅に噴出したるものなれば、概線狀に排列せられ、所謂火山脈をなす、太平洋の沿岸、大西洋中の高地及び歐亞大陸の南部等は、著しく火山に富める地帯なり。

明治十四年濃尾震災の時岐阜縣可兒郡根尾谷に於ける大斷層にして落下二丈餘水平に移動すること四尺許



地震 地震は、甚だ恐るべき地變にして、其原因に三種あり。●火山の噴出に伴ふものを火山地震といひ、●空洞陥落の爲に起るものを陥落地震といひ、●地盤の斷層に伴ふものを斷層地震といふ。本邦にて感ずる地震は、斷層に基くもの最、多く、此種の大地震ありたる後には、小震の屢、續發するを常とす、之を餘震といふ。地下に於ける震動の起點を震源といひ、其直上の地を震央といふ。震央は震動最、劇しく、此より遠ざかるに従ひ、微

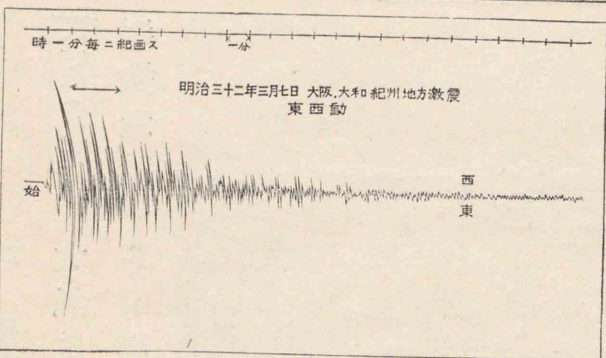
濃尾地震の後岐阜市にては二ヶ年間に三千三百六十五回の餘震を感ぜり
 傷者一万余人
 家屋十六万
 日本地震の最
 大なるもの
 三十九年三月十日
 三万七千四百八十
 五圓、初を機
 械を用いた

震波傳播の狀
 Aは震源
 Bは震央

本邦にては地震の強弱を微震弱震強震烈震の四等に分つ

東京のみにても一年間には五六十回の多きに上るといふ

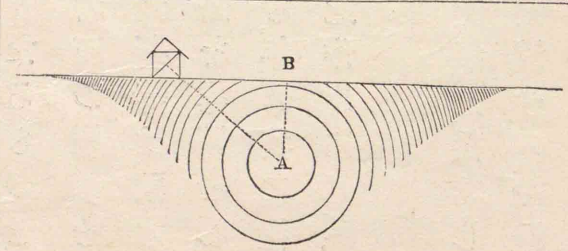
地震震動の狀態



弱となるを常とすと雖、地形、地質等によりて、亦大に異なるものなり。

地震の強弱及び時間等を計る器械を地震計といふ。地震計の要點は、地盤の震動を感ぜざる不動點を設け、之を標準として、揺動を板面に記さしむるにあり。

地震は、脆弱なる地盤に多きが故に、其分布は、殆ど火山の排列と一致せり。我國は有名なる地震國にして、就中其回数、は、新地層なる關東・濃尾・近畿等の諸平野に多し。



②

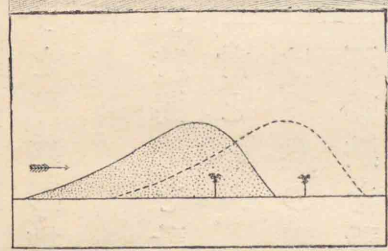
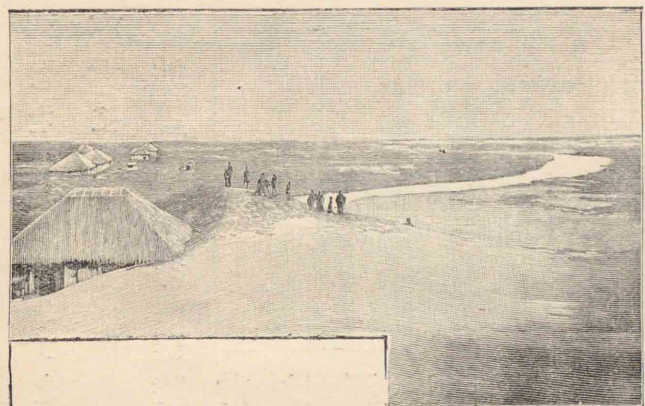
二 外力に基く變動

大氣の作用

大氣は、風によりて地盤を削磨し、且之を他方に運搬堆積するものなり、北清支那に於ける黄土層の如き、其著例なりと雖、海岸又は沙漠等に生ずる砂丘も、此作用によりて成りたるものとす。此他氣温の變化は岩石の崩壊を促し、大氣中の酸素炭酸瓦斯等は、雨水と相俟ちて岩面を霉爛せしむ、滑なる石標も、年と共に粗鬆となれるは此作用にして、之を風化といふ。

砂丘と其進行

砂丘は漸次其位置を前進するものにしてビスカヤ灣沿岸及丁抹半島にては年々三尺乃至二十尺を進む



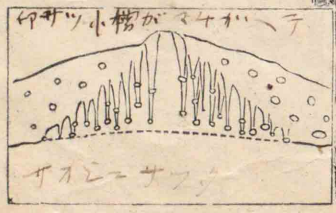
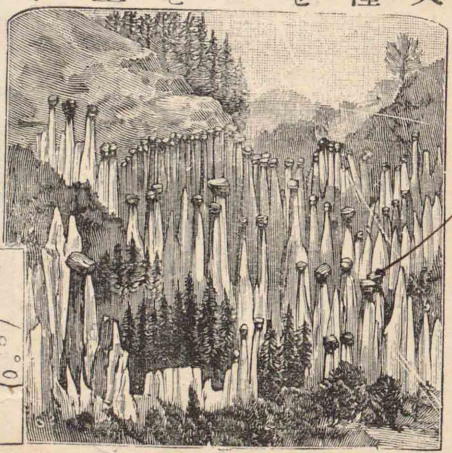
水の作用

水蒸氣は、凝結して雨となり、其浸潤するや地

塊國チロルに於ける土柱にして中には百尺以上のものあり別圖は土柱成生の狀

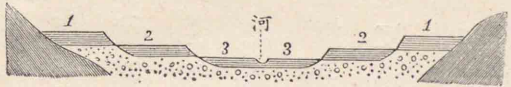
下水となり、流るゝや河海となり、又寒氣に際せば氷雪と變ずる等、諸種の狀態に於て、絶えず地盤に變化を與ふるものなり。

降雨は、先、地盤の軟弱なる部分を崩壊す、故に石塊を混ざる粗鬆の土地にありては、石塊の下部のみ、僅に崩壊を免れて土柱を作り、又岩石の構造が、硬軟錯雜するときは、其裂隙に浸入して内部よりも之を犯し、石門、石柱等の奇觀を生ず、妙義山、耶馬溪の勝は、雨水の作用に與る所多し。雨水の地中に浸入したるものは、循環中種々の物質を溶解し去る、石灰洞の如きは、即、其結果にして、洞内



石灰洞 内部の状態
北米のマンモス洞は深さ十數里に及び支洞を合すれば百里に達すといふ

河段丘の成生を示す
流水の運搬力は速度の六乗の割合に増加す



には炭酸石灰を遊離し、鍾乳石、石筍等を造る。地下水が緻密なる地層に遮らるゝ時は、此に滯溜す、井戸の水は即ち是なり、されど地層斷絶して地表に露出すれば、水は



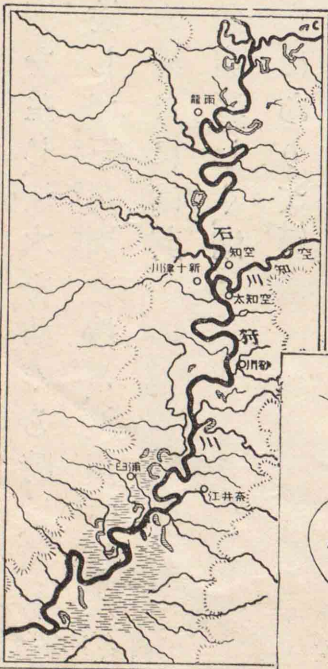
此より流出し、泉となりて、河流の源を涵養す。河水は常に土砂を運び、又河道を削磨す、其等の力は水量、速度等によりて甚だ異なるが故に、瀑布及び溪流の如き、流勢の急なる所は、破壊力甚だ強く、瀑壺、甌穴等を造り、殊に瀑布は、次第に其落口を破壊し、兩岸險絶なる峽谷をなすこと多し。流水は速度の減ずると共に、運搬物を沈積す、さ

河の上流には巨大にして稜角ある岩片を沈積し中流以下にありては礫石となり砂泥となり沈積物を異にするは速度の異なるによる

河の兩岸には洪水の際のみ水に被はれ平時は荒蕪地となりて現はるゝ、洪水あり洪濁地が洪水毎に高さを増すと共に河水は益々河床を削り終に洪水の際にも浸水せざるに至る之を河段丘の第一期とす

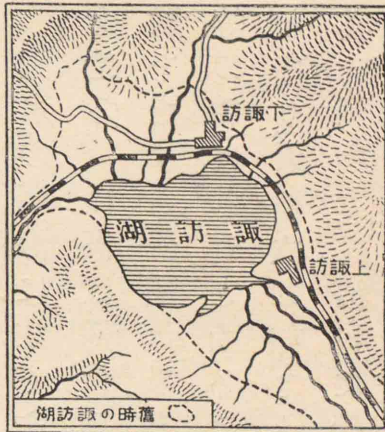
石狩川 附近の河跡湖

れば大雨の爲に溢流する時は、兩岸に砂礫を堆積して荒蕪地を造り、其作用度を重ねると、河床を浸蝕するにより、舊時の荒蕪地は階段をなすことあり、之を河段丘と稱す。屈曲せる河道にては流水速度の關係によりて、一方は浸蝕を受くると共に、一方は却て砂泥を堆積し、益、屈曲して終に新河道を開き、舊河道は別に湖水となることあり、石狩川の流路には此例多し。流水の湖海に注ぐや、土砂を沈めて砂洲を造る。砂洲は通常扇状をなすと雖、潮流風向等の爲に砂嘴となることあり、天、橋立の如きも其一例なり。河口に砂



攝津・近江等を通ずる鐵道線路は河底に洞道を設けたる所からずこれ沈積多量なるが爲に河底は附近の地よりも高くなりたものなり

圖 諏訪湖の變遷



洲を生じ、流水を妨ぐる時は、河水分岐して三角洲を造る、淀川・木曾川等の河口には其發達著しく、湖水にありては、次第に湖面を

埋め、新陸地を造ることあり、諏訪湖の如きも其例なり。

海水は、次第に海岸を破壊彎入せしむるが故に、海岸の岩石が、硬軟錯雜するときは、數多の岬灣又は島嶼を生ずることあり、かくて破壊せし岩片は、浪と共に海岸を打撃するが故に、崖濱に

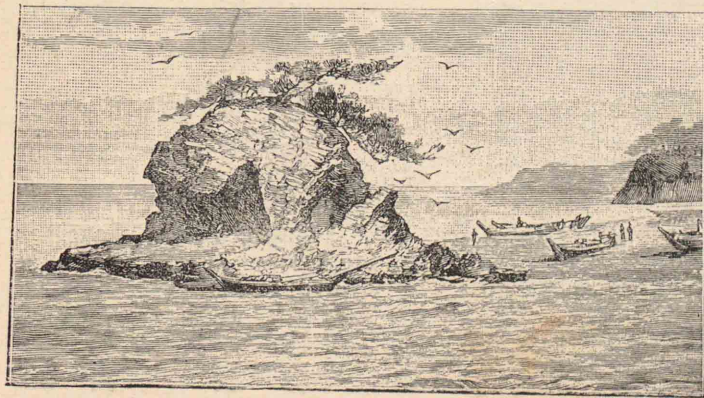
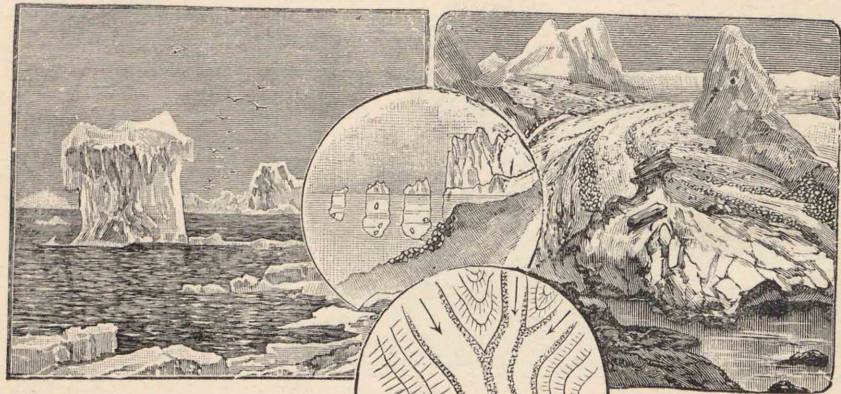


圖 波浪の爲に島の下部が著しく彎入する狀 駿河灣内の雀島

氷山の水上に現るる部分は全體の八分の一に過ぎざれども尙三百尺以上のものあり

圖 右は氷河左は氷山の堆石と氷山の成生



氷河の運動は地形によりて異なれども一日僅に二三尺なり

ては、往々其下部に彎入或は洞穴の存在を見る、松島も此等の作用に與ること多し。

氷は岩石を崩壊し、土壤を疎鬆ならしむる等の作用をなすと雖、其營力の顯著なるは氷河なり。氷河は、雪線以上の地に於ける堆雪より成れるものにして、進行中絶えず地盤を浸蝕し、又其表面には、兩崖より崩壊落下したる岩片を載せて、下流の地に輸送す、之を堆石といふ。堆石は氷河融解の地に堆積し、時に水を堰きて湖水を造る。

土手に芝を栽え結山に樹木を植うるは土壤緊束の爲に外ならず

植物の根が地盤を霉爛する状
上部は全く霉爛して土壤となり中部は半ばを霉爛したる亞土壤にして下部は尙堅硬なる岩石なり

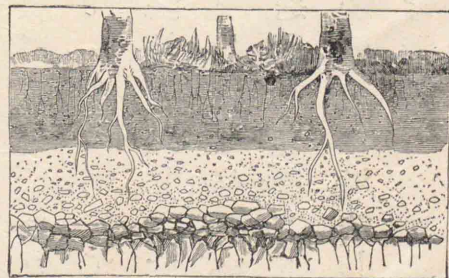
亞弗利加に於ける白蟻の土堆傍の人と比較せよ



生物の作用

雪線の平地と一致する地方にては、氷河は直に海に浮流す、之を氷山といふ。氷山融解するときは、堆石を沈めて海底を埋む、ニーファウンドランド淺瀬は此例なり。

植物は、根の成長と共に地盤の裂罅を擴大し、或は雨水を導きて破壊を幫助し、又其腐敗によりて、岩石を霉爛せしむと雖、一方より見れば、却て土壤を緊束して其保存を司り、或は泥炭・石炭・硅藻土となる等、顯著なる堆積作用をも營むものなり。
動物も、白蟻は大なる土堆を造り、穿

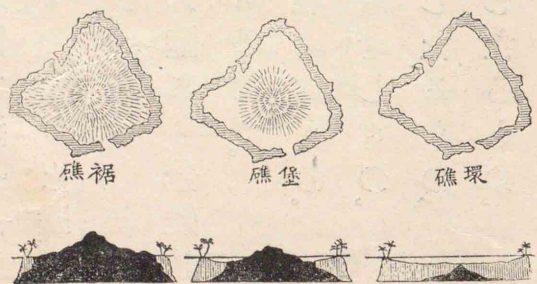


各種の珊瑚礁

珊瑚礁の成因に就てダーウィン氏は最初總て裾礁なりしが陸地下降と共に堡礁となり更に環礁となれりといひアカシ・マルレ諸氏は下降地のみに限らず海中臺地にも生ずるものなりと説けり

孔介は海岸の岩石に孔を穿つ等、地變に及ぼす作用亦甚だ多しと雖、殊に著しきものは珊瑚礁なり。珊瑚礁は、太平洋・印度洋等に多く、其形狀に三種あり。●陸地の沿岸に附着するを裾礁といひ、●陸地との間に一帯の水を挟みて、牆壁狀をなせるを堡礁といひ、●環狀をなして、海中に孤立するを環礁といふ。通常珊瑚島と稱するは即ち此環礁のことなり。

珊瑚蟲と共に、尙一の重要なるものは、海中に棲息する多孔蟲等とす。多孔蟲は微細なる動物なれども、其遺骸は廣く洋底を掩へり、現に各地より産出する石灰岩の大部は、堆積したる其等の遺骸に外ならず。



第二節 地形の類別

陸地は、斯く種々の營力を受け來りたるものなれば、同じく島なれども、其成因は相異り、等しく湖水なれども、其由來は同じからず、されば地形を類別し、之れが成因を述べん、

島嶼 大陸は、地球冷縮の爲に生じたるものなりと雖、島に至りては、他にも尙之を構成すべき原因少からず。島は成因によりて、**陸島**と**洋島**とに分つ、前者は大陸より分離したるものにして、後者は孤立して存在するものなり。

陸島

- 水蝕作用……………海水浸蝕の爲に分離せしもの。
- 地盤變動……………地盤陥落の爲に分離せしもの。
- 火山噴出物の堆積したるもの。
- 珊瑚島……………珊瑚蟲の遺骸堆積したるもの。

洋島

- 火山島……………火山噴出物の堆積したるもの。
- 珊瑚島……………珊瑚蟲の遺骸堆積したるもの。

各種の山嶽

A 褶曲山嶽
B 斷層山嶽
C 堆積山嶽
D 浸蝕山嶽

山嶽は、單獨の原に基くもののみならず、褶曲山嶽堆積山嶽等も、浸蝕の爲に分れて數峯となり、或は斷層の爲に別個の山となること稀ならず

1 關東平野
2 露西亞平野

山嶽

山嶽は、概、地殼の褶曲に基きて、成立したるものなりと雖、詳に見るときは、他にも之を構成すべき原因少からず、今大別して凡左の四種とす。

褶曲山嶽

地球冷縮の爲に地表に生じたる皺

斷層山嶽

斷層の爲に比較的高く残りたる地

浸蝕山嶽

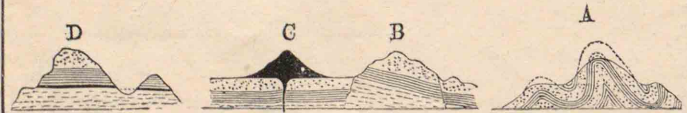
水蝕の爲に比較的高く残りたる地

堆積山嶽

火山噴出物・風塵等の堆積したる地

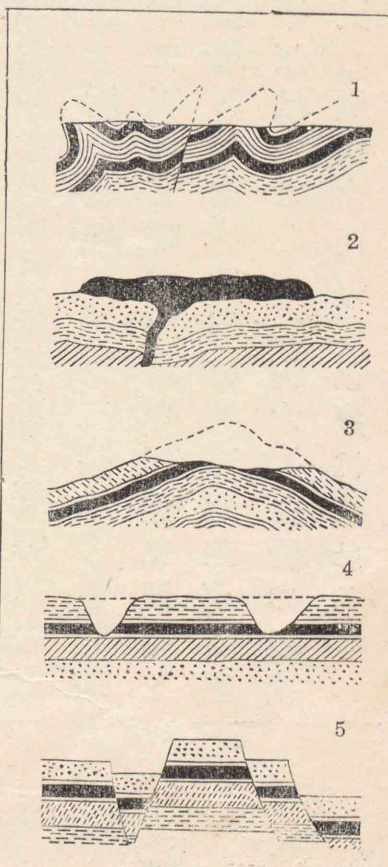
平原

高距著しからざる平坦地を平原といひ、一部分特に高き所を臺地といふ、又平地の高度著しきものは、時に高原と呼び、高地を四邊に回らしたるものを盆地と稱す。此等の地形を生ずる原因は頗、多く平原は主として、河水運搬物の堆積に基くと雖、又、風水・氷河等の削磨になれるもの



- 3 屋島
 - 4 北清臺地
 - 5 阿武隈高地
 - 6 コロラド高原
 - 7 甲府盆地
- 各種の地相を示す圖式
- (1) 削磨平原
 - (2) 堆積臺地
 - (3) 削磨臺地
 - (4) 切開臺地
 - (5) 斷層臺地

あり。臺地には、火山³の噴出物、風塵等の堆積せしもの⁵、風雨、流水等の削磨或は切開したるもの⁶、斷層によりて高く残れるもの等あり。又盆地は湖水、内海等の遺跡を最多しとす。



河湖 雨水は地形に従ひて流れ、相集りて河系をなす、一河系によりて排水せらるゝ區域を流域といひ、兩流域を分てる地を分水界といふ。河は流路の種々なると共に、其成因も亦一ならず。即ち、地盤褶曲の爲に生じたる谷なることあり、¹斷層の谷なることあり、或は又²浸蝕作用により

て漸次に河を生じたるものあり。湖水は、自然の凹所に水を溜溜したる凹地湖と、一部を塞がれたるが爲に生じたる堰塞湖とあり。凹地湖の生ずるは、³地盤陷落又は汀線變動によることあり、⁴河水、氷河、風等の削磨によることあり、又⁵舊噴火口なることあり。堰塞湖は、多く、⁶火山噴出物及び山崩等によりて溪谷を塞がれ、或は⁷砂丘及び氷河堆石等によりて、一部を堰がれたるより生ずるものなり。

- 1 琵琶湖
- 2 印旛沼
- 3 蘆湖
- 4 中禪寺湖
- 5 猿間湖

地中海の如きは内海にして日本海の如きは縁海なり

第三章 水界

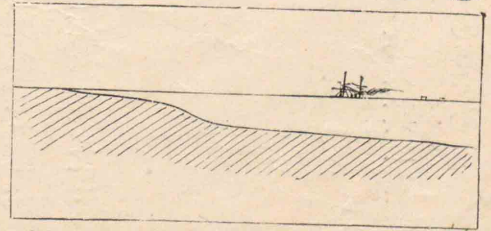
第一節 海洋及び海水

海洋の形状 海洋は、陸地の爲に三大洋に分たれ、又其一部が、陸地に限られたる状態によりて内海、縁海等の名あり。

海棚
フィリピン諸島の東方には三萬二千二百餘尺の深所發見せられたり

海水の平均比重は一、〇二八

海底は起伏ありと雖、其傾斜は陸上の如く急峻ならず。大體は海岸より緩傾斜を以て、約二百米の所に達し、夫より急に傾斜を加へて深海にうつる。即ち二百米線は、大陸の眞の縁線にして、汀線との間を海棚と稱す。大洋の中、最も深きは太平洋の西部にして、三萬尺を超ゆる所あれども、大洋全體の平均深度は、約一萬二千尺なり。海底の堆積物は、所によりて相異り、淺海にては、砂礫泥土を主とすれども、珊瑚島附近は珊瑚の遺骸多く、火山島附近は火山噴出物より成り、深海の海底に至れば、多く、有機物の遺骸より成れる軟泥に掩はる。

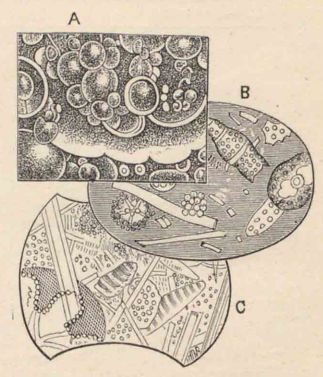


海水の性質
海水は種々の鹽類を含み、其大部は鹽化ナトリウムなり。鹽類の量は、雨量蒸發又は淡水供給の多少等

深海堆積物の擴大
A 硅藻土
B ラザオラ
C グロビゼリナ泥

透光極限は約一千尺

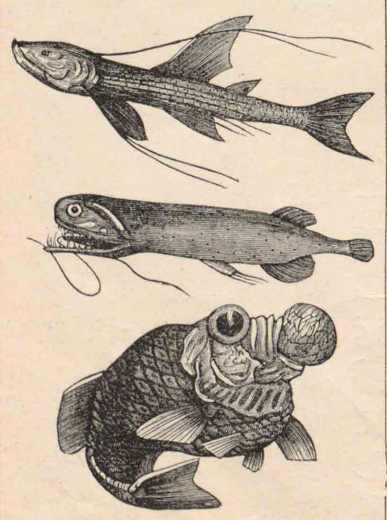
深海生物の一例
上、觸角の發達して眼の縮小す
中、眼大にして發光機を具ふ(眼の附近の白き所は發光機)
下、淺海に來りし爲水壓減じ體內の氣胞膨脹す



により、各地同じからず、紅海は甚だ濃厚なれども、白海は極めて淡し。海水表面の温度は、所によりて異れども、海水の透熱は表層の一部に限るが故に、深海は到る所大差なく、零度内外なりといふ。

光線も亦温熱と等しく、下層に達せざるを以て、深海は常に暗黒なり。故に深海の生物は、其境遇に適せんが爲に、特殊の機關を備ふる等、自、淺海のものとは異なる所多し。

第二節 海水の運動



圖解 磯浪の有様と其断面



海水は、常に靜定せるものにあらず、其運動の主要なるを波浪・海流・潮汐等となす。

波浪

波は、風の爲に起る一種の運動にして、一上一下順次に前進すと雖、水分子は、只振動を傳搬するに過ぎず。されど、海岸に近ければ、海底の障害を受けて、波頭次第に傾き、終に海岸に倒れて白浪を生ず、之を磯浪といふ。磯浪は風向の如何に拘らず、必ず汀線に對して、直角に打ち

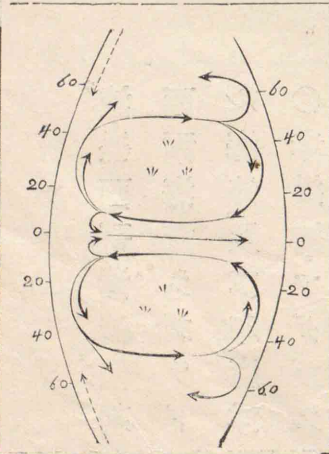
世界中高浪に名高きは喜望岬邊にして時に六十尺以上の浪を見ることあり

海流の赤道地方より流るものは水溫高ければ暖流といひ、極地方より流るものは水溫低きを以て寒流といふ

圖解 海流の流路を示す圖式

寄するものなり。不時に起る巨浪を津浪といひ、火山破裂・地震等に伴ふものなり。津浪は甚だ高きことありと雖、普通の波は高、五十尺、長、千五百尺を最極限とす。波の運動は、只表面の一部に止るを以て、海面は激浪奔騰する時も、深海にては沈靜を極むるものなり。

海流 海中に於ける、河の如き流れを海流といふ。常に一定せる風の爲に起るものにして、陸地の障害により、種々に方向を變ず。即ち赤道附近には貿易風の爲に、西に向ふ赤道流を生じ、其陸地に遮らるゝや、大部は南北に向ひ、一部は赤道無風帯を東流す。南北に向ひし流れは、地球自轉の爲に漸次方向を變じ、東流して大陸の西岸を衝き、其大部は再



循環流の内部は水
静にして海嶼多く
北大西洋にては此
を藻海と呼ぶ

び赤道流に合して環流をなす。
海流の主要なる
ものは、太平洋の赤
道流、黒潮海流、千島
海流、大西洋の赤道

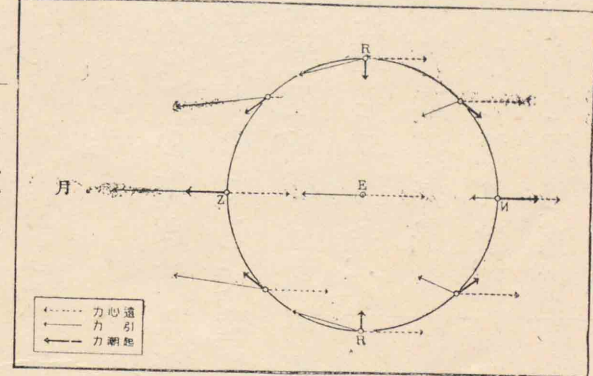
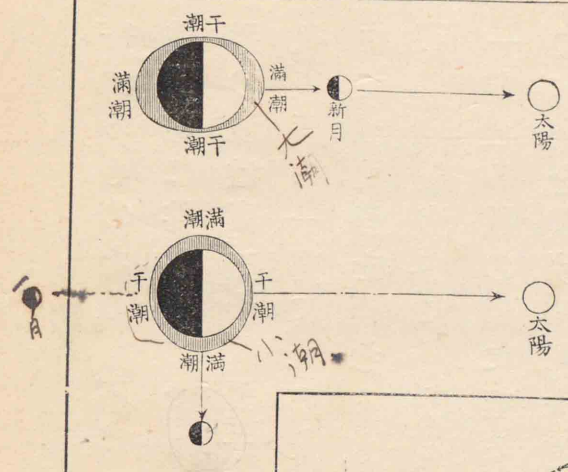
$$Z = \frac{1}{592} = 0.00028$$

$$B = \frac{1}{602} = 0.00027$$

$$N = \frac{1}{612} = 0.00026$$

起る理 潮汐の

小潮 大潮と

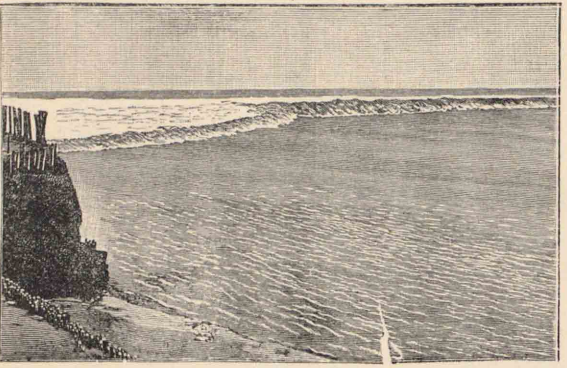


の遠心力とより生ず、月は容積小
なりと雖、距離近きが故に、潮汐と
の関係殊に深し。満潮は、
シムス

*流、墨西哥灣流、伯刺
西爾海流、ラブラド
ル海流、及び印度洋
の赤道流、マダガス
カル海流等なり。
潮汐 海水は時を
定めて漲落す、之を
潮汐といひ、太陽及
び月の引力と、地球

北米のファンゲイ
灣にては六十尺、
我が朝鮮の西岸に
も三十尺に達する
所あれど地中海、日
本海の如きは其差
極めて少し

錢塘江の河口に於ける海嘯



月の地球を回轉するや、互に引力の爲に相引くと共に、又
遠心力の爲に離れんとする性あり。兩者の距離、最近き所
は引力強く、之に反し、最遠き所は遠心力強きが故に、可動性
なる水は、此二力の影響を受け、月に向ふ側と裏側とは満潮
となり、其中間は干潮となる。

太陽も亦潮汐に關係あるが故に、新
月・満月の際には、太陽と月との影響相
重り、干満の差最著し、之を大潮といひ、
弦月の頃は、兩者の力相分れて、干満共
に著しからず、之を小潮といふ。
潮汐干満の差は、地形等によりて大
に異り、又外洋と續ける内海の入口等
にては、干満毎に激しき流れを生ずる

ことあり、之を潮流といひ、喇叭状をなせる河口にては、潮水
河水と激し、水壁をなして、遡るを見る、之を海嘯と呼ぶ。

第四章 氣界

第一節 大氣

大氣は、地球を被へる瓦斯體にして、低きより高きに至る
に従ひ、著しく稀薄となるを以て、其限界は明ならざれども、
蓋し二十里を下らざるべし。大氣は無色透明のものなり
と雖、其中に浮遊する細塵等の爲に、日光を反射して藍色を
呈し、其量多きときは、黄色、赤色等を帶ぶることあり。

氣壓 大

氣の重量を

氣壓といひ、

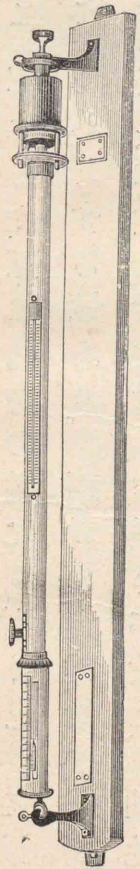


圖 水銀氣
壓計

等壓線は海面上に
更正して記入する
ものとする

1 朝夕の割合に低
温なるは之と同理
なり然し一日中の
最高温度は正午よ
りも後れて午後二
時頃にあり即ち輻
射の盛なるは來射
の盛なる時よりも
後るゝが故なり之
に準じて一日の最
寒なるは曉前にあ
り又我國にて一年
の最高温は八月最
低温は二月なり
2 熱帯地方と雖一
定の高き以上には
萬古の白雪を存す
此限界を雪線とい
ふ
3 滿洲の冬は日本
の冬よりも寒く又
滿洲の夏は日本の
夏よりも暑きは之
が爲なり

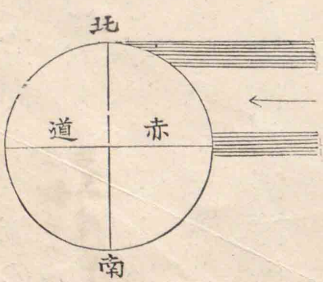
緯度によ
りて太陽よ
り受くる光線
の分量が異
理を示す

之を計る器械に水銀氣壓計・アネロイド氣壓計等あり。

壓は通常海面上に於て、七百六十耗なりと雖、時と所とによ
りて大に變化し、甚だ錯雜するを以て、各地に於ける一定時
の氣壓を計り、等壓線圖を作る。等壓線圖は廣く氣壓の分
布を知り、又大氣流動の方向をも推察することを得べし。

氣温 氣温は、主として太陽熱に基くと雖、大氣は透熱性

なるを以て、地面先熱して、之に接觸する下層の大氣に傳へ、
對流作用によりて、漸次上層に及ぼすもの
なり。氣温も時と所とによりて甚だ差異
あり。即ち、直射を受くる赤道地方は暑く
して、斜に光線を受くる極地方は寒く、土
地の高き處は低き處よりも寒く、陸は、温
度極端に走れども、水は中和を保つを以て、



4 南風の暖にして北風の冷なるは吾人の常に感ずる所なり
 5 北亞米利加北部の西岸は暖流の爲に暖にして東岸は寒流の爲に寒し
 等温線は海面上に更正して記入するものとす

海流の暖にして北風の冷なるは吾人の常に感ずる所なり

其分布の状態によりて大に異り、此他、^④風の方向、^⑤海流の有様等によりても、亦甚しき差異を來すものなり。^⑥自陸前あり、^⑦海流あり、^⑧海流あり、^⑨海流あり、^⑩海流あり、^⑪海流あり、^⑫海流あり、^⑬海流あり、^⑭海流あり、^⑮海流あり、^⑯海流あり、^⑰海流あり、^⑱海流あり、^⑲海流あり、^⑳海流あり、^㉑海流あり、^㉒海流あり、^㉓海流あり、^㉔海流あり、^㉕海流あり、^㉖海流あり、^㉗海流あり、^㉘海流あり、^㉙海流あり、^㉚海流あり、^㉛海流あり、^㉜海流あり、^㉝海流あり、^㉞海流あり、^㉟海流あり、^㊱海流あり、^㊲海流あり、^㊳海流あり、^㊴海流あり、^㊵海流あり、^㊶海流あり、^㊷海流あり、^㊸海流あり、^㊹海流あり、^㊺海流あり、^㊻海流あり、^㊼海流あり、^㊽海流あり、^㊾海流あり、^㊿海流あり、

第二節 降水

大氣中には、必ず多少の水蒸氣を含有す。大氣の水蒸氣を含有する量は、氣温と關係を有し、一定温度に對する極量を飽和といふ。飽和したる大氣の温度下るときは、餘分の水蒸氣は、再び凝結して水滴となるなり。

凝結物

大氣中の水蒸氣が凝結したるものに種々あり。

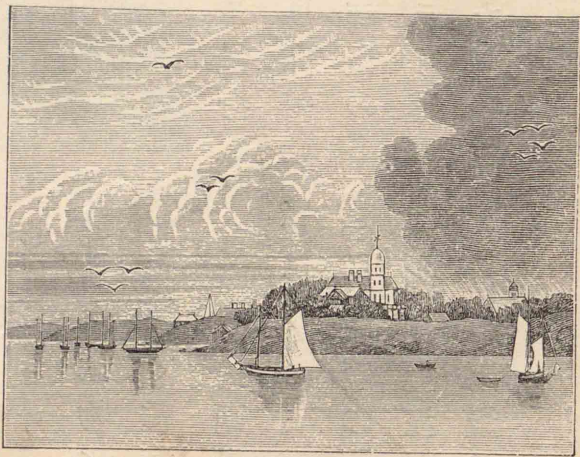
雲の形状

- 一羽は卷雲
- 二羽は積雲
- 三羽は層雲
- 四羽は雨雲

寒暖二流の會合地に霧の多きは此理による

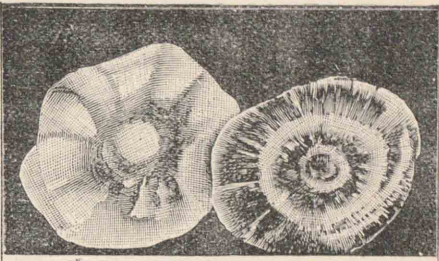
夜に入り草木瓦石等の冷却したる時、大氣は之に觸れて露を生じ、又氣温氷點下なるときは霜を結ぶ。露霜は靜穩清朗の夜に多く、曇天強風の時に少し。

地面に近き大氣冷却すれば霧を起し、上層に昇りて冷ゆれば雲(極めて高きものを氷片なり)を生ず、雲は其形状によりて、卷雲・層雲・積雲・雨雲等の名あり。雲霧は、上昇冷却・觸接冷却等の外、温度異なる大氣の混合によりても起ることあり。



雲の水分子集りて落下するを雨といひ、氣温氷點下の時は、水分子は結びて雪となる。雨滴の氷結したるを霰とい

圖 電
明治四十一年
六月東京に降
りたるもの



ひ、數層の氷雪集りたる塊を雹といふ、雹は夏日の雷雨に伴ふこと多し。

雨量 凝結物には、斯の如く種類多しと雖、其等を總て水となしたる量を雨量といふ。雨量は、緯度の高低、海岸との距離、地勢、風向等の關係によりて、甚だしく異なるものなり。世界中、最雨量の多き所は、印度の東北部地方にして、最少き所は、サハラ沙漠より亞刺比亞波斯を経て蒙古に亘れる一帯の地方なり、我國は世界中雨量の多き部分に屬す。

圖 風力を
量るアネモメ
トル

各風の一秒
時間に於け
る速度は左
の如し
無風 0.1-0.5米
軟風 0.5-1.5米
和風 1.5-3.5米
疾風 3.5-6米
強風 6-12.5米
烈風 12.5-17.5米
暴風 17.5-25米
以上

第三節 大氣の運動

大氣の循環 風は氣壓の高き所より、低き所に向て吹くものにして、之を測るにはアネモメトルを用ふ。赤道地方

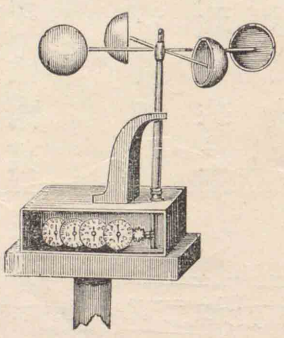
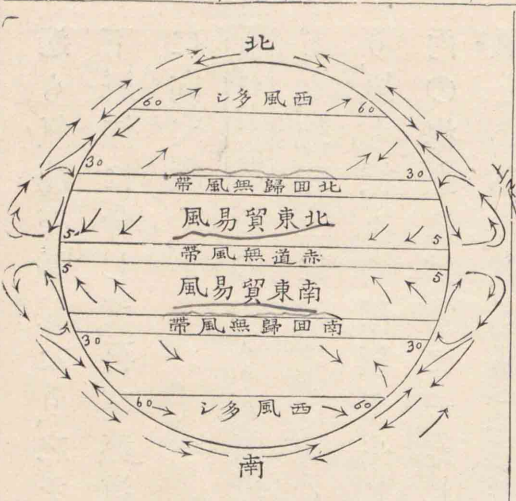


圖 大氣の
循環



は氣温高く、氣壓も亦低きを以て、風は南北の高緯度地方より吹き來ると雖、赤道附近は、此兩風の會合により、氣流常に靜穩なり、之を赤道無風帯といふ。赤道地方にて上昇せし大氣は、上層を極に向て流れ、漸次冷却下降するを以て、緯度三十度

邊も氣流亦靜穩なり、之を回歸無風帶といひ、此より大部は下層流に合して、再び赤道地方に向ひ、一部は極地に向て吹く。

風の種類

斯の如く、大氣は常に循環するものなれども、地球上には之を妨ぐる種々の原因あるにより、風も様々の種類を生じ、只赤道の南北、凡三十度内の海上には、常に一定して吹く風あり、之を貿易風といふ。貿易風は、地球自轉の爲に、稍方向を變じ、北半球にては北東風となり、南半球にては南東風となる。

地球自轉の影響は、總ての風に及ぼすを以て、風は正しく低氣壓の中心に向はずして、北半球にては稍左に偏し、南半球にては右に偏す、之をバ



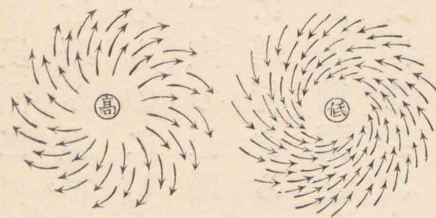
海陸風
海風陸風交代の時
は即ち朝風夕風なり

北半球にて風を背にして立つときは低氣壓は其人の左手の少し前方にありて南半球にては右手の少し前方にあり

イスバロット・フェレル兩氏の風則とす。

陸地は、受熱放熱共に海よりも早きを以て、大陸の周邊に當る地方にては、夏は海面より、冬は陸内より風の吹くを常とす、之を季候風といふ。之と同じく沿海にありては、晝間は海より陸に向て吹き、夜間は陸より海に向て吹く風を生ず、之を海風陸風といふ。

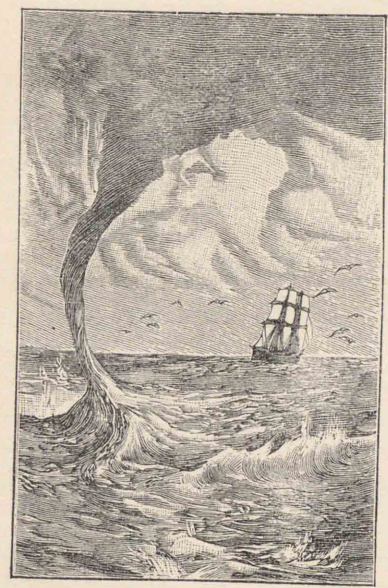
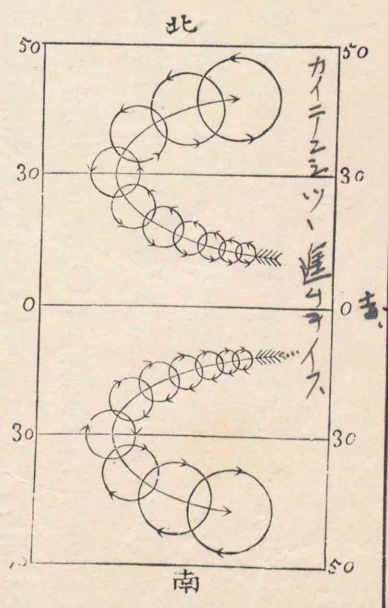
貿易風は常に一定し、季候風は時を定めて吹くものなりと雖、所によりては不時に起る旋風あり。旋風は、一局部の氣壓急に下りし時、周圍の大氣が螺旋狀をなして、此に流入するより生ず。又一部に高氣壓の起るときは、此より反對の旋動をなして四方に流出す、之を稱して逆旋風といふ。



北半球に於ける旋風と逆旋風

圖解 颶風の移動経路

所謂二百十日の頃、我國を襲ふ颶風も、旋風の大きなものにして、其中心は、殆ど一定の経路を採りて、次第に進行するものなり。颶風の前面と後面とは、風の方



圖解 龍巻の状

方向を異にす、故に我國を襲來するや、東南風先來り、中心來れば一時無風となり、次で前と反對の方向より、風吹き來りて天候の回復するを常とす。ツムジ龍巻等も、亦旋風の一種なれども、其直徑は極めて小なりとす。

第四節 天氣及び氣候

氣壓・氣温・雨・風・陰晴等、總て氣界に於ける其時の状態を天氣といふ。天氣は變轉殆ど定りなきが如しと雖、數年間觀測したる結果により、或る時季を通じたる、一定の有様を略知るを得べし、之を氣候といふ。氣候の根元は、緯度の高低より來ると雖、土地の特狀によりて甚しく相異り、殊に水陸分布の如何は、其影響最著しく、之が爲に大陸性氣候・海洋性氣候等の名あり。

氣候は時によりて變じ、天氣は所によりて異れりと雖、皆然るべき理由ありて變化を來すものなれば、其理を考究して、變化の模様を推察するを氣象觀測といふ。我國は、全國に百十餘個所の測候所を設け、東京に中央氣象臺を置きて、

我國は氣象區を分ちて十區となし朝鮮及び支那の一部を區外となす

各地に於ける一定時の報告を集め、以て天・氣・圖を製す。之に基きて天氣豫報を發し、暴風雨等の虞あるに當りては、特に警報を發して、其地方に警戒せり。

第五章 地勢氣候生物相互の關係

地形の状態は氣候を變化せしめ、氣候の差異は生物の有様を異らしむ。印度は著しき豊雨地なりと雖、ヒマラヤ山脈を隔てたる西藏は、甚しき乏雨地となり、ロッキ―山脈の西部は、溫和なる良氣候を有すと雖、同緯度の内部は著しく大陸性に傾けり。生物は、此等の状態に應じて異ると共に、又繁茂せる森林あるが爲に、凝結を促して其地の雨量を増加せしめ、溫度を中和ならしむることあり。されば地形・氣候・生物の三者は、互に密接なる關係を有せり。

生物界

生物は地形・氣候等との關係深きを以て、其分布は甚だ混亂せり、即ち動物は自、隨意の運動をなし、且卵子・種子等は鳥獸の媒介により、或は風力・水流等によりて、廣く分布せらるゝと共に、又一方には、氣候の差異によりて繁殖を抑へられ、先住者との競争は蔓延を制せられ、其他山脈・河海・沙漠等の如き、地理上の關係によりて遮らるゝこと多し。

此等現時の關係のみならず、地球は成生以來、幾回か地形・氣候等を變じ來りしが故に、生物も之に伴ひて消長し、一時旺盛を極めしものも、次第に衰微して更に進化せる新生物を生じ、彼地に絶滅せしものも此地に残り、變遷度を重ねるに従ひ、種類益、増加するに至れり。畢竟現今の生物界は此等の錯雜せる原因によりて、錯雜せる結果を生じたるものに外ならず

後編 人文地理

第一章 自然と人類との關係

地球表面の百分の八十八は人類の活動し得る區域なり

人類は、地球を住處として、其上に生存競争し、其上に盛衰興亡す。人は、他の動物と異り、智能を以て自然の抑壓に抗し、能く意に従ひて移動するを以て、其分布甚だ廣く、兩極地方の小部を除き、殆ど地球上到る處に棲息す。然りと雖、自然の拘束は、亦全く之を免るゝこと能はずして、地上の状態と人類の發達とは、密接なる關係を有するなり。

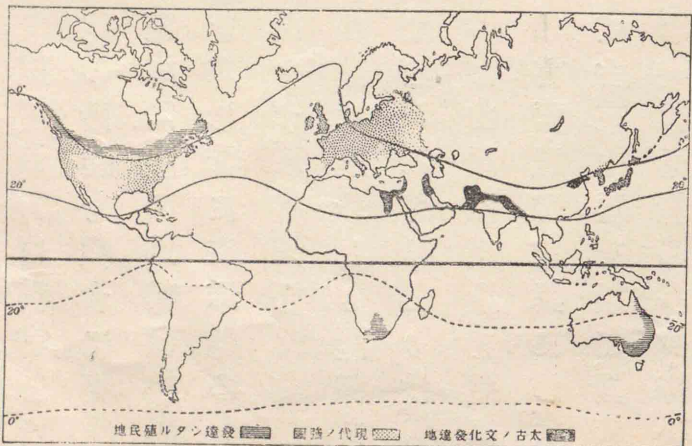
氣候と人類

人類は、能く氣候に適應する手段を講ずと雖、周圍に於ける生物の種類及び發育の相違は、自、職業及び心性の差異を來し、文化の發達に優劣を生ず。太古にありては、專、自然の恩惠に依頼せしかば、文明の發源は、多く熱帶又は

北部の寒冷地に住する種族が南部の種族を敗りて天下を掌握したること史上に其例多し

圖 古代の文明起原地及び現時の文明國と氣温との關係
圖中横線は寒季の等温線

亞熱帶の地方に見しと雖、熱地は天産豊富にして生活の容易なるより、自、安逸に流れて文化の發達に適せず。寒地は之に反し、天産少くして衣食に究迫せられ、殆ど智能を啓發せしむるの違なし、獨、溫帶の民は衣食の料に缺くるなきも、勤めざれば之を得ること難きを以て、自、勤勉競争の念を生じ、智能の發達最、顯著なりとす。されば世界優勝の人類は、溫帶の住民にして、世界の文明國は多く溫帶の地にあり。



地形と人類

陸地は種々の形狀を有し、海岸線は錯雜せる屈

諸威の海岸及び岩手縣の東部等は良港灣ありと雖背後に山地あるが爲に發達顯著ならず

我國の内外兩面に於ける都邑發達の比較



曲をなす。海岸線の延長大なるときは、自、良港灣多く、從て交通に便なると共に、海岸は人類生活の資源に富むを以て、自、人口稠密となり、各種の生業起り、文化の發達を促すに至る、然れども亦位置、氣候及び内陸の地勢は、其地の發達と大なる關係を有し、嘗に海岸線の状態のみによるものにあらず。

陸地の相貌は、人文の發達上著しき關係あり。山地は、特殊の天産、氣候等に支配せられざる限りは、人口概稀少にして生業極めて簡單なり。山脈は交通を阻碍すること甚しく、其兩側に於て住民の言語風習を異にし、特殊の發達をなせるは、屢、見る所にして、古來山脈を以て、國境となせる場合も甚だ多し、又山脈の方向は、雨量の多少、寒暑

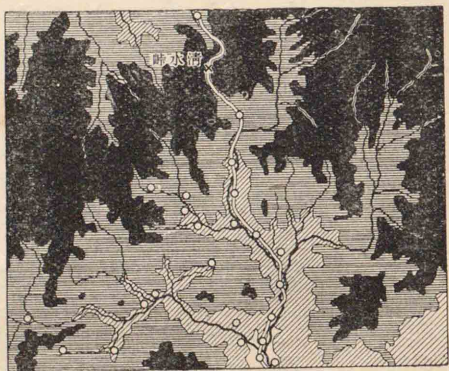
南米西部の熱帶地方に於ける要都は多く高地にあり

山村の一例 利根川上流

西藏、サハラ等の如きは自然の關係上發達を阻碍せらる

の差異、交通の便否を來し、直接間接に人類に影響すること少からず。谷は山間に於ける自然の道路となり、其古きものは概多少の平地を存するが故に、此に山村の發達を見る。

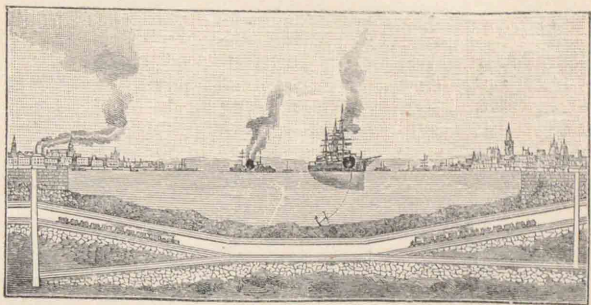
高原は、四邊より卓立して交通の便を缺くこと多く、殊に内部は雨量少く、



土地概不毛なれば、永久の發達に適せざる所多しと雖、山の如く凸凹甚しからざるを以て、河川の便を有し、地味肥沃なる所にありては、大なる發達を見ることあり、信濃盆地の如きも此一例とす。

平原は、交通路を開くこと易く、多くは河流ありて水運灌漑の利に富み、且海上との連絡も容易なれば、主要なる生業

人工を以て天然の障害を打破したる一例
英國の河底洞道



地となり、殊に氣候良好なる平原にありては、人を蝟集せしめ、定着せしめ、村落此に起り、都會此に勃興し、文明進歩の中心となれり。斯く人は自然の拘束を受くること多しと雖、人智益發達するに至れば、海面埋立、港灣修築、運河開鑿、森林造殖、排水工事等、人工を以て天然の抑制を打破し、以て生活に便するを常とす。

海洋と人類

海洋は、陸地の溫度を調和し、又濕氣を送りて、生物の發育及び人類の生活を助くるのみならず、或は國防上の境界となり、或は遠隔の地を連ぬる交通路となる、殊に海流は、氣候及び生物に影響を及ぼすと共に交通上に便否を來すこと多し。其他、海は人類に生業を與

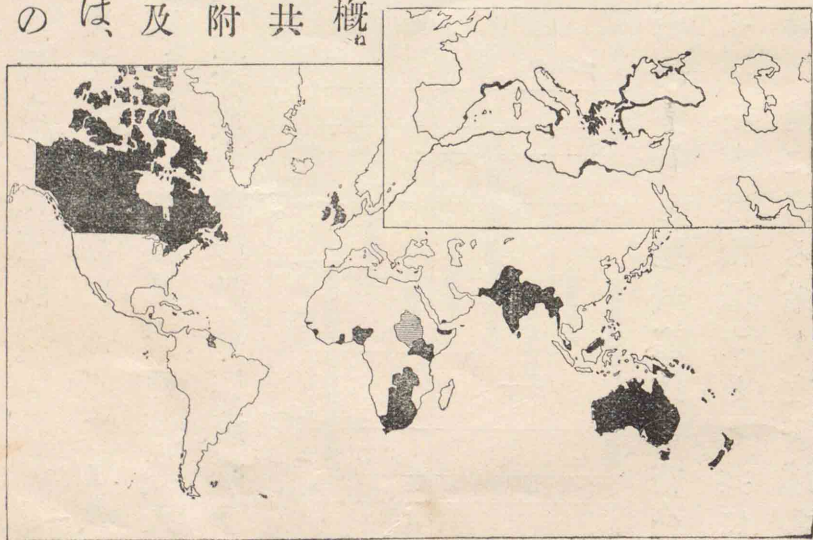
ナポレオン一世が陸軍を英國に送り得ざりしも元軍が我國を侵し能はざりしも海の爲なり

内海文明時代に於ける希臘の殖民地と現時の英國殖民地

歴史は分ちて河川文明時代・縁海及び内海文明時代・大洋文明時代とするを得

へ、海氣は人の健康を利し、加ふるに、海國の住民をして氣宇を快濶ならしめ、進歩の氣象に富ましむる等、有形無形の利益極めて大なりとす。

人智の發達低かりし時代にありては、海は交通上障礙のなるものなれば、世界の文明は、概源を河岸に開き、人智の進歩と共に、其發達は漸く縁海又は内海附近に及び、最後に大洋の周圍に及ぶを見る。遠洋航路の開けしは、近代に屬すと雖、今や造船航海の



術大に進み、大洋も湖沼と等しき觀あるに至れり。

生物と人類 人類は、衣食住の材料を、多く生物に仰ぐにより、

其狀態の如何は、産業の相異を來し、引いては風習性情等、人文發達に影響すること大なり。其他、或種の動物は騎乗の

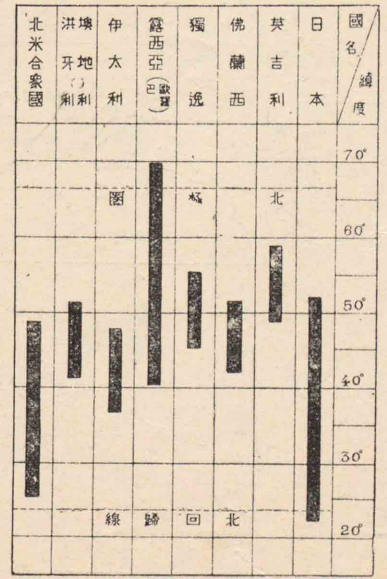
用を爲し、交通の機關となり、農耕の援助となり、植物は特殊の風景を現出し、以て美感

の涵養に資する等、人生に對する關係亦大なりとす。

日本の自然 我が帝國は、已に

氣候に於て最良の位置を占め、山岳多しと雖、鑛産此に富み、肥沃の平野亦決して少しとせず。我國は、山國なると共に、又海國にして、魚鹽の利多く、運輸の便に富み、殆ど人文發達の

緯度上に於ける日本の位置



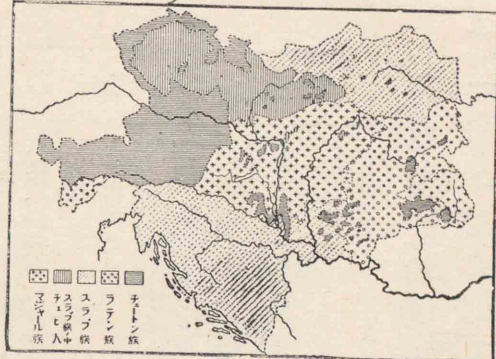
要素具はらざるなし。殊に風景に至りては、殆ど美の粹を萃め、到る處の海濱には、山紫水明の美を描き、行く處の山中には、奇岩怪石の勝を彫む。斯の如きの地、斯の如きの國、人文發達の顯著なる亦宜なりといふべし。

第二章 住民及び其狀態

人種言語宗教の類別

世界の住民は、風俗習慣のみならず、體格容貌に於ても千差萬別なりと雖、其本源は一種にして、永く住所を別にし生活を異にしたる結果、今日の狀態に至れるものなり、今其體質等を究めて分類するとき、は、通常人種一人民となす、即ち五種は、一本幹より出でたる、大枝の如く、一人民は、其間の所々に出でし小條枝の如し、大枝に多數の小枝あるが如く、各人種も亦數多の種族に分る。

圖 塊地利
洪牙利の人種
及び言語分布



りて變化を來し、或は土地の隔離によりて方言を生ず。世界の國語中、支那語は今日最、多數の人に使用せらると雖、方言の種類甚だ多く、英語及び西班牙語は、商業上廣く各地に用ひられ、佛蘭西語は、外交上及び交際場裡に用ひられ、獨逸語は、近時學術上に用ひらる。言語は、思想感情を媒介する要具なれば、其統一は、國家の經營上、國民の團結上極めて肝要のことなり。支那又は塊地利、洪牙利の如く、國中に數多の種族ありて、言語の混亂する國家は、統治上の困難を免るべからず、屬領の經營上、專國語教育を重ざる所以は、實に此に存す。宗教は、未開人の間にも、種々の信仰行はると雖、多く開化

殖民政策ニ

國語政策に大切

血液混合雜婚

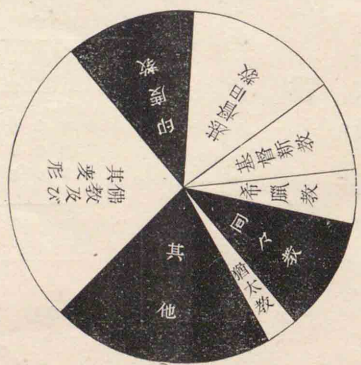
宗教政策

但れ教育の普及に依りて

圖 各宗教
信徒數の比較

敬神は我國の國民的信仰にして普通の宗教と異れども此信仰に基きて起りたる神道は宗教の形を具へて數種の教派あり

せる人民の間に行はるるものを舉れば、佛敎、印度敎、回敎、基督教、猶太敎等を重なるものとす。此等の中、基督教は舊敎、新敎、希臘敎の三大派ありて、廣く歐米諸國に行はれ、其信徒は世界人口の三分の一に餘り、佛敎は東亞諸國に行はれ、回敎は西南亞細亞、東南歐羅巴及び北部亞弗利加に行はれ、印度敎は印度に行はれ、猶太敎は諸國に散在する猶太人の奉ずる所なり。何れも、永き歴史を経て、國民精神と融和し、其根底容易に抜くべからず。



人口の密度

現今世界の人民は、約十六億に達し、其二分の一は亞細亞洲に住し、四分の一は歐羅巴洲に住す。人口は益、増加の傾あれども、其割合は各國等しからず、獨逸、和蘭、露西亞、丁

佛國にては死亡率の出産率に超過したることあり
 亞米利加合衆國は移民の多き爲に人口増加の割合頗る大なり

最近十ヶ年間に於ける人口千人に對する増加の割合

- 獨逸 一四八人
- 露西亞 一八八人
- 和蘭 一三一人
- 丁抹 一七三人
- 諾威 一三一人
- 西班牙 一三一人
- 佛蘭西 一三一人

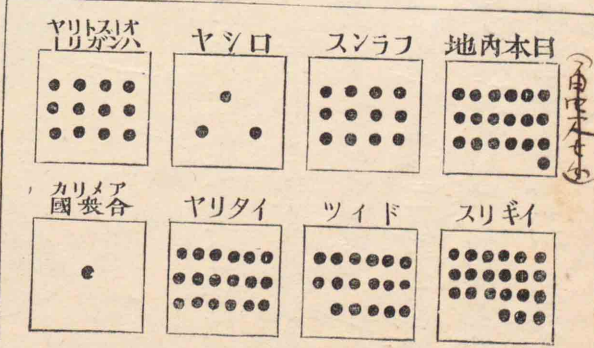
主要國の人口密度
 方形は一方里、二點は百人

日本、朝鮮、南洋群島、南洋羣島、南洋羣島

抹諾威及び我國等にては、増加率頗る大なりと雖、佛蘭西、西班牙等にては甚だ小なり。人口分布は、所によりて著しく異り、密度の最、大なるは歐羅巴洲にして、亞細亞洲之に次ぎ、最、小なるは大洋洲にして、歐洲の五十分の一に及ばず。
 (イタリヤ、二ヶヶ、三ヶヶ、四ヶヶ、五ヶヶ、六ヶヶ、七ヶヶ、八ヶヶ、九ヶヶ、十ヶヶ、十一ヶヶ、十二ヶヶ、十三ヶヶ、十四ヶヶ、十五ヶヶ、十六ヶヶ、十七ヶヶ、十八ヶヶ、十九ヶヶ、二十ヶヶ、二十一ヶヶ、二十二ヶヶ、二十三ヶヶ、二十四ヶヶ、二十五ヶヶ、二十六ヶヶ、二十七ヶヶ、二十八ヶヶ、二十九ヶヶ、三十ヶヶ、三十一ヶヶ、三十二ヶヶ、三十三ヶヶ、三十四ヶヶ、三十五ヶヶ、三十六ヶヶ、三十七ヶヶ、三十八ヶヶ、三十九ヶヶ、四十ヶヶ、四十一ヶヶ、四十二ヶヶ、四十三ヶヶ、四十四ヶヶ、四十五ヶヶ、四十六ヶヶ、四十七ヶヶ、四十八ヶヶ、四十九ヶヶ、五十ヶヶ、五十一ヶヶ、五十二ヶヶ、五十三ヶヶ、五十四ヶヶ、五十五ヶヶ、五十六ヶヶ、五十七ヶヶ、五十八ヶヶ、五十九ヶヶ、六十ヶヶ、六十一ヶヶ、六十二ヶヶ、六十三ヶヶ、六十四ヶヶ、六十五ヶヶ、六十六ヶヶ、六十七ヶヶ、六十八ヶヶ、六十九ヶヶ、七十ヶヶ、七十一ヶヶ、七十二ヶヶ、七十三ヶヶ、七十四ヶヶ、七十五ヶヶ、七十六ヶヶ、七十七ヶヶ、七十八ヶヶ、七十九ヶヶ、八十ヶヶ、八十一ヶヶ、八十二ヶヶ、八十三ヶヶ、八十四ヶヶ、八十五ヶヶ、八十六ヶヶ、八十七ヶヶ、八十八ヶヶ、八十九ヶヶ、九十ヶヶ、九十一ヶヶ、九十二ヶヶ、九十三ヶヶ、九十四ヶヶ、九十五ヶヶ、九十六ヶヶ、九十七ヶヶ、九十八ヶヶ、九十九ヶヶ、百ヶヶ)

人口密度の差異は、主として氣候地形及び生業の狀態等による。平野は密なれども、山地は疎なるを常とし、又農業地は密度小にして、工業地は大なるを常とす。東部亞細亞及び日本に人口密なるは、氣候地味の良好なるが爲にして、中部以西の歐洲に密なるは、工業に盛なるが爲なり。

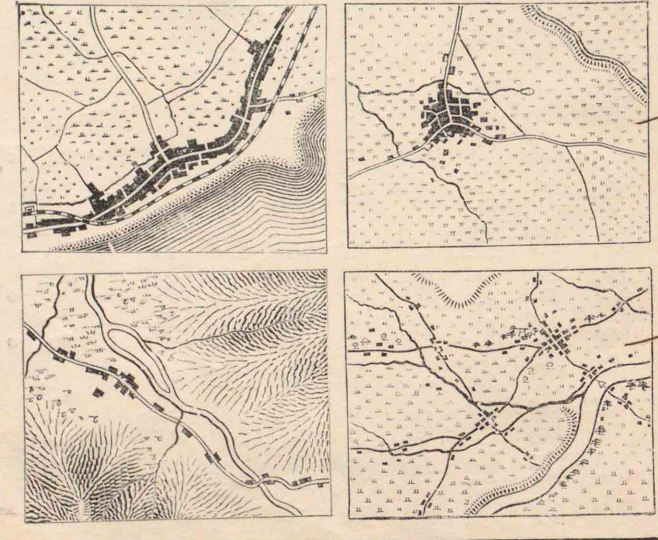
人民の聚落 人類の住處として、最、簡單なるは村落なり。村



亞弗利加の部落中には住家を環狀に排列して一社會をなすものあり

各種の村落
 斑村 密村
 列村 鏈村

落は人民定着の原始なれば、其發生地は最、自然の事情に支配せられ、先、水利ある河岸又は海岸の平地に起り、開拓漸く進むに従ひ、森林、山地に及ぶを常とす。村落を組成する人家の分布は、地形の關係と發達の動機とによりて、種々趣を異にするを見る、之を類別すれば概、左の四種となるべし。

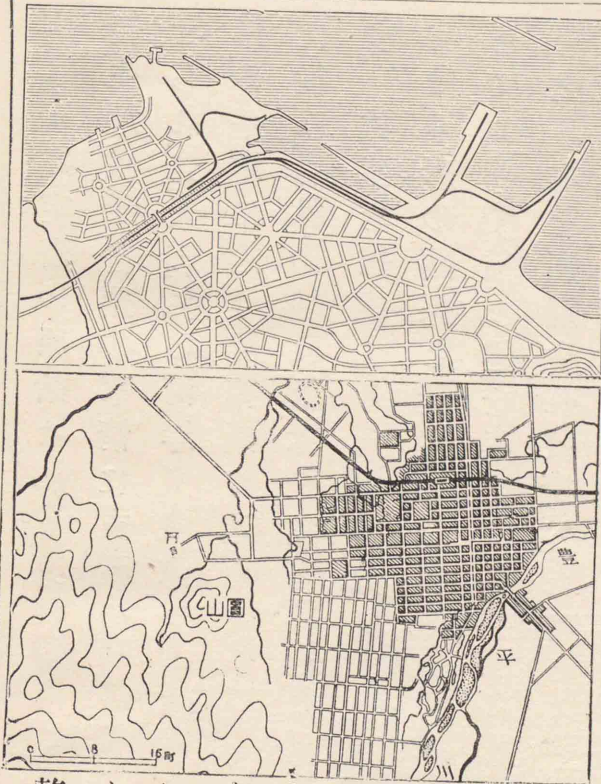


斑村 家屋密接せずして各所に散在す、農村に此例多し。
密村 家屋群集して一團を造る、古き農村には此例多し。
列村 家屋は道路に沿ひて連る、舊時の街道に此例多し。

都會の多少は必しも人口の多少によらず寧ろ住民の生業によるものなり農業地には村落多く工業地には都會多きが如し

足尾、平、横須賀等は單純なる原因に基くものなれども多くの都邑は各種の原因相混じて發達したるものなり

放射狀の都邑(關東州大連)と直交狀の都邑(北海道札幌)



鏈村 列村に似て家屋斷續せり、海岸溪谷等に此例多し。村落の發達せるものは、即ち都會にして人家多く密接す、都會の勃興を促す原因少からずと雖、殊に生産地、商業地、遊覽地、政治、軍備、學術、宗教等の中心地及び交通の要地等は、其主なるものなり。

古き都會中にも、我が京都等の如く、豫め之を設計して經營したるものありと雖、多くは自然に發達し來りたるものなれば、市街の整頓せるは、甚だ少

し。されど近時建設せらるゝ都會中には、放射狀、直交狀、同心圓狀等の如き、整然たる設計に成れるものあり、亞米利加合衆國の都會には此例多く、我が大連及び北海道の新市街の如きも、其著例とす。

日本の國民 我が内地は、人口の稠密なること世界第四に位し、國民は主として亞細亞人種に屬す。言語は、所によりて多少の方言ありと雖、文語に於ては殆ど全く同一にして、意志の疏通最、能く行はれ、國民的精神統一にして、國家の統一鞏固なり。國民固有の信仰は神道なれども、儒教と佛教とは、久しき歲月を経て、我が國民精神と堅く相結び、殊に佛教は廣く民間に行はる。

我が國民は、古く印度及び支那の文明を採りて之を同化し、近く泰西の文明を容れて亦之を理解し、能く兩者の長所

を調和し、歐羅巴種以外に立てる、殆ど唯一の開化民族として、萬邦の等しく仰望する所なり。

第三章 生業及び重要産物

文化と生業

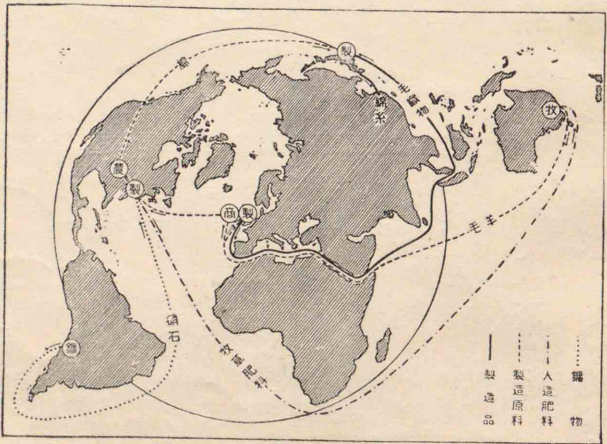
社會發達の初期にありては、専ら天産に依頼して、僅に衣食を支ふるに過ぎずと雖、漸く遊牧を行ひて家畜を財産となし、更に進めば、一定の土地に住して耕作を行ひ、收穫物を蓄積して生活の安全を計り、其餘剩あるに至れば、物物交易此に起りて商業の端緒を開く、斯く人智の進歩に伴ひ、更に農産、林産にも人工を加へ、種々の發見、發明之に加はり、特殊の職業生じて分業漸く起る。

分業は、始め一國一地方に起る現象なれども、交通發達して、世界を一團たらしむるに及び、愈、區域を廣めて世界的分

圖 農牧業の工相互關係の一例

原料品の輸出は貨物の實質を消費すと雖、製造品は安價なる原料を採り之に勞力を加へて高價とするものなれば、單に勞力を賣るに異らず、然るに勞力は無形無限なれば、國利の増殖は之に過ぐるものなく、即ち精製品は産物中最も進歩したるものなり。

業を生ず、此に於てか、各國特殊の技藝に長じ、特殊の産物を出すを以て、通商貿易も益、盛大となる、されば其國本となす所によりて、農・業・國・牧・畜・國・工・業・國・商・業・國等の別を生ず。農業國、牧畜國は、主として原料品或は粗製品を輸出して、精製品を輸入し、工業國は食料品、原料品或は粗製品を輸入して、精製品を輸出す。



世界の重要産物

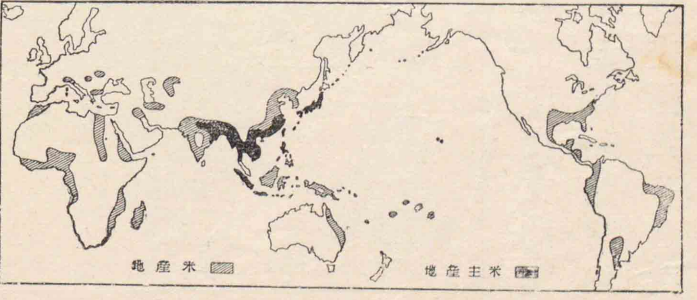
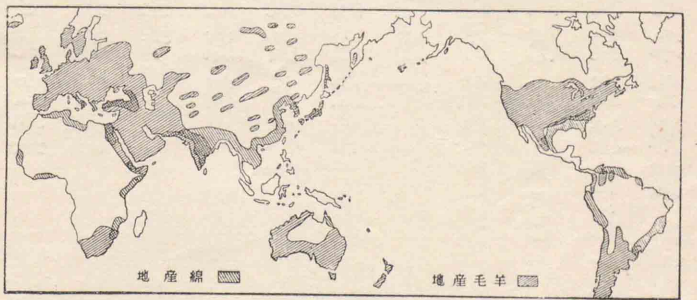
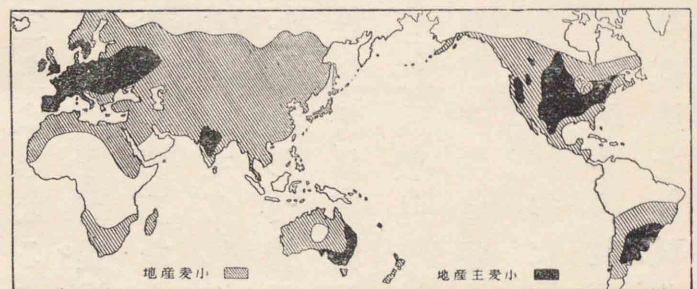
天産及び社會の事情等に關係すること多し。印度・支那・露西亞・加奈陀等は、世界の主要農産地にして、濠太刺利・亞爾然丁の如きは、牧畜地なり、又北米合衆國は、大農産國たると共

小麥・羊毛・綿の分布

北部獨逸及びアイ
ルランドの下民は
馬鈴薯を常食とし
我國西南部の住民
にも甘藷を常食と
するもの少からず

に、西部歐洲の諸國と共に工業も亦盛なり。

植物性の産物中、最、重要なるは、食料品たる小麦米等に於て、甘蔗、甜菜は製糖の料となり、茶、珈琲等は飲料に供す。衣服の料としては、綿を第一とし、麻類の需用も、亦廣く、其他用材として松、杉、檜の類を



重要品の産額比較

金銀殊に金は貨幣の原料として貴重なり現今主なる文明國は概し金貨本位制を採れり

始め、チーク、マホガニー等あり。動物性の産物にては、衣服の原料たる羊毛、蠶絲と食料品たる生肉、牛酪等とを、最、主要なるものとす。鑛産は用途廣く、種類も亦多しと雖、就中金、銀、銅、鐵、石炭、石油等は、缺くべからざるものなり。工業は最、發達せる社會に起るものなり。古は手工を主とし、其規模も甚だ少なりしが、蒸氣機關の應用に伴ひて、諸國に大規模の工業起り、昔時の狀況を一變せり。今日工業の盛大は、蒸氣力應用の結果なれば、石炭の豊富な土地は、工業も亦盛なり、されど、輓近

米	日本、支那、印度
小麦	ロシヤ、米國
甘蔗	日本、支那、印度
甜菜	ロシヤ、米國
茶	日本、支那、印度
珈琲	及埃、印度、米國
生糸	日本、支那、日本
羊毛	米國、南アフリカ
金	米國、メキシコ
銀	米國、メキシコ
銅	米國、メキシコ
鐵	米國、メキシコ
石炭	米國、イギリス
石油	米國

我が東京電燈會社は遠く山梨縣桂川の水力によりて電力を起し東京市中へ通ず

主要國の貿易

電氣應用の術大に進み、且炭價の不廉に伴ひて、原動力を水に仰ぐの傾向益顯著なれば、將來工業界の形勢、亦一變するの時あるべし。

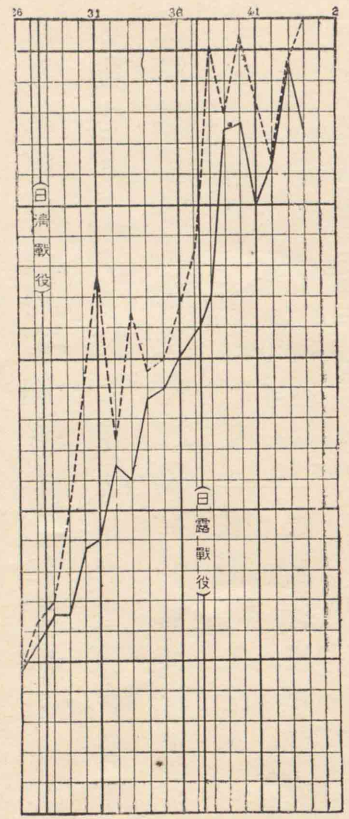
主要國の貿易 社會の進歩と交通の發達とは、自、世界的分業の興起を促し、各地の住民は、各自

の天質と土地の事情とに適する生業をなし、其生産物を貿易す。貿易を自然の發達に委ねて國家の干涉を試みざるを自由貿易といひ然らざるを保護貿易といふ。列強中、自由貿易を實行するは英國にして、他の諸國は概保護貿易を行へり。英國は位置の良好なると、廣き殖民地を有すると

國名	輸入額 (百萬圓)	輸出額 (百萬圓)	人口 貿易額
英 吉 利	6.805	5.570	275
獨 逸	4.770	4.050	144
亞 米 利 加	3.054	4.027	76
佛 蘭 西	3.640	3.240	176
和 蘭	2.720	2.190	818
白 俄 國	2.620	2.277	654
露 耳 牙 利	1.188	1.007	43
伊 太 西 亞	953	1.388	18
瑞 支 那	1.281	803	61
日 本	622	512	2
內 地	696	478	316
地	513	447	19

我國の主要輸出品は生絲・綿絲・羽二重・銅・石炭・マツ・茶等にして其購買國は清・米・佛を最とし主要輸入品は織綿・鐵米・織物・砂糖等にして英・米・印度・獨逸等より購入するもの最、多し

我が貿易額の増進
正線は輸出
點線は輸入



により、世界貿易額の五分の一を占めて、優に第一位に居り、人口の割合よりすれば、和蘭の貿易額を最、多しとす。
日本の生業 我國は、古來農を國本となすと雖、農産物の多く世界市場に上るは、茶あるのみにて、却て多量の米を輸入する傾を有し、機械工業の勃興は近年に屬

するを以て、尙遠く歐米の盛大に及ばず。貿易は著大の進歩を示すと雖、尙英國の十分の一に充たずして、其輸出品は、粗製品或は原料品を多しとす。されば我が國民は宜しく豊富の石炭と無限の水力とを利用し、將來益、工業の發達を圖

第四章 交通

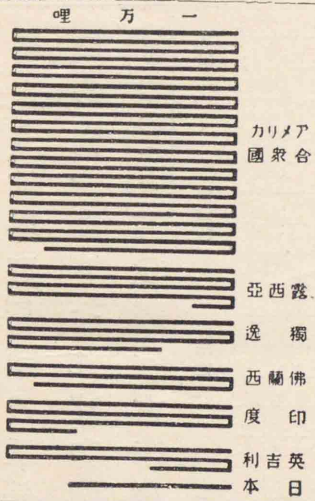
り、貿易發展の途を講ぜざるべからず。

線路及び機關

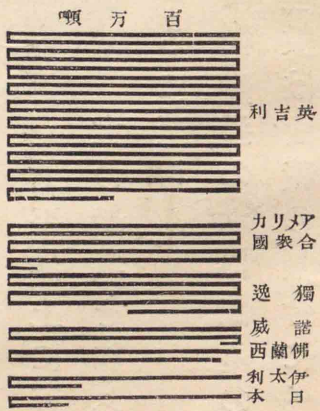
交通には、運輸と通信との別あり。交通線路は、道路、鐵道、運河の如き人爲に成れるものと、海洋、河流、湖水の如き自然のものとあり、何れも直線なることを主眼とすと雖、地形、風向、海流等に制せられて、屈曲するを免れず。運輸機關には、人畜及び機械等あれども、殊に重要なるを汽車、汽船とす。鐵道の敷設最も盛なるは、西ヨーロッパの諸國、及び北米合衆國にして、商船の噸數多きは英國を第一とし、世界全體の約半を有す。

交通機關として主要なる動物
牛馬、駱駝、馴鹿、驢馬、象、犛牛、駱馬、犬等
汽船は速力に於て優ると雖費用を要する點に於て帆船に劣るを以て今日尙帆船の用ひらるる範圍も頗る廣し

主要國の鐵道線路



主要國の商船噸數



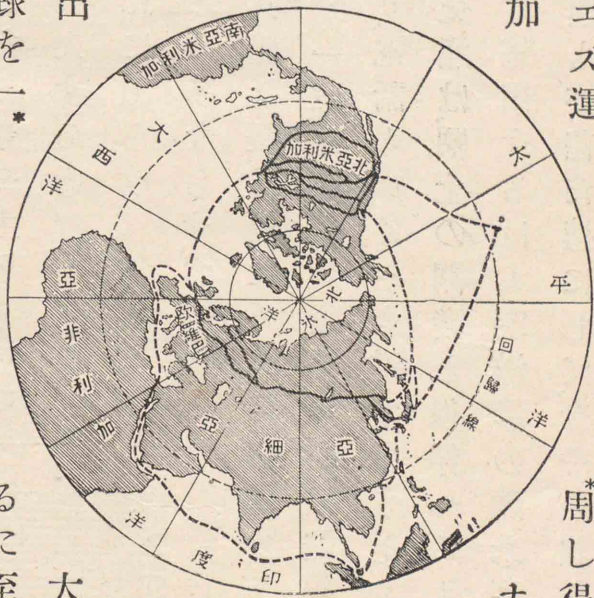
通信機關には郵便電信等あり、二者共に萬國聯合の同盟ありてより、世界的事業となり、今や主要の列國は、悉く之に加入するを以て、通信の利便昔日の比にあらず。電線は、獨陸上に於けるのみならず、水底にも之を敷設し、其總延長は優に地球の赤道を五十周するに足り、其中約六分の一は水底電線なり、近時は無線電信の利用も亦次第に擴り、電話も驚くべき進歩をなしたり。

世界の交通

交通は、國土の開發と相伴へるものなれば、之れが機關の能く整備するは、大西洋岸の歐米列強なりと雖、太平洋岸の發達も亦甚だ速にして、今や航路と鐵道とを利用せば、僅に三十餘日を以て、世界を一周し得るに至れり。

世界一の大交通系
 世界各國民の活動舞臺は今正に太平洋面及び太平洋沿岸に在り其咽喉を扼する我國は世界の交通上最も重要な位置にありと云はざるべからず

交通機關の發達すると共に、航路を短縮すべき運河の開鑿あり。スエズ運河は、亞弗利加迂回の當時に比して、歐亞の航路に四千八百哩を短縮し、航路のみによるも、二月を出でずして地球を一*



日本の交通 我國は海國なれば、運輸は獨鐵道のみに依るの必要なしと雖、先進國に比すれば、其哩數は面積の割合に多

周し得るに至りぬ、パナマ運河の開鑿、亦近きに迫るを以て、これが竣工の曉には、世界的交通の面目を一變し、太平洋上に至大の活氣を加ふるに至らん。

我國の郵船會社は噸數に於て世界第六の大會社なり

しといふべからず。我海運は、其噸數世界中の第七位云を占むる船舶を有し、殊に我國の位置たる、將來世界的交通の中心たるべき太平洋を目前に控へ、列國競争の舞臺たる亞細亞大陸に根據を有し、其鐵道は既に世界交通の一幹線たり、これ實に我國が、將來世界交通の中心地たるべき所以に外ならず。

第五章 國家

國家の組成

人類原始の狀態は、殆ど禽獸と相距ること遠からざりしならん。されど、人は永く孤立的生活をなすことなく、相集りて社會を造る。社會は單獨より漸く複雑に進むものにして、最初は治者被治者の別もなく、又一定の居所もなく、遊牧の生活を営みたりしも、人口次第に増加し、獨衣食

を天産のみに依頼し能はざるにより、一定の地に住して稼
穡に従ひ、首長ありて之を指揮するに至る、これ國家的結合
の端緒なり。要するに國家とは、一定の地に住する人民が、
共同の目的を達せんが爲に、造りたる獨立の社會にして、即
國民・國土・主權の三要素より成る。

國家の種類

世界の國家には、主權が君主にあると、人民にあ
るとにより、君主國・共和國の別あり。共和國は皆立憲政體
なれども、君主國には憲法なくして、君主の意志の儘に統治
するものあり、之を專制政體と稱す。

自治權を有する數國を結合したる國家を聯邦國といひ、
二個以上の獨立國が、共同の元首を戴くときは、之を聯合國
といふ。一國家が他の國家を保護し、其政治を指揮監督す
るときは、之を宗主國と名づけ、保護せらるゝ國家を保護國

北米合衆國獨逸
の如きは聯邦國に
して、埃地利洪牙利
の如きは聯合國な
り

と名づく。

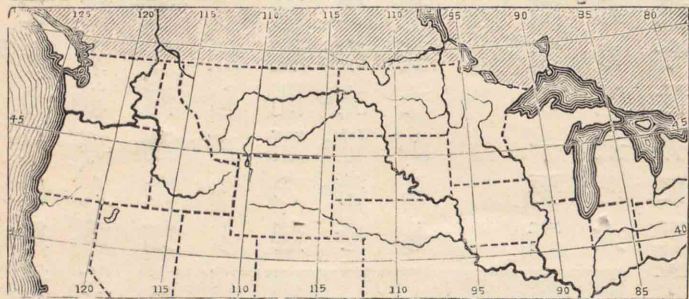
國家の境界

社會生活の初期にありては、其版圖明ならずと

河湖は水面の中央
線、山脈は最高點
の連結線を境界と
なすを普通とす
海面は海岸より三
哩以内を其國の領
海となし、此線外は
公海と稱し、何れの
國にも屬せず

緯線に
基ける人爲的
國境
樺太の林空
線

經緯線
に基ける國境
及び州界の一
例



雖、人文の發達に伴ひて
國土の價値を増し、國境
を重視するに至る。國
境は國の防禦線たる
共に、出入の門口なれば、
其狀態の如何は、國家の
消長に關すること大なり。
國境には、山脈、河湖、
海岸等の如き、自然的境
界を選ぶを常とすと雖、
適當の自然物を缺くか、

萬里長城の如きは
人為的境界の特例
なり

獨・自・
關の境にある
モレネ中立地

關東州、ジブラル
タル、メコン河上
流の英佛境界、白
耳義獨逸和蘭の國
境等には皆中立地
帶の設けあり

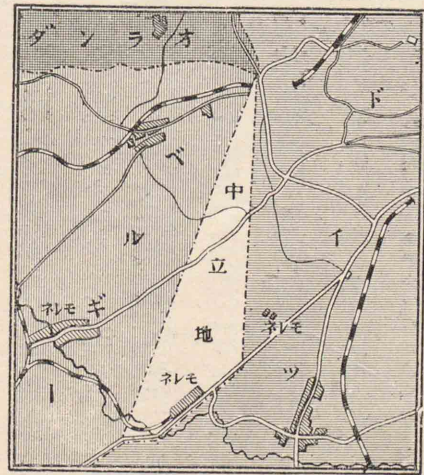
アンドラ・リヒテ
ンス・タイン・モナ
コ・サン・マリノ等
は名のみ獨立國
にしてアファニス
タン・波斯・土耳其
等は權力平衡上の
關係によりて獨立
を保つものといふ
べし

或は地理不明の所にありては、經緯線によりて之を定め、或は已知の地點を連結する等、人為的境界を設けることあり。自然的境界に於ても、河湖の如きは變遷常なく、山脈も確たる界線を定め難く、然らざるも他の理由によりて、國境問題の起ることあり、兩國間に中立地帯を設くる一目的は、即ち此憂なからしめんが爲なり。

國家の版圖

國土は國家の一要素

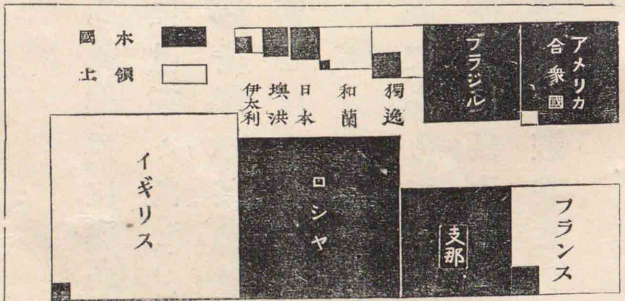
にして、其廣狹は、國力の消長と大なる關係を有す。現今世界に五十餘の國ありと雖、眞に獨立の實あるは二十餘に過ぎず。世界の邦國中、本土の最も廣きは亞米利加合衆國、露西亞支那等にして、本土は割合に狹



主要國
の本土と屬領
との割合

けれども、屬領の廣きは英國を第一とし、佛獨等之に次ぐ。屬地の目的は一ならず、軍事上の要地なることあり、商業上の利益又は產出物を主眼とすることあり、海底電線の中繼所なることあり、石炭の貯蓄所なることあり、然れども、最も主要なるは殖民地にして、其盛衰は、本國の勢力に著大の關係あるを以て、殖民政策は、列強の重視する所なり、今諸國の例に就て、殖民政策を類別すれば、凡そ左の三種あり。

- 1 本國政府の直接に管轄して、政權を分たざるもの。
- 2 自治の權を與へ、本國とは其國庫を別にするもの。
- 3 本國の一部と見做し、立法に參與せしむるもの。



加奈陀歐洲等は模範的殖民地と稱せらる、我が臺灣の經營も稱成功したるものならん

支那と暹羅とは我國の不對等條約國なり

英國殖民の發達は、比較的近時の事に屬すと雖、其領土は歐洲大陸の約三倍を占め、列強の上に卓立するに反し、西葡の二國は、古くより殖民したりと雖、廣き屬地は支離滅裂して今や當時を夢想するに過ぎず、

外交 國家は互に和親を維持し、國利を計らんが爲に、條約を締結し、外交官を派するを常とす。條約には種々あれども、通常は修好通商航海の條約を締結せる國を呼びて條約國といふ。條約は領事裁判權を有すると否とにより對等或は不對等と呼ぶ。

外交官の主なるは、大使・公使にして、駐割國にありて本國を代表し、外交事務を司る。又本國の通商航海に關する利益を増進せしめんが爲に、重要な地には領事官を駐在せしむ。領事官には總領事・領事・名譽領事等あり。

日本の國家

我國は、東洋に於て最早く憲法を制定し、且近時



著しく版圖を増大したり、海外に領土を有せずと雖、國民は廣く活動地を世界に求め、今や在外日本人の數は約三十萬の多きに及ぶ。我國の條約國は現時二十四國にして、其七國には大使を駐在せしめ、他は概、公使を派遣し、又は近國駐割の大使、公使をして兼攝せしむ、斯くの如き國土國民を統治し給ふは、萬世一系の天皇にして、此を以て古來外國の侮を受けしことなく、國體の尊嚴、國民の忠勇世界に比なし、今や國運隆々として、世界八大強國の一に數へらるゝに至れり。

圖 日本人の外國に於ける事業
米國テキサス州の米作

我が條約國

亞細亞洲

支那暹羅

歐羅巴洲

英吉利佛蘭西

獨逸奧地利

牙利伊太利露

西亞瑞典諾威

和蘭白耳義西

班牙葡萄牙瑞

西丁抹希臘

北亞米利加洲

北米合衆國墨

西哥

南亞米利加洲

伯刺西爾智利

秘露亞爾然丁

哥倫比亞

第六章 主要國の國力比較

國家は、土地の狀態と、其活用の如何とによりて、優劣を來すものなれば、國力の強弱は、獨、國土の廣狹・人口の多寡にのみ與るものにあらず、財政・兵備及び文化の程度等は、皆之が要素たり。

財政 國家の經營に要する費用は、素より國民の之を負擔すべきものにして、其負擔の大小と、之に對する力量とは、國民の富力程度によるものなれば、生産の多少は、其國の財政に關すること大なり。

國家の收入する金額を歳入といひ、支出する金額を歳出といふ、世界の中、歳出入の最、多額なるは露西亞にして、人口に對する割合の大なるは佛蘭西なり。國家が、若し經常歳入

主要國の財政比較表

を以て、支辨し得ざる用途の起るときは、國債を起して一時之を借入ることあり。國債の必要は概、戰役・事業經營・軍備擴張等の爲にして、我國も近時戰役屢起り、軍備を擴張し、事業を經營する等により、國債額著しく増加して、其全額約二十六億圓の多きに上れり。

軍備 世界の列強は、一方に生産的競争

の盛なると共に、一方には陸海軍を擴張して、互に武力の強大を競ひ、武器の精銳亦前日の比にあらず、殊に海軍は、平時と雖、常に通商航海等の保護に必要なれば、外國貿易の發達せる國家は、多く強盛なる海軍力を有せり。

世界の中、陸軍常備兵の最、多きは露國にして海軍力は英

國名	歳入 (百萬圓)	歳出 (百萬圓)	國債 (百萬圓)
露西亞	2.805	2.590	9.014
佛蘭西	1.754	1.754	13.017
英吉利	2.056	1.719	7.330
亞米利加	1.402	1.308	5.531
亞細亞	1.462	1.462	2.278
伊太利	1.073	1.029	5.231
日本	570	570	2.670

主要國の軍備一覽表

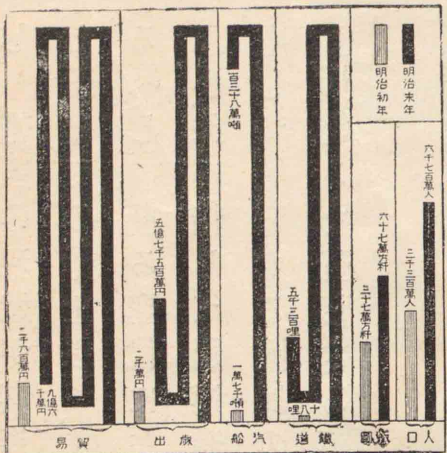
國名	陸軍		海軍主力			
	平時兵員	戰時兵員	戰艦		巡洋艦	
露	120	450	10	14	16	12
西	56	300	21	29	36	27
佛	62	400	29	43	47	23
獨	25	80	56	90	106	78
英	24	120	8	9	22	11
伊	9		31	45	32	25
亞	23	120	13	19	30	20
合						
日						

我國歲入の大部は地租・所得税・營業稅・酒稅・煙草專賣利益・鐵道益金・郵便電信收入・印紙收入等なり

國最も強く、佛蘭西之に次ぎ、北米合衆國・獨逸等も亦急劇なる發達をなしたり。『日本の國力』我國は、歐米強國の伍班に列したりと雖、學術・産業・貿易等、彼等と拮抗して尙遜色なき能はず。國費は約五億七千萬圓に上ると雖、之を英佛等に比すれば三分の一に足らずして、其負擔力も亦彼等の餘裕多きに若かず。是を以て見れば、帝國の國力は、未だ彼等の優勢なるに若かず、國民たるもの宜しく努力奮勵せざるべからず。

結論 世界に於ける本邦の地位

明治年間に於ける本邦の進歩



吾人は、章を追ひ節を重ねて、已に列國の趨勢と本邦の狀態とを究め、我が國勢が、尙歐米列強に及ばざること少からざるを知ると雖、翻て思ふに、彼の現在に至るや、多數の星霜を重ね來りし結果にして、我國の著しく進歩せしは、十數年來のことなり。試に見よ、國費は十年以前に比して、約二倍に上ると雖、國民は能く之れが負擔に堪へ、貿易額も、亦日清戰役以前よりは五倍以上の増加をなして、益、産業の發展を示し、其他鐵道に、商船に、或は軍備に、一として異數の進歩をなさざるはなし。

斯の如く、我が帝國の進歩は、其速度殆ど萬邦に比類なく、我が國民の精力は、斷じて歐米人士に劣ることな

し。帝國の現状が、其産業・富力に於て、尙彼等の背後に立つと雖、今日の勢を以て、勇進弛むなくんば、將來の進運窮なかるべし。斯る聖代に生れたる吾等は、其幸福の多大なるを思ひ、益勵精して國運發展の途を講ぜざる可からず、此機に處して健剛なる國民の養成に當るべき者は、更に其任の重且大なるを覺らざる可からず。

教師範
教科

最近地理概説 終

附 錄

小學校
に於ける

地理教授法

地理とは何ぞや

地理とは何ぞや

地理とは地球の表面を以て表面の気候、植物、動物、人文、及びその相互の関係を研究する学也

地理とは地球の表面を以て表面の気候、植物、動物、人文、及びその相互の関係を研究する学也

地理とは地球の表面を以て表面の気候、植物、動物、人文、及びその相互の関係を研究する学也

地理とは地球の表面を以て表面の気候、植物、動物、人文、及びその相互の関係を研究する学也

地理とは地球の表面を以て表面の気候、植物、動物、人文、及びその相互の関係を研究する学也

地理とは地球の表面を以て表面の気候、植物、動物、人文、及びその相互の関係を研究する学也

国民教育の中心は地理科の位置

小學校に於ける地理教授法

第一章 教授の目的

總て教授は、教育の手段なれば、道德的品性の養成を幫助し、生活上に必需なる資料を與ふるを以て、主眼とせざるべからず。されば、小學校に於ける地理教授は、科學上より見たる地理學と、稍趣を異にし、教育全體の目的を達する手段として、其一部を分擔するに過ぎず。

教則 地理ハ、地球ノ表面及人類生活ノ状態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ、又本邦國勢ノ大要ヲ理會セシメ、兼テ愛國心ヲ養成スルヲ以テ要旨トス

教則の示す所によりて、地理教授の目的を理解するを得べしと雖も、更に之を細別せば左の如し。

地球の表面を研究する事は、
地球の表面は存在するが、
地球の表面は存在するが、

地球の表面は存在するが、
地球の表面は存在するが、
地球の表面は存在するが、

郷土とは狭く見れば
兒童の觀察の及ぶ範
圍にして廣く見れば
本國なり

郷土
一、旅行が、あつた、
田

地球表面の一斑 形状運動水陸氣候生物其他自然現象の一斑
 人類生活の一斑 政治都會交通産業風俗其他人文狀態の一斑
 本邦國勢の概要 日本の國土及び政治産業交通武備等の概要
 愛國心の養成 本國に對する知識上及び感情上よりの教育

是に由て之を觀れば、地球の表面は廣く、邦國は多しと雖、各地不遍の知識を得しめんとするにあらず。先、郷土を授けて、地理的智識の基礎を作り、之を中心として、世界の概要を理解せしめ、且人類生活に關係ある、天文・地文・生物及び人文的事項の概要を知らしむるにあり。

總て事は、知るによりて之を愛するの心を生じ、知ること益深くして、愛するの念愈濃なり。人の舊里を懐ひ、郷國を忘れざるは、一木一山、皆己れの舊故なるが故なり。斯る愛郷心は、愛國心の基たるものにして、本國地理の教授に、最力を

用ひざる可らざるは此點にあるなり。

第二章 教授の材料

撰擇 地理教授の目的を達せんが爲に、如何なる材料を撰擇すべきかは、最重要なる問題にして、其標準は、左の法則に従ふを要す。

一、兒童の類化力に適應せしむべし 兒童の心力發達に適合せしむることは、最緊要なれば、教材の難易分量等に注意し、且兒童と關係深くして、想像し易きものたるべし。

二、實際生活に資するものたるべし 教授の目的は、學者の養成にあらずるが故に、學科として輕重を定むるのみならず、將來の實際生活と、關係の親疎を考へて取捨すべし。

三、直接關係の親疎を忖度すべし 學科上よりは、亞弗利

外國の町は、
全体と、
単位と、
また、
また、

加洲も亞細亞洲も均等の價值を有すれども、小學教科に於ては、關係の輕重を考へ、材料の取捨、繁簡に注意すべし。

四、郷土の關係によりて斟酌すべし。地理教授は、類推の場合多きを以て、其基礎的觀念を、正確に把住せしめ、地圖と實際との關係を、能く會得せしむるは、極めて必要なことにして、此等の教材は、郷土なること勿論なれば、其狀態に應じて、教材も亦斟酌せざる可らず。

此等の諸項は、教材の撰擇に向て、大に注意を拂ふべきことにして、教則に示さるゝ所は左の如し。

教則 尋常小學校ニ於テハ、本邦ノ地勢氣候區劃都會產物交通等並ニ地球ノ形狀運動等ノ大要ヲ理會セシメ、且滿洲地理ノ大要ヲ授ケ、兼テ本邦トノ關係ニ於テ、重要ナル諸國ノ地理ニ關スル簡單ナル知識ヲ得シムベシ。高等小學校ニ於テハ、各大洲ノ地勢氣候區劃交通等ノ概略ヨリ、進ミテ本邦トノ關係ニ於テ、重要ナル諸國ノ地理ノ大要、及本邦ノ政治經濟上ノ狀

態、並ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ知ラシメ、又地文ノ一斑ヲ授クベシ。

排列 已に撰擇したる教材は、之を各學年各學期及び各週に配當し、教授の豫定案を作らざるべからず、教材の排列上、在來の方案を見れば、左の二種あり。

分解法 總體を授けて後、其部分に就て教授するもの。

總合法 一部分より全體に、小より大に、進行するもの。

分解法によれば、先、地球全體の事を授けて、然る後各國に及び、更に其小區分に及ぶべきものにして、智力の發達上より、不自然たるは明なり。總合法は、前者に比すれば、稍、自然的なれども、地球の觀念なきが爲に、世界の國々を理解し能はざるの欠點を免れず、故に兩者を折衷したる他の一法あり。

分解總合法 本國より世界に及び、次で其部分に及ぶ。此法によれば、本國を最初に授け、次で地球を概觀し、終りに

其部分たる各國を授くるものなり、我が小學地理は、即ち此排列法によりたるものにして、智力發達の順序には、最適合したるものなるべし。

此他、本國外國地球等の總てに通じ、簡より繁に程度を高めつゝ、毎年同一のことを繰返し行く**圓周法**あり、又中心たるべき學科を定め、之に結合して進行する**結合法**あれども、前者は興味を減殺し易く、後者は順序の混亂を免れ難く、共に適當とは稱し難し。

進程 教材の排列と共に、教授者の考慮を要するは、之を進行せしむべき方法にして、大體左の三種に分る。

彙類體……………山誌・水誌・處誌等に分類一括するもの

區劃體……………自然的…山河自然の状態により區劃するもの
……………政治的…政治上の區別に従ひて教授するもの

帝國統制年鑑
三冊
五十八

旅行體……………想像的旅行をなしつゝ、教授するもの

彙類體の小学校に適せざるは勿論にして、旅行體は、興味を興へ易しと雖、道路等は、實際に無きものがあるが如く想像せしむる場合多く、且智識散漫に流るゝ缺點を免れず。區劃體は、現時の教科書に用ひらるゝ方法にして、最適當のものなるべし、故に先、自然區劃によりて幾多に區分し、其區域内の政治區劃を知らしめ、順次一區劃内の地理的事項を授け、處誌を授くる場合の如きは、時に旅行體の方法を採るか、或は他の方法にて教授したるものを、旅行體にて練習せしむる等は、其方法を得たるものなるべし。

第三章 他學科との關係

教授は、教育の手段にして、各學科は、其一部たるを知らば、教

學科は互に相關聯して一體不離の一有機體たらしむべし

ローリー氏曰く地理は人類の生活人類の事業に關係を有する諸科を平均調和したる學科なり

材の撰擇は可にして、其排列も亦適當なりと雖、各學科の結合を缺くに於ては、其効果の收め難きことを覺り得べし、故に、教材撰擇上、大に留意すべきは、他學科との關係是なり。地理の教材は、人的教科と、物的教科との、兩方面に關係するが故に、地理科は、人事界と、自然界とを、連結すべき重要な位地あれば、其任務を、完うせざる可らず。

人的教科との關係

人的教科の、最主要なるは歴史科にして、歴史の舞臺たる、土地を教授するは地理科なれば、互に統一關聯して、効果の圓滿を期すべし、歴史は、地理によりて活氣を帶び、地理は、歷史上の事實と伴ひて益、興味を加ふるものなり、殊に各國の風土、國勢を知りて、益、愛國心を起さしめ、風俗、産業を見ては、反省奮勵せしむる等、修身科との關係亦淺からず。斯く地理は、人的教科との關係密なりと雖、地理は

學科は互に連絡統合を謀ると共に學科固有の性質を無視すべからず

地理にして、歴史は歴史なり、各本分を逸して、地理教授が、歴史の教授と變じ、主客顛倒するが如き事なきを要す。

物的教科との關係

一方に人的教科と關聯せしむると共に、又他方に物的教科との結合を計らざるべからず、即、産物の列記、暗誦の如き、興味もなく、効果も少しと雖、其生産物が、如何なる材料を以て、如何なる方法によりて、成るかを説明し、理科との關係を密ならしむれば、其効果も顯著にして、且實用的なるを得べく、又距離、高度等の如きは、算術との關係によりて、益、明確なるを得べし。

斯く地理は、自然と人事との、兩方面に關係するが故に、其變化も時々起り、其等の記事は、屢、新聞に現はれ、話題に上り、或は旅行の爲に觀察せし事項、日常の用具たる品物等も、亦之を捕へて、地理教授の材となし、學科と日常生活と

教授の目的は記憶にあらずして能く消化し活用せしむるにあり

の關係を密ならしむるも、極めて肝要の事なり。

第四章 教授の方法

教授の階段

教授は活事業なれば、時と事情とによりて、變通せざるべからず、決して一定の鑄型を固守すべきものにあらず、又全く無法則のものにあらず、千變萬化の中に、自一般に通ずる法則あり、即ち教授の階段是なり。教授は、學者によりて多少の異説なきにあらざれども、ライン氏の唱導せる、**豫備・提示・連結・總合・應用**の五段教授は、最教授に適したるものなるべし。

教段の應用

五段の教授は智能を收得せしむる、一般の順序なれども、只教授者の精神に保留すべきものにして、決して機械的に行ふべきものにあらず、されば學科の種類と、教授

教段は骨格のみ之に血肉を與へ精神を入れて初めて活教授となる

甲山と乙山とを比較し一川と他川と比較する如きは概念構成の爲にする比較にはあらずして觀念を明瞭ならしむる爲の對照に過ぎず

の事項とにより、各段の輕重を斟酌し、教授の主目的を達するを要とす、別に豫備段を置かずと雖、豫備の實を得れば不可なく、連結段として存せざるも、其順序が自然之に叶へば可なり、殊に一時間毎に、正しく五段の形式を踏むが如きは、全く無用の事にして、只便宜其精神を以て、教授に當るを以て足れりとす、若し學科を撰ばず、場合を論ぜず、偏に五段の形式を現はさんと欲するが如きは、却て教授の眞意を、誤まれるものといふべし。

地理と教段

五段教授の意義斯の如し、之を地理科に就て見れば、天文・地文或は人文上の因果的關係等の如き、理法を授くる場合に於ては、概括的觀念を與ふる必用あるが故に、五段の順序を要するは勿論なりと雖、多くの場合に於ては、記載的事項を授くるものなれば、教授の大部は提示にして、抽

象すべき概念といふべきものなし。されば概念を構成すべき總括段と、之を抽象せしむる爲の連結段とを、殊更に設くる必用なく、豫備提示應用の三段を以て足るべし。されど、本來の意義を稍變ずれば、地理にも、五段の形式を踏み得ざるにあらず。

豫備 教授すべき目的を指示し、舊觀念を分解整理して授くべき智識の收得に便す。

提示 地圖を示しつゝ、或は説話法により、或は問答法によりて新事項を授く。

連結 一般に通ずる理法を抽出するにあらずして、教授する山川人口及び生産の多少等を、舊觀念と對比す。
總合 概念の構成にあらずして、位置地勢交通等に分ちて授けし事項を概括せしむ。

應用 略圖を描かしめ、或は想像的の旅行等によりて所

得の智識を自由に運用せしむ。

教式 教師が、實際に教材を處置すべき方式を稱して教式といふ。教式は大別して二となす。●教師のみ活動して、兒童に受容せしむるを**注入主義**といひ、●兒童自身に或る智識を發明せしむるを**開發主義**といふ。二者共に特長ありて、其一に偏すべきものにあらず、一時は**注入主義**に偏する弊を避けんが爲、極端に之を排斥したりと雖、地理の如き、具體的の事項を授くる學科にありては、全く之を無用視すること能はざるは明なり。されば、能く兩者の長所を採りて、運用の妙を得るを、適當の教授といふべし。

注入主義に示物式、講演式あり開發主義に問答式課題式あり

第五章 教授上の注意

地圖地球儀 地理的智識の基礎は直觀にあれども、其觀念を

基として、地圖により類推せしめざる可からず、故に地圖は、地理教授の出発点にして、又終結點なれば、其必要なるは論を俟たず。地圖に就て、最要の注意は左の諸項とす。

● 教授用の地圖は、密ならんよりも、簡單明瞭にして想像し易きものたるべし、即ち學ぶ爲にあらざして、教ふる爲の地圖なるを要す。

● 地圖の比例尺は一定なるを可とす、若し比例尺の異なる地圖ならば、同一の比例尺になれる比較圖を添ふべし。

● 地圖の位置方位は、正確ならざる可からず、即ち美なるを要とせず正しきを要とす。

地圖を兒童に描かしむるは、教授上有益なる一方便なり、されど、地圖の作製は、地理教授の目的にはあらざるが故に、之が爲に多數の時間を費し、又綿密なることを望むは、要なきことなり。

● 略圖を描きて觀念を正確ならしめ、記憶を永續せしむる方便とすべし。

スタウデル氏曰く地理は書くのみにて得らるゝ智識にあらざり、主に説明によるなり、地圖は説明を助くるなり。

● 位置方位は正確なるに勉むべし、即ち略圖は可なれども粗圖は不可なり。地球儀は、地圖と共に、地球全體を想像する上に於て、必用缺く可らずと雖、兒童の腦力は單純にして、地軸・經緯線等の假想物を、實在の如く考へ、却て誤りたる觀念を得易きものなれば、教授者は、此點に十分の注意を拂はざる可らず、されば、地球儀を最初より示すは宜しからず、先、郷土の直觀的智識より、地圖上の想像に訴へ、進みて地球全體の想像を要する時に至り、初めて之を示すを可とす。

繪畫寫眞標本

繪畫・寫眞・標本等は、講話の能はざる所を補ひ、想像を助け、正確なる觀念を與へ、且興味を喚起し得るものにして、教師が教授の能を發揮するは此等の教授用具に與る所多きを以て、其撰擇使用には大に意を用ふるを要す。

● 一時に過多に示すは却て害あり。

- ① 提示物は、勉めて明白なるを要す。
- ② 提示物は、教師之を指導して其要點に着目せしむべし。
- ③ 提示物は、精密に觀察せしめ、正しき觀念を構成せしむべし。
- ④ 勉めて多方面の覺官を用ひしむべし。

遠足距離

地理の教授上最必要なるは、地圖を讀むことを熟練せしむるにあり。山川平原を直接觀察せしめ、事實と地圖との觀念を正確ならしむるにあり。地圖を讀む能はざる兒童に對し、初より書物のみにて、地理を授けんとするが如きは、甚しき誤にして、此教授に甚だ有効なるは遠足なり。

- ① 遠足は豫め腹案を定め、授くべき事項、授くべき方法を考へ置くを要す、漫然散步するも其効少し。
- ② 遠足にて見たる自然の状態は、砂粘土等にて作り、又は平面圖に表はす等の工夫を凝らし、地圖の意味を十分に了解せしむべし。
- ③ 距離の實際的觀念を得しむることを力むべし。

距離の地理に必用なるは、年代の歴史に必用なるが如し、故に地理教授の際は距離の觀念を、常に有せしむることに注意すべし。

- ① 地圖の比例尺に對する觀念を明確ならしむべし。
- ② 里哩等總て算術にて授けし名數は、之を實際に知らしむべし。
- ③ 距離と時間との關係を知らしむること必用なり、故に鐵道航路等の延長は、其時間・日程等にて授くるも一法なり。

暗記

地理の教授には、暗記せしむる事項少からず。暗記は、腦力を費すこと大なれば、兒童の腦力と、効果の多少とを計り、教授者は、多大の注意を以て、之を課せざるべからず。

- ① 重要なもののみ止め、無用の暗記に腦力を費さしむべからず。
- ② 一時に、多くの事物を暗記せしむべからず。
- ③ 略圖を描かしめ、又は比較表等によりて、暗記を助くべし。
- ④ 暗記せし事項は、屢之を利用すべし。

教科書 教科書は、整然たる系統に整頓したるものなれば、教授の際に於ける講話の事項は、徹頭徹尾教科書の順序に拘泥すべきものにあらず、殊に教科書は、全國一般兒童の爲に編纂せしものなれば、郷土の關係によりて、之を補ふの必用あり。然りと雖、全々教科書に拘泥するは弊あると共に、又徒らに順序を轉じて錯雜せしむるは、更に大なる弊害あり、宜しく教科書の奴隸たることなく、又之を無視することなく、適宜に活用するの考なかるべからず。

● 教授の分量は、過多に失すべからず、必ず復習の餘裕を、存しおくことに注意すべし。

● 郷土の關係上、教科材料を補ふ場合には、豫め分量を定め、適當に之を配當すべし。

メ		ラップ族 (Laps).....62
名譽領事.....84		ラテン族 (Latins).....62
墨西哥灣流 (Gulf Stream).....40		ラプラス (Laplace).....4
メコン (Mekong) 河.....82		ラブラドル (Labrador)18
メラネシヤ族 (Melanesians).....63		ラブラドル海流.....40
モ		蘭領東印度 (Dutch East Indies).....83
木星.....2.3		
蒙古.....46		
蒙古人種 (Mongolian race)62		
蒙古族 (Mongols).....62		
モナコ (Monaco).....82		
モレネ (Moresnet)82		
ヤ		
屋島.....34		
耶馬溪.....25		
ユ		
雪.....46		
遊星.....1.4		
猶太教 (Judaism).....62		
猶太族 (Jews).....62		
夕風.....48		
郵便.....77		
ヨ (ヤウ)		
熔岩.....19		
餘震.....22		
横須賀.....68		
洋島.....32		
淀川.....23		
羊毛.....72.73		
歐羅巴 (Europe).....62.65.66.72		
歐羅巴人種 (European race) ...62.63.70		
ラ		
ラヂオラリヤ (Radiolaria) 泥.....37		
リ		
陸界.....16.42		
陸軍.....88		
陸地の状態及び變動.....16-31		
陸島.....32		
陸風.....48.49		
立憲政體.....80		
リヒテンスタイン (Lichtenstein).....82		
リマン (Liman) 海流.....40		
流域.....34		
硫氣孔.....20		
流星.....3.5		
領海.....80		
領事.....84		
領事官.....84		
領事裁判權.....84		
レ		
列村.....67		
聯合國.....80		
鏈村.....68		
聯邦國.....80		
ロ		
露西亞 (Russia) 65.66.71.74.76.82.86.88		
露西亞平野.....33		
ロッキー (Rocky) 山脈.....52		
ワ		
綿.....72.73.75		

索引

九

天気圖.....	52
天気豫報.....	52
甜菜.....	72
電信.....	77
電線.....	77
天王星.....	2.3
丁抹 (Denmark).....	65
丁抹半島.....	24
電話.....	77

トド (タウ) (ダウ)

銅.....	73.75
等壓線.....	43
等壓線圖.....	43
獨逸 (Germany, Deutschland).....	18.65.66.72.74.75.76.80.83.88
獨逸語 (German).....	64
等溫線.....	44
等溫線圖.....	44
都會.....	53.63
冬至.....	12
島嶼.....	32-33
土壤.....	29.30
土星.....	2.3
土堆.....	30
土地の昇降.....	17
土柱.....	25
利根川.....	57
動物.....	53.54.60.76
ドラビダ族 (Dravidians).....	63
土耳其 (Turkey).....	82
土耳其族 (Turks).....	62
道路.....	67.76

ナ

内海.....	34.35.59
ナポレオン一世 (Napoleon I.).....	58
浪.....	28.38
南洋.....	62

ニ

日蝕.....	13-14
二百十日.....	50

日本海.....	35.40
日本族.....	62
日本の國家.....	85
日本の國民.....	69-70
日本の國力.....	88
日本の交通.....	78-79
日本の自然.....	60-61
日本の生業.....	75-76
新西蘭 (New Zealand) 海流.....	40
ニューファンドランド淺瀬 (Newfoundland Bank).....	30

ネ

ネグロ族 (Negroes).....	62
熱帶.....	12.43.54

ノ

農業國.....	71
濃尾平野.....	23
諾威 (Norway).....	56.66

ハババ

白海.....	37
瀑布.....	26
箱根山.....	19.20
バスク (Basque) 族.....	62
バスク派.....	62
バタゴニヤ族 (Patagonians).....	63
パナマ (Panama) 運河.....	78
バプア族 (Papuan).....	63
ハム派 (Hamites).....	62
波浪.....	23-38
洪牙利 (Hungary).....	66
帆船.....	76
斑村.....	67
磐梯山.....	19
萬里長城.....	82
バイスパロット (Buys Ballot) フェレル (Feller) 兩氏ノ法則.....	49

ヒビビ (ベウ)

ビスカヤ (Biscay) 灣.....	24
----------------------	----

日附の界線.....	10
檜.....	72
ヒマラヤ (Himalaya) 山脈.....	52
電.....	46
氷河.....	29.30.35
氷山.....	29.30
標準時.....	10
苗族.....	62
琵琶湖.....	35

フブ

ファンダー (Fundy) 灣.....	40
フィン族 (Finns).....	62
フエゴ族 (Fuegians).....	63
風化.....	24
覆火山.....	21
輻射.....	43
富士山.....	19.20.21
不對等條約.....	84
佛教.....	65.69
ブッシュマン (Bushman).....	62
部分蝕.....	14
伯刺西爾 (Brazil) 海流.....	40
佛蘭西 (France).....	66.74.75.76.83.86.88
佛蘭西語 (French).....	64
文化.....	(文明を見よ)
噴氣孔.....	20
分業.....	70
分水界.....	34
文明 (文化).....	54.55.58.59.70.86

ハベペ

平均太陽日.....	11
平原 (平野).....	33.34.57.60.66
平年.....	15
兵備.....	86.87.88
ベスビヤス (Vesuvius).....	19
白耳義 (Belgium).....	74
波斯 (Persia).....	44.46.82
ベルベル族 (Berbers).....	62
偏角.....	9

ホボボ (ハウ) (バウ)

貿易.....	71.74.87
---------	----------

貿易風.....	48.49
北海道.....	68.69
北極星.....	9
北清.....	24.34
牧畜國.....	71
北米合衆國..... (亞米利加合衆國を見よ)	
方言.....	64.69
保護國.....	80
保護貿易.....	74
星.....	1-4
堡礁.....	31
ホッテントット (Hottentots).....	62
ホバ族 (Hovas).....	63
鳳來寺山.....	20
ポリネシヤ族 (Polynesians).....	63
飽和.....	44
本初子午線.....	7
盆地.....	33.34.57
ポンペイ (Pompeii).....	19

マ

卷雲.....	45
マジール族 (Magyars).....	62
マダガスカル (Madagascar) 海流.....	40
松.....	72
松島.....	29
マホガニー (Mahogany).....	73
馬來 (Malay) 人種.....	63
馬來族 (Malays).....	63
マリアナ群島 (Marianne).....	36
満月.....	14.41
満洲.....	43
満洲族.....	62
満潮.....	41
マンモス (Mammoth) 洞.....	26

ミ (メウ)

水の作用.....	24-26.33
密村.....	67
南亞米利加 (South America).....	63
三原山.....	19
妙義山.....	25

ム

無線電.....	77
----------	----

鐘乳石.....36
 小ネグロ族(Negrillos).....62
 條約國.....84. 85
 小遊星.....2. 3
 植民地.....83. 84
 食料品.....71. 72. 73
 人為的境界.....82
 震央.....23
 深海.....36. 37
 新教(Protestantism).....65
 新月.....14. 41
 震源.....22. 23
 人口.....56
 人口の密度.....65-66
 人種言語宗教の類別.....61-65
 浸蝕作用.....34
 浸蝕山嶽.....33
 神道.....65. 69
 人文地理概説.....54-9)
 人民の聚落.....66-69
 人類.....54-60

スズツ

水界.....35. 42
 水銀氣壓計.....43
 瑞西(Suisse. Switzerland).....74
 水星.....2
 彗星.....2. 3
 スエズ(Suez)運河.....78
 スカンディナヴィヤ(Scandinavia).....18
 杉.....72
 水底電線.....77. 83
 西班牙(Spain).....66. 84
 西班牙語(Spanish).....64
 スラフ族(Slavs).....62
 諏訪湖.....28

セゼ

星雲.....4
 星界.....1-15
 生業(産業).....56. 57. 58. 60. 66. 70

生業及び重要産物.....70-79
 精製品.....71
 成層火山.....20
 生肉.....73
 生物.....52-53. 58. 60
 生物と人類.....60
 生物の作用.....30-31
 西部標準時.....10
 星雲説.....4
 世界に於ける本邦の地位.....89-90
 世界の交通.....77-79
 世界の重要産物.....71-74
 積雲.....45
 石灰岩.....31
 石灰洞.....25
 石筍.....26
 石炭.....30. 73. 75
 石柱.....25
 赤道無風帯.....39. 47
 赤道流.....39. 40
 石門.....25
 石油.....73
 切開臺地.....34
 雪線.....29. 30. 43
 セム派(Semites).....62
 浅海.....36. 37
 穿孔介.....30-31
 專制政體.....80
 旋風.....49. 50

ソゾ (サウ) (サウ)

層雲.....45
 藻海.....40
 側火山.....21
 造山力.....17
 宗主國.....80
 ソマリ族(Somalis).....62
 總領事.....83
 村落.....58. 66. 68

タダ

太陰.....13

太陰曆.....15
 大氣.....42-44. 45. 47. 48. 49
 大氣の運動.....47-52
 大氣の作用.....24
 大氣の循環.....47-48
 大西洋.....21. 40. 77
 大使.....84. 85
 臺地.....33. 34
 大潮.....41
 對等條約.....84
 堆石.....29. 30. 33. 35
 堆積作用.....30
 堆積山嶽.....33
 堆積臺地.....34
 颱風.....50
 太平洋.....21. 36. 77. 79
 太陽.....3. 4. 40. 41
 大洋.....35. 36. 59
 太陽系.....2
 大洋洲(Oceania).....62. 63. 66
 太陽日.....11
 太陽熱.....43
 太陽曆.....15
 大陸.....49
 大陸性氣候.....51
 大連.....63. 69
 臺灣.....84
 深壺.....26
 多孔蟲.....31
 谷.....34. 57
 龍卷.....50
 立山.....20
 單火山.....21
 炭酸孔.....20
 斷層.....33. 34
 斷層山嶽.....33
 斷層地震.....22
 斷層臺地.....34
 暖流.....39. 44

チ (テウ)

地下水.....24. 26
 地球.....2. 3. 5. 40. 53. 54
 地球の運動.....8-12
 地球の形狀.....6-7
 地球の狀態.....5-7

チーク (Teak).....73
 地形.....52-53. 55. 66. 67. 76
 地形と人類.....55-58
 地形の類別.....32-35
 地殼.....5. 6. 18. 20. 21. 33
 地軸.....8. 12
 千島海流.....40
 地勢氣候生物相互の關係.....52-53
 地層.....26
 地中海.....35. 40
 地熱.....5. 6. 17
 西藏(Tibet).....52. 57
 西藏族.....62
 地方時.....9
 茶.....72. 73. 75
 中央標準時.....10
 中禪寺湖.....35
 チュートン族 (Teutons).....62
 晝夜の長短.....12
 晝夜の別.....8
 中立地帯.....82
 直射.....43
 潮汐.....40
 朝鮮.....51
 朝鮮族.....62
 朝鮮標準時.....10
 潮流.....42

ツ

月及び其運動.....12-14
 月の盈虚.....13
 對馬海流.....40
 通信.....76. 77
 津浪.....39
 ツムツ.....50
 露.....45

テデ

低氣壓.....48
 泥炭.....30
 泥流.....19
 鐵.....73. 75
 鐵道.....76
 天氣及び氣候.....51-52

環礁.....31
 岩漿.....18
 岩石.....5.6.28.29.30.31
 漢族.....62
 寒帯.....12
 干潮.....41
 カント (Kant).....4
 關東州.....68. 82
 關東平野.....23. 33
 陷落地震.....22
 寒流.....39. 44

キ キ

氣壓.....42-43. 47. 49. 51
 氣温.....43-44. 45. 47. 51
 氣界.....42-52
 氣候.....51-52. 53. 54. 56. 58. 60. 66. 71
 氣候と人類.....54-56
 季候風.....49
 汽車.....76
 氣象觀測.....51
 氣象區.....1
 汽船.....76
 木曾川.....28
 北亞米利加 (North America).....63. 44
 軌道.....8. 11. 14. 15
 逆旋風.....49
 休火山.....19
 舊教 (Roman Catholicism).....65
 牛酪.....73
 凝結物.....44-46
 碓礮.....31
 京都.....68
 共和國.....80
 霧.....45
 希臘 (Greece).....59
 希臘教 (Greek Catholicism).....63
 ギリシヤ族 (Greeks).....62
 基督教 (Christianity).....65
 金.....73
 銀.....73
 金環蝕.....14
 近畿平野.....23
 金星.....2

近日點.....11

ク ケ

雲.....45
 クリニチ (Greenwich).....7
 グリーンランド (Greenland).....18
 グレゴリアン (Gregorian) 曆.....15
 黒潮海流.....40
 グロビゼリナ泥 (Globigerina ooze).....37
 君主國.....80
 軍備.....87-88

ク ケ

傾角.....9
 經常歲入.....86
 經線.....7
 硅藻土.....30. 37
 經度.....7. 9
 夏至.....12
 ケルト族 (Celts).....62
 元.....58
 卷雲.....45
 言語.....56. 61. 63. 64. 69
 弦月.....41
 憲法.....80
 原料品.....71. 75

コ (カウ) (カフ) (クフ)

公海.....80
 紅海.....37
 高加索 (Caucasus) 人種.....62
 コーカシヤ族 (Caucasians).....62
 コーカシヤ派.....62
 洪涵地.....27
 高氣壓.....49
 工業.....72. 73
 工業國.....71
 國家.....79-85. 86
 國家の境界.....81-82

國家の種類.....80
 國家の組織.....79-80
 國債.....87
 國土.....80
 國民.....80
 高原.....33. 57
 公使.....84. 85
 湖水.....26-30. 34-35. 76
 降水.....44-46
 恒星.....1
 恒星日.....11
 交通.....58. 70. 76-79
 交通機關.....76
 交通線路.....76
 公轉.....11-12
 黄土層.....24
 琴平.....68
 珈琲.....72. 73
 甲府盆地.....34
 小麥.....72. 73
 米.....72. 73. 75
 曆.....14-15
 氷.....29
 コロラド (Colorado) 高原.....34

サ

歳出.....86
 財政.....86-87. 88
 歳入.....86. 88
 砂丘.....24. 35
 削磨臺地.....34
 削磨平原.....34
 砂嘴.....27
 砂洲.....27
 札幌.....68
 沙漠.....53
 サハラ (Sahara) 沙漠.....44. 46. 57
 猿間湖.....35
 山嶽.....33. 57
 三角洲.....28
 産業.....(生業を見よ)
 珊瑚礁.....31
 珊瑚蟲.....18. 31
 珊瑚島.....31. 32. 36

蠶絲 (生絲).....73. 75
 山村.....57
 山地.....56
 サンマリノ (San Marino).....82
 山脈.....53. 56
 山脈の成生.....17

シ ジ チ (セウ) (テウ)

死火山.....19
 四季の變.....12
 子午線.....7
 地震.....20-23
 地震計.....23
 磁石.....9
 自然地理概説.....1-53
 自然的境界.....81. 83
 自然と人類との關係.....54-61
 自轉.....8. 11. 13. 48
 支那.....51. 64. 69. 71. 74. 75. 82
 支那語.....64
 信濃盆地.....57
 シブラルタル (Gibraltar).....82
 西比利亞 (Siberia).....44. 71
 島.....32
 霜.....45
 白蟻.....30
 儒教.....69
 宗教.....64
 褶曲山嶽.....33
 主權.....80
 秋分.....12
 住民及び其狀態.....61-70
 自由貿易.....74
 主要國の國力比較.....86
 主要國の貿易.....74
 循環流.....40
 准ネグロ族 (Negroides).....62
 春分.....12
 常溫帶.....5
 蒸氣孔.....20
 商業.....70
 商業國.....71
 商船.....76. 77
 小潮.....41

師範教科
最近地理概説
索引

ア

アイルランド (Ireland)72
 麻.....72
 朝風.....48
 淺間山.....18. 19
 亞細亞 (Asia)62.63.65.66.79
 亞細亞人種.....62.63.69
 足尾.....68
 蘆湖.....35
 吾妻山.....19
 阿蘇山.....20. 21
 熱海.....20
 アッカ (Acca).....62
 亞熱帶.....55
 アネモメトル (Anemometer)47
 アネロイド (Aneroid) 氣壓計.....43
 アビシニヤ族 (Abyssinians).....62
 アフガニスタン (Afghanistan).....82
 阿武隈高地.....34
 亞弗利加 (Africa).....62. 65
 亞弗利加人種.....62
 天城山.....19
 天橋立.....27
 雨.....24.25.34.45.51.52
 亞米利加 (America).....62.63.65
 亞米利加合衆國 (United States of America).....66.69.71.74.75.76.80.82
 亞米利加人種.....63
 亞刺比亞 (Arabia).....44.46
 亞刺比亞族 (Arabs).....62
 霞.....46
 アーリヤ (Aryan) 派.....62

アルゼリヤ (Algeria)83
 亞爾然丁 (Argentine).....71
 アンドラ (Andorra).....82

イ 中

英吉利.....(英國を見よ)
 石狩川.....27
 泉.....26
 緯線.....7
 磯浪.....38
 伊太利 (Italy)66.74.83.88
 緯度.....7.97.9
 イラニヤ族 (Iranians).....62
 岩手縣.....56
 インヂャアン族 (Indians)63
 隕星.....2
 隕石.....5
 印度 (India)46.52.65.69.71.75.76
 印度教 (Hinduism)65
 印度支那族.....62
 印度族 (Hindus)62
 印度洋.....40
 印旛沼.....35

ウ

雨雲.....45
 雨水.....24.25.34
 宇宙.....1
 海.....35-37.58.59
 海棚.....36

雨量.....46.52.56.57
 閏年.....15
 運河.....76.78
 運輸.....76
 運輸機關.....76

エ エ

英語 (English)64
 英國 (Great Britain and Ireland).....58.59.66.74.75.76.83.84.88
 衛星.....2.4
 エジプト族 (Egyptians).....62
 エスキモー族 (Esquimaux)63
 縁海.....35.59
 鹽化ナトリウム.....36
 堰塞湖.....35
 遠日點.....11

オ ヨ (アウ)

歐亞 (Eurasia) 大陸.....21
 甌穴.....26
 歐洲.....(歐羅巴を見よ)
 濠太刺利 (Australia)71.83.84
 濠太刺利族 (Australians)63
 奧地利洪牙利 (Austria-Hungary)64.80.83
 凹地湖.....35
 鬼首.....20
 和蘭 (Holland).....65.74.75.83
 溫泉.....20
 溫帶.....12.55
 溫度.....43.44.45.47.51.52.58

カ ガ (クワ)

海王星.....2.3
 海岸線.....56
 海岸島嶼人民 (Insular and Littoral peoples)63
 皆既蝕.....14
 回歸無風帶.....48

回教.....65
 海軍.....87.88
 外交.....84
 外交官.....84
 海嘯.....42
 塊狀火山.....20
 海水の運動.....37-42
 海水の性質.....36-37
 海底.....36
 海風.....48.49
 開聞嶽.....19
 海洋及び海水.....35-37.76
 海洋性氣候.....51
 海洋と人類.....58-60
 海洋の形状.....35-36
 海流.....39.44.58.76
 外輪山.....21
 河系.....34
 河湖.....26-30.34-35
 火口.....20.21.35
 火口丘.....21
 火口原.....21
 火口瀨.....21
 火山.....18-22.34.35.36
 火山灰.....19
 火山砂.....19
 火山作用.....18
 火山地震.....22
 火山彈.....19
 火山島.....32.36
 火山破裂.....19
 火山脈.....21
 火山毛.....19
 火山礫.....19
 風.....24.27.34.35.44.46.47.48.49.50.51
 火星.....2.3
 風の種類.....48-50
 河段丘.....27
 活火山.....19
 月蝕.....14
 河底洞道.....28.58
 加奈陀 (Canada).....44.83.84
 樺太海流.....40
 河.....26-30.33.34-35.53.57.76
 間歇泉.....20
 甘蔗.....72.78

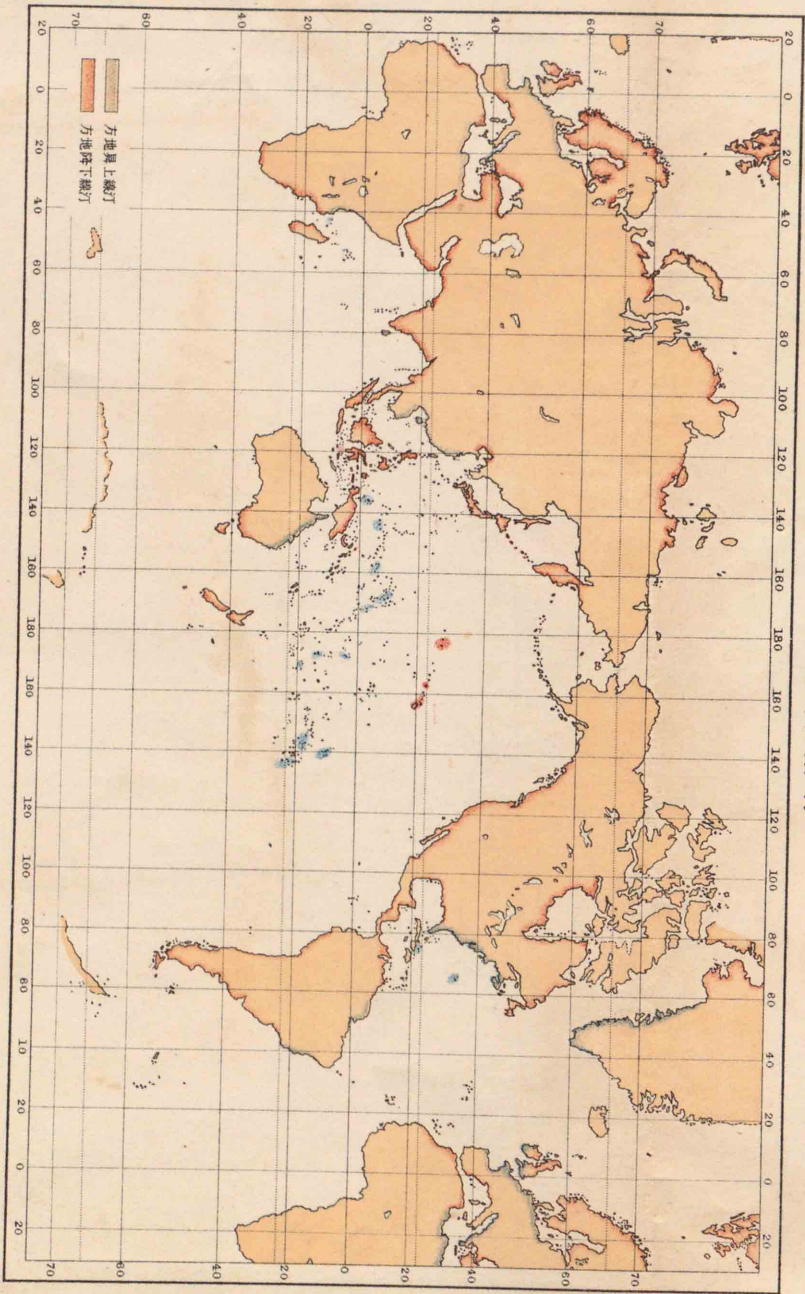
師 範 教 科
最 近 地 理 概 説
索 引

- 1 本索引には本書に顯はるる地名人名及び地理的名辭を悉く網羅す。
- 2 ローマ字は主として英語に據り地名又は人種名等に添へたり。
- 3 排列は口語の發音に基づき、五十音順に據る。
- 4 數字は本書のページを示し、數字間の線は當該記事の其兩ページに跨ることを示す。

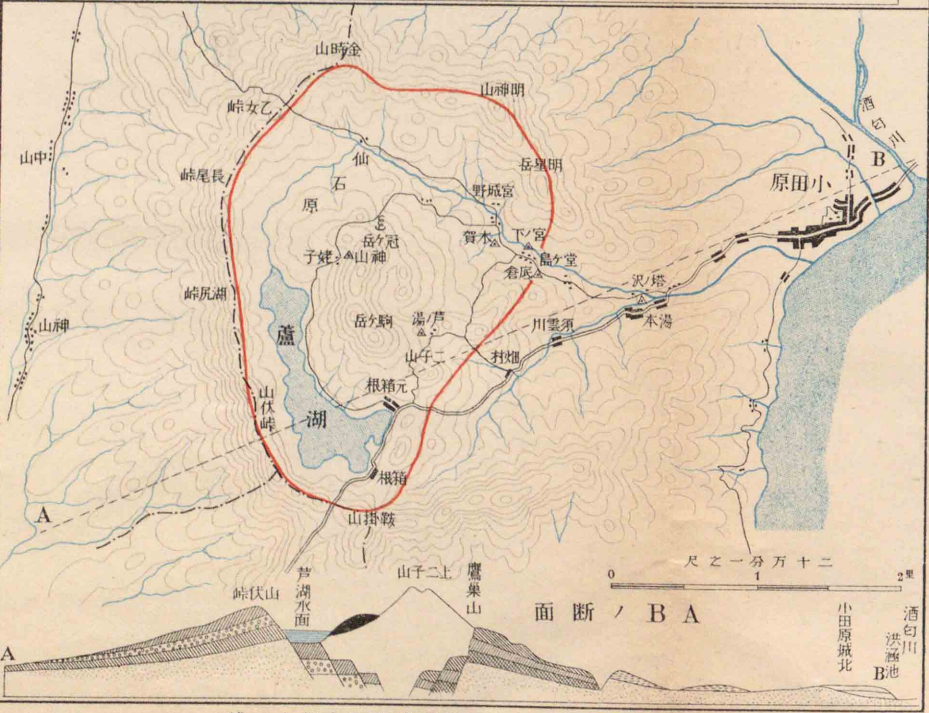
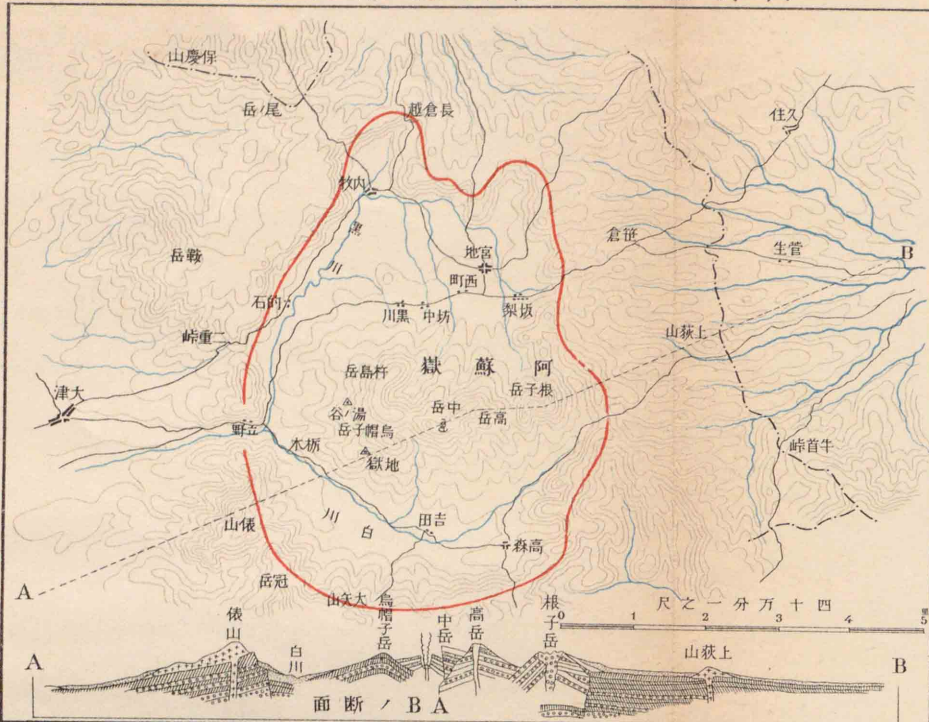
師範教科
最近地理概論
索引

- 1 本索引には本書に顯はるる地名人名及地理的名辭を悉く網羅す。
- 2 ローマ字は主として英語に據り地名又種名等に添へたり。
- 3 排列は口語の發音に基づき、五十音順に
- 4 數字は本書のページを示し、數字間の斜線は該記事の其兩ページに跨ることを示す

江 變 動 區 域 之 圖

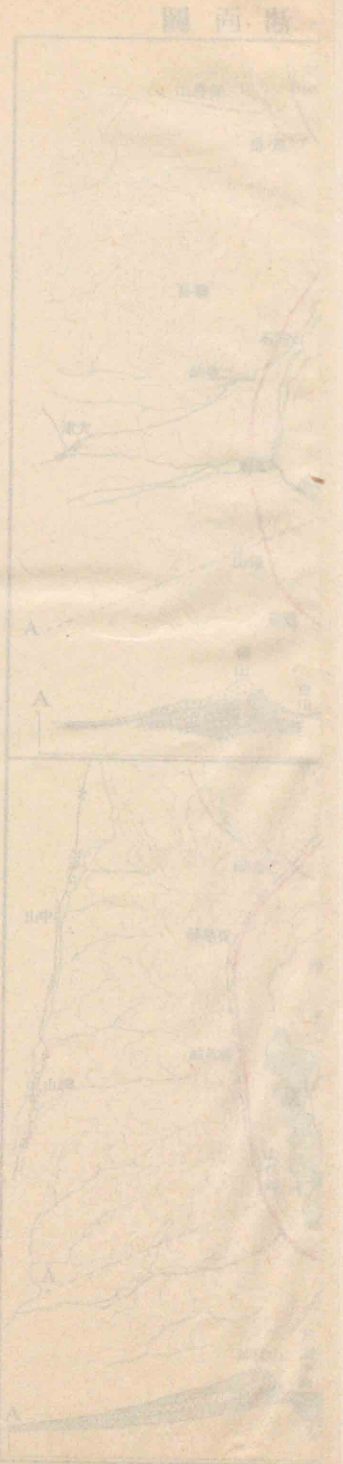


阿蘇箱根兩火山地形及断面圖



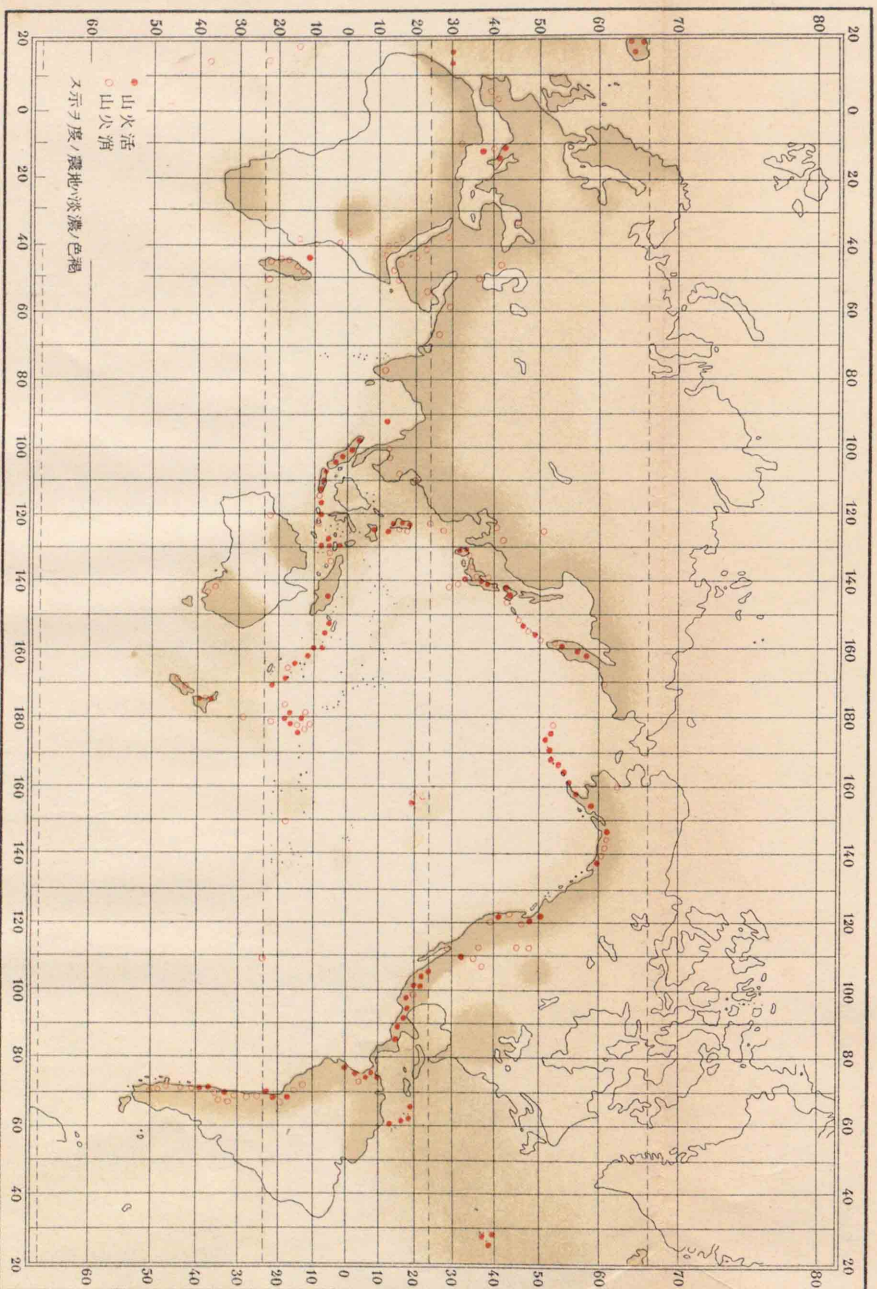
第二版

ル據ニ告報會査調防豫災震テ得ヲ可許ハ圖面断

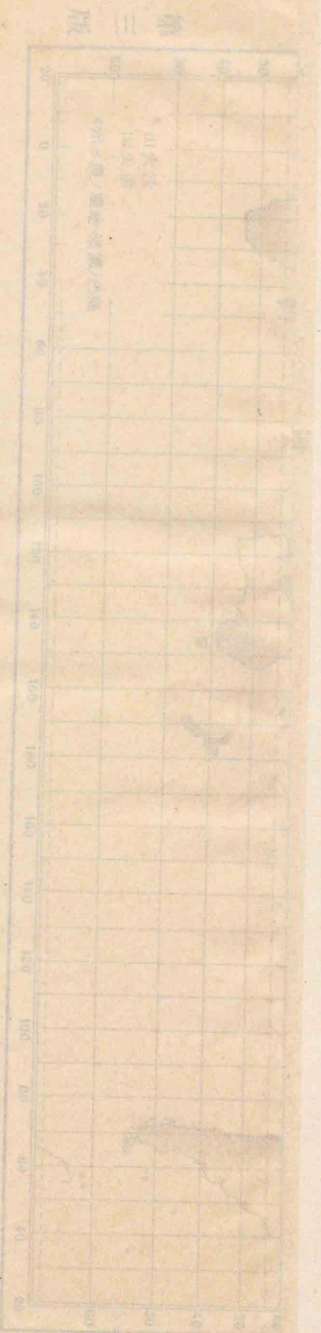


第一圖

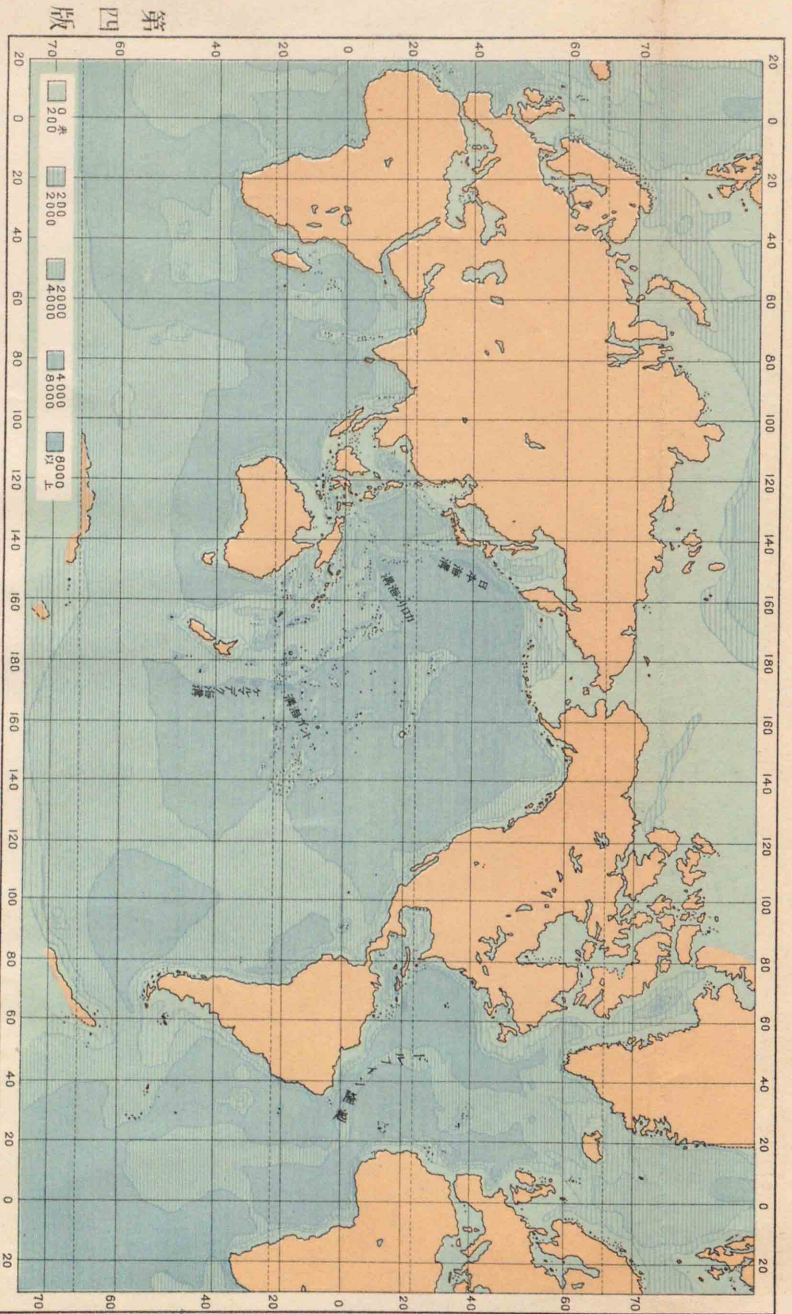
圖之布配震地及山火



第三版



圖之淺底海



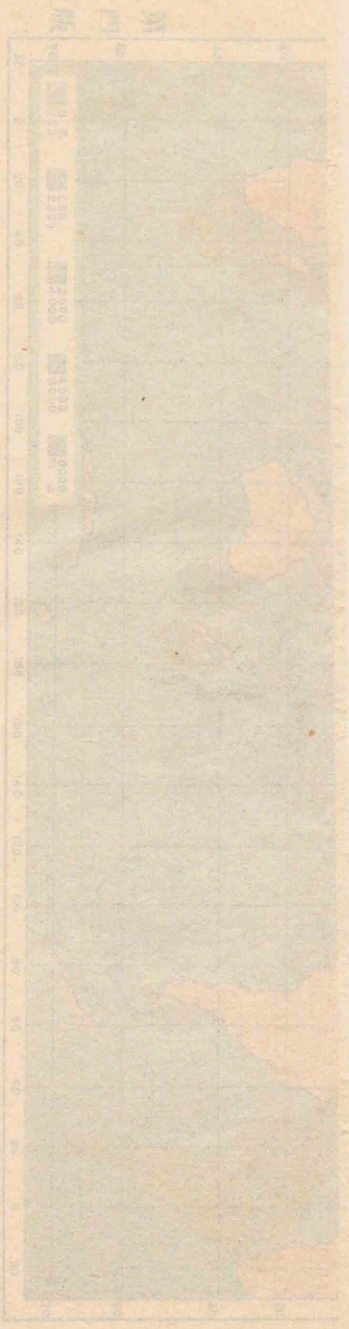
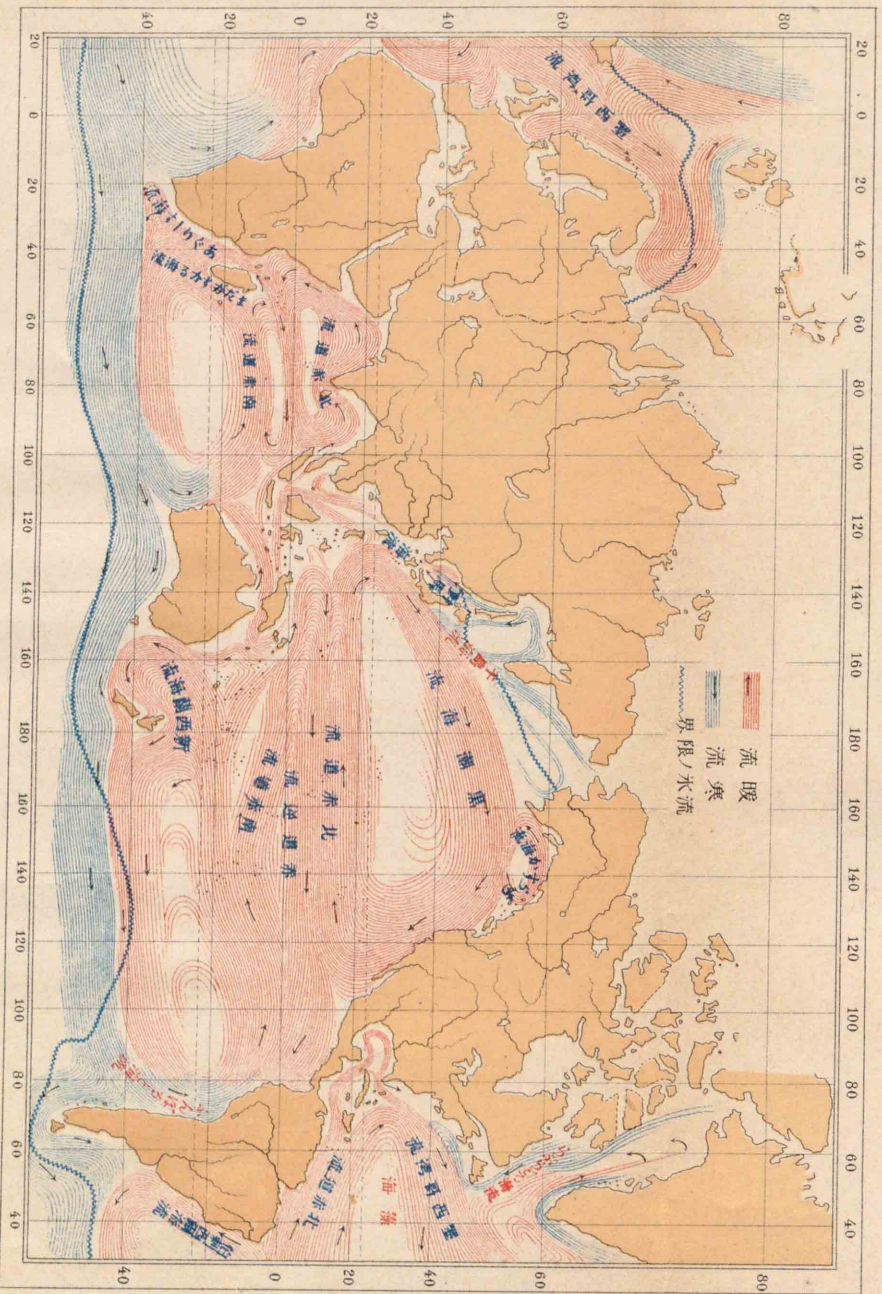
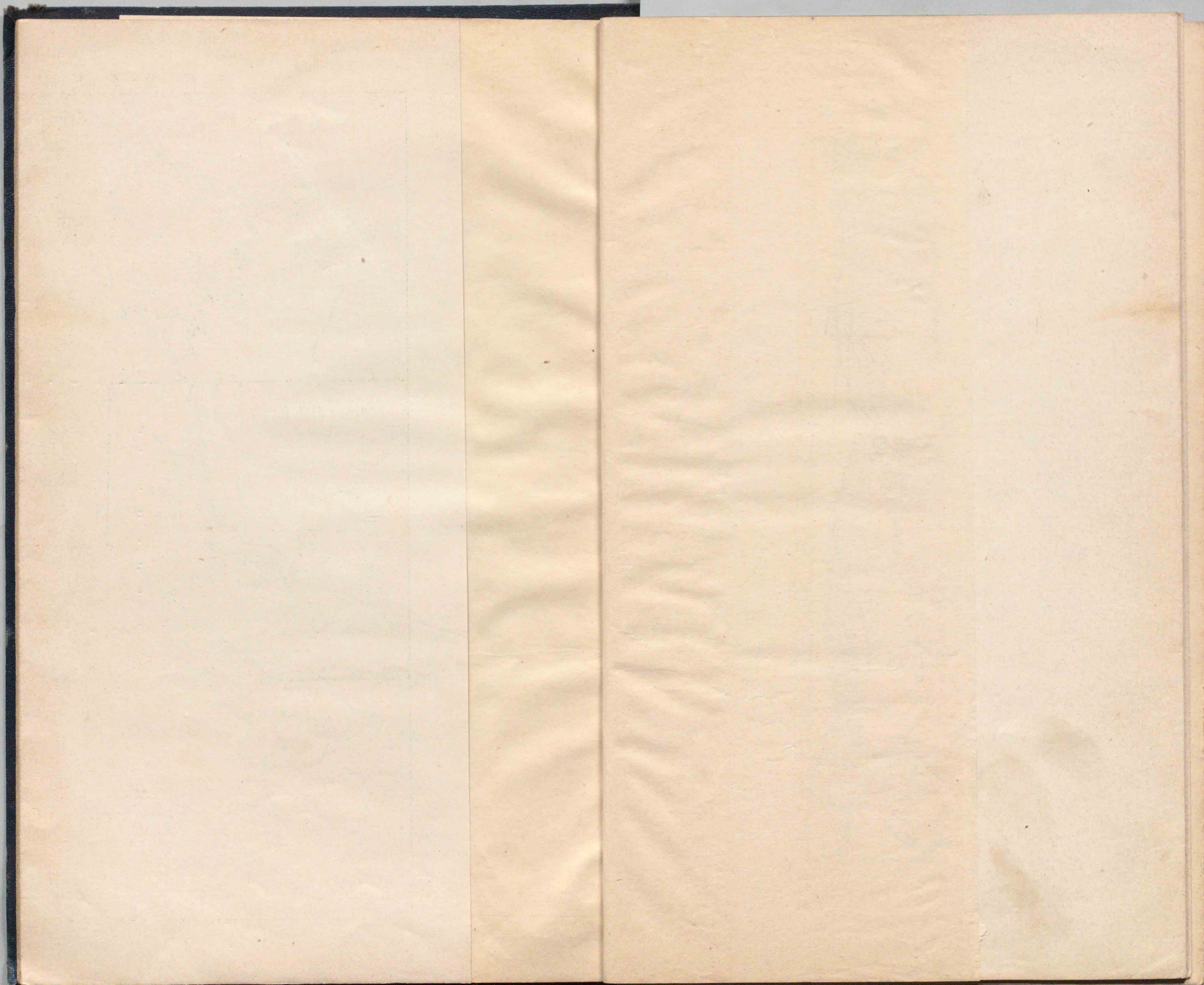


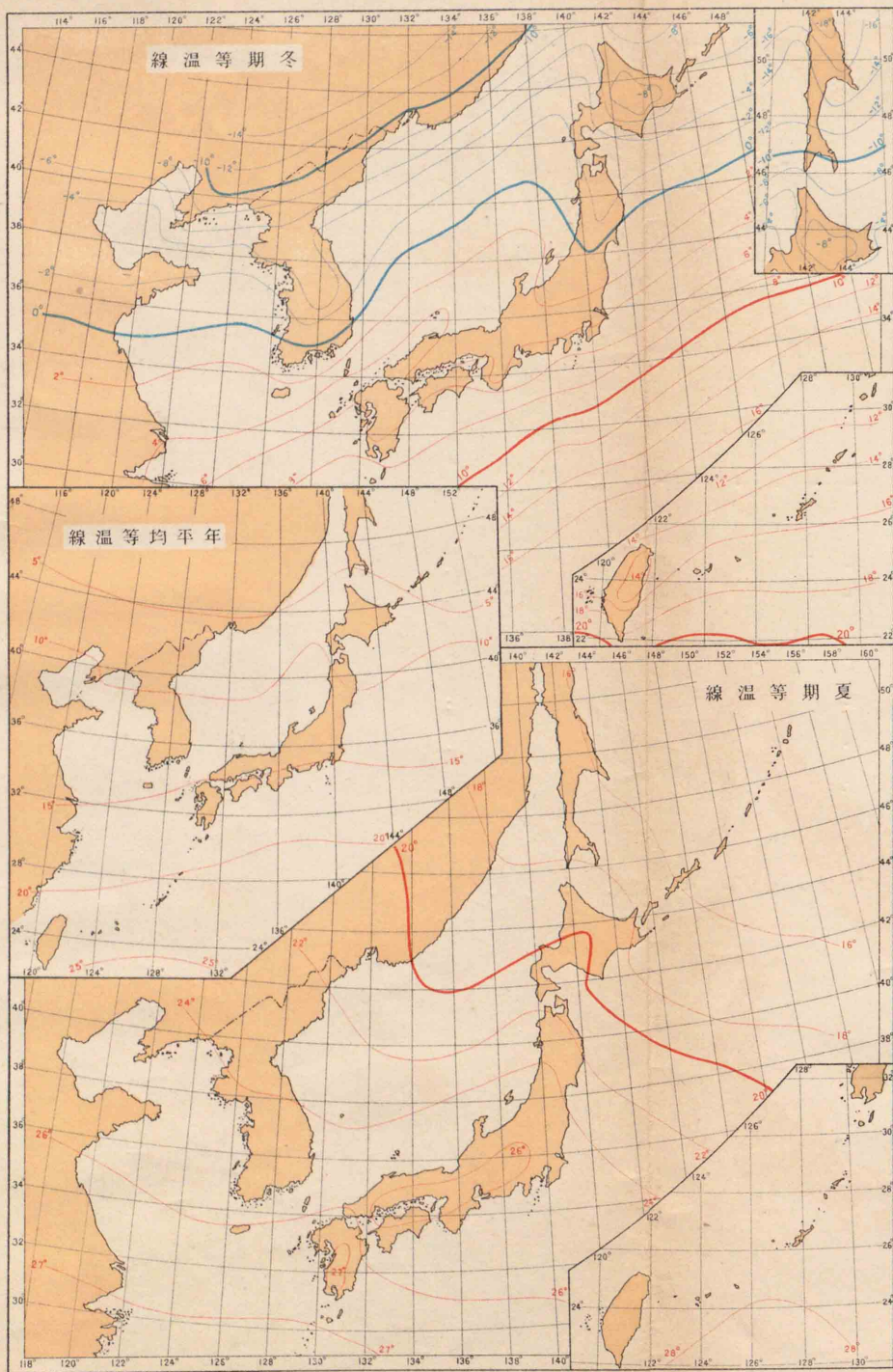
圖 之 流 海 界 世





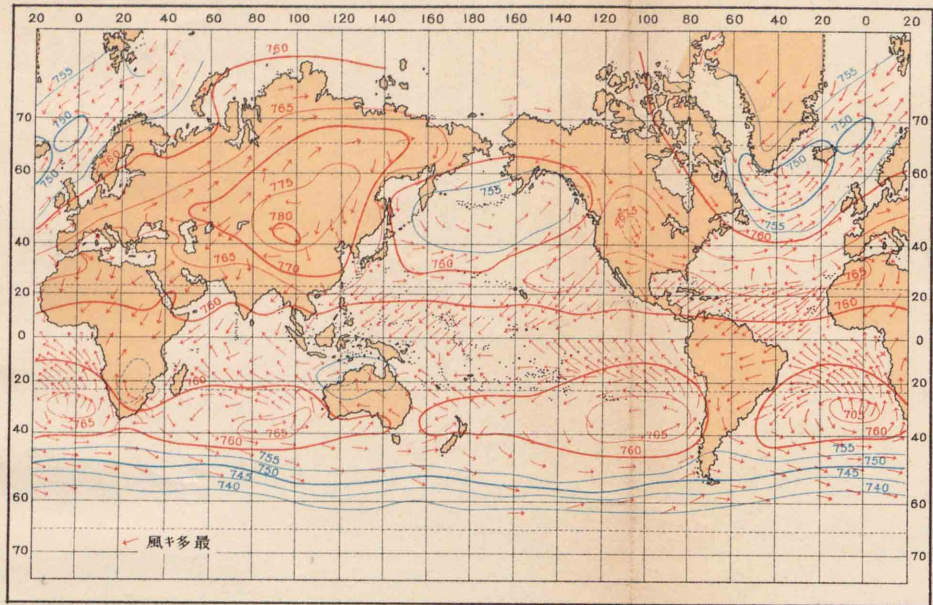


日本等温线图

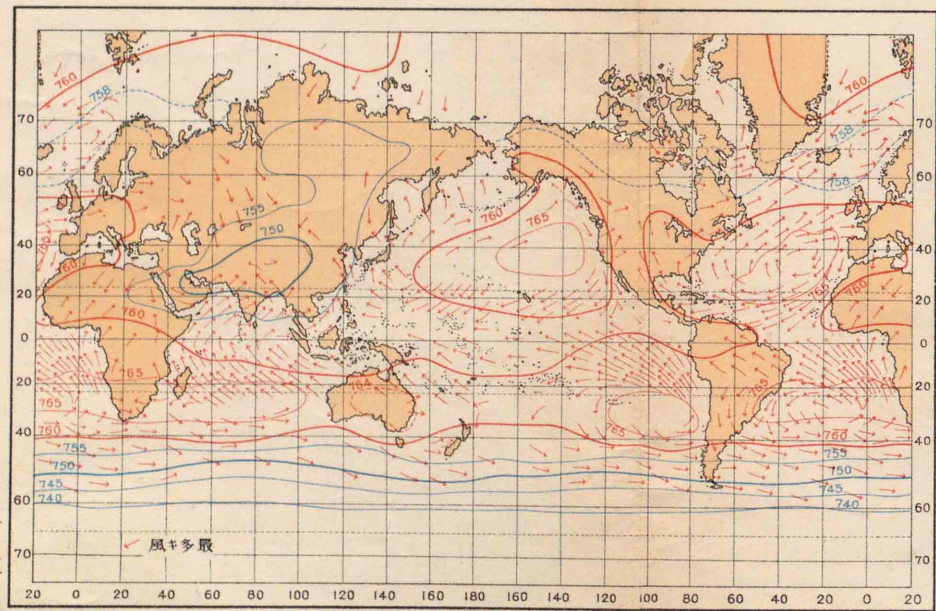


1

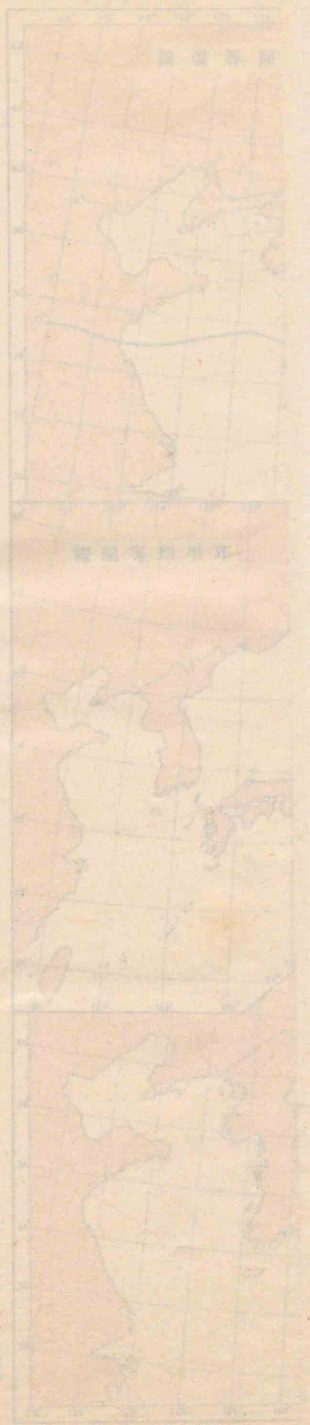
線 壓 等 月 一



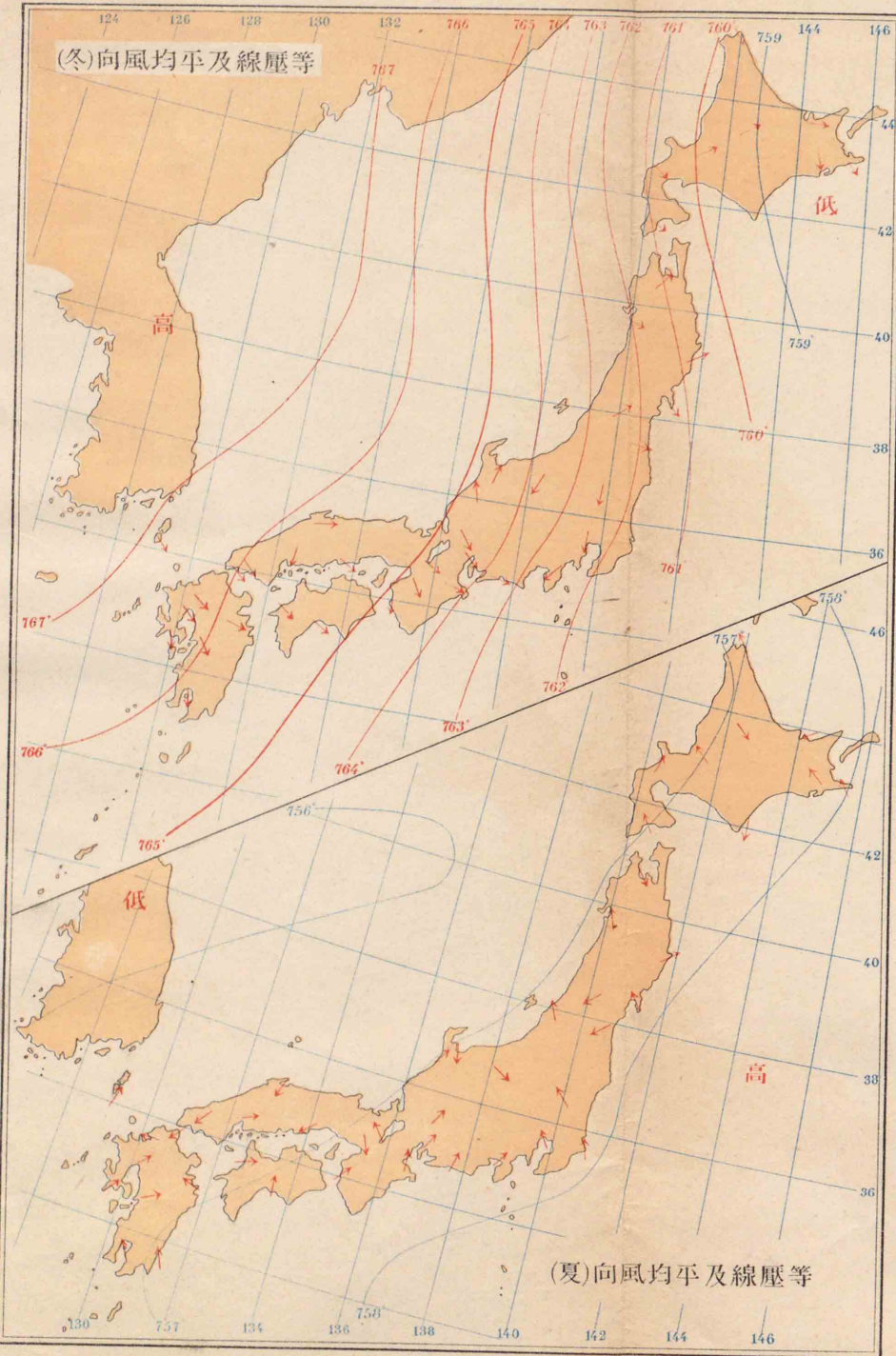
線 壓 等 月 七



第 八 版



第 七 版

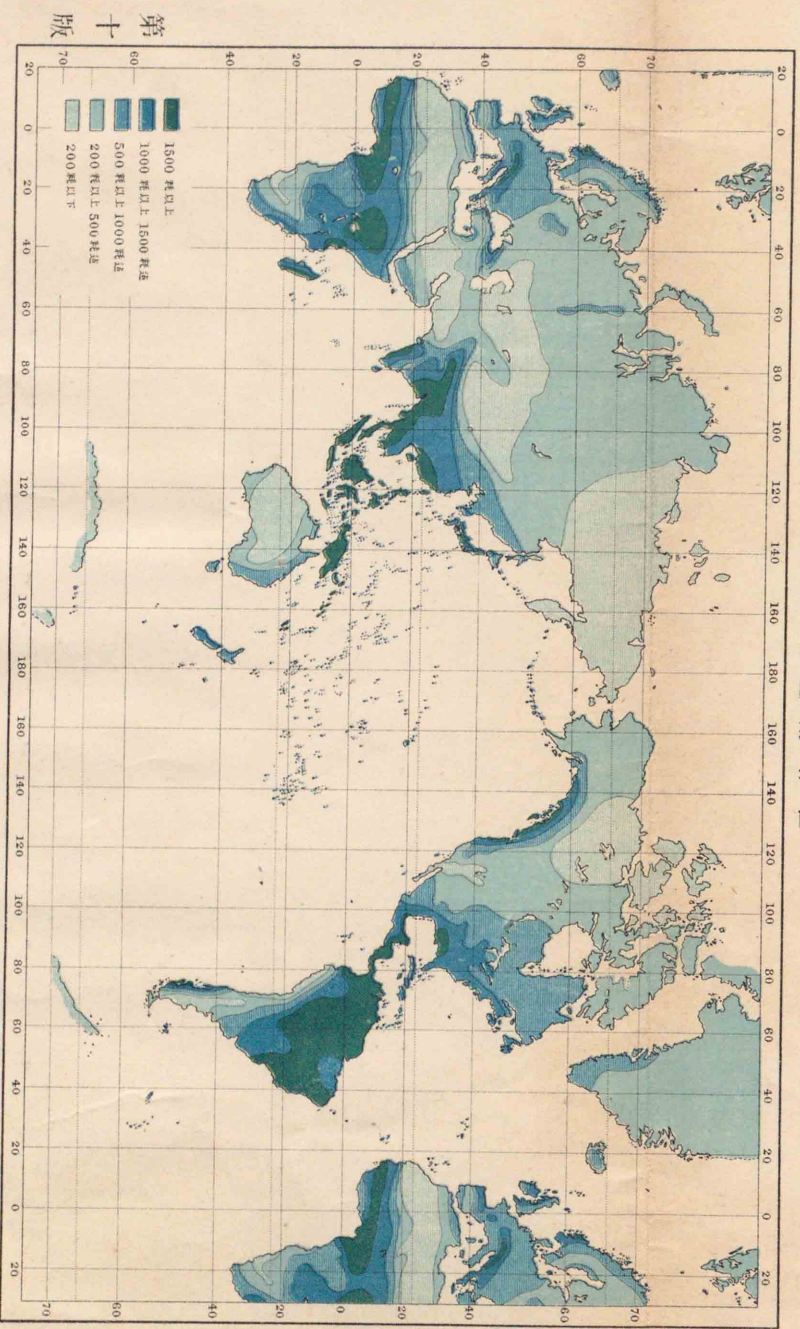


第九版



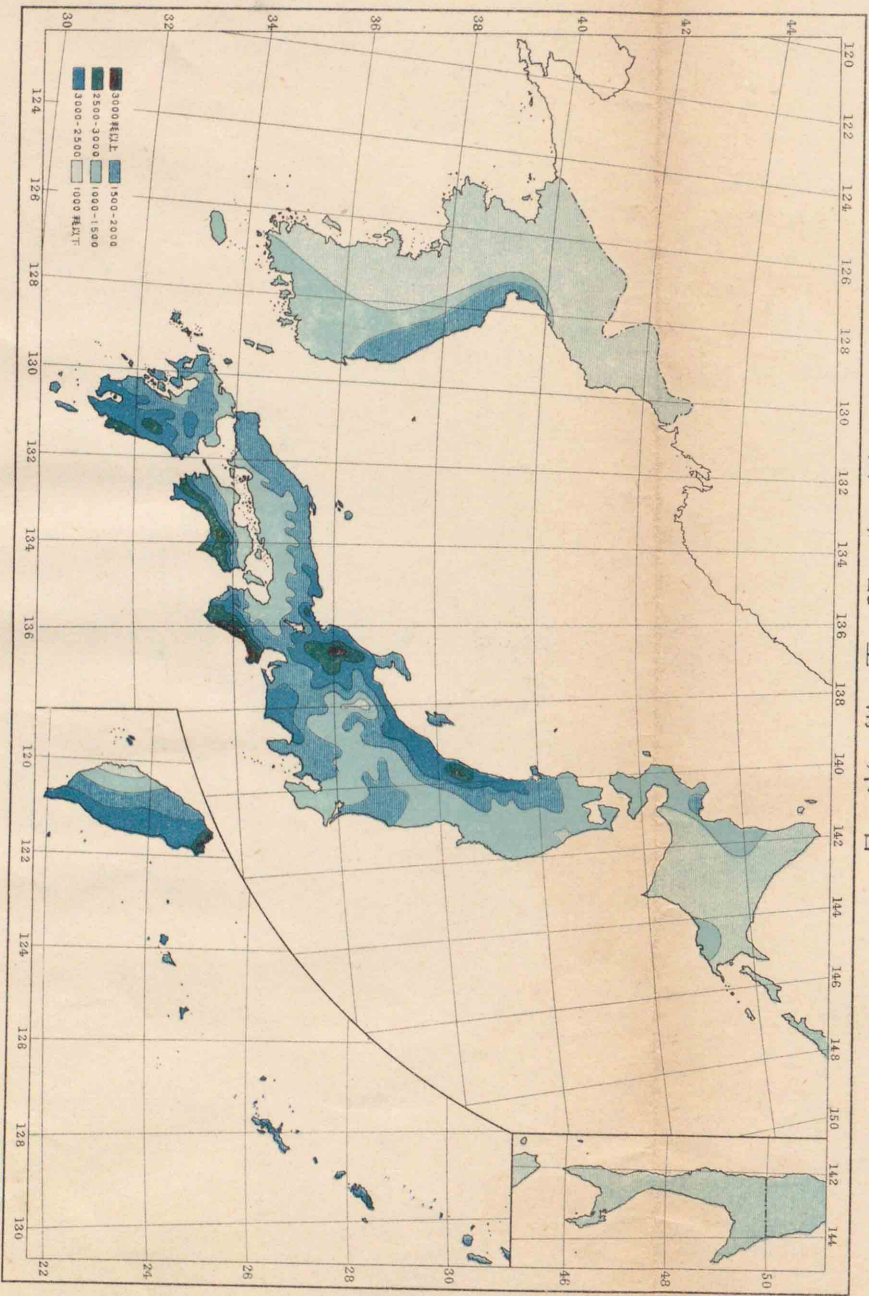


世界雨量分配圖



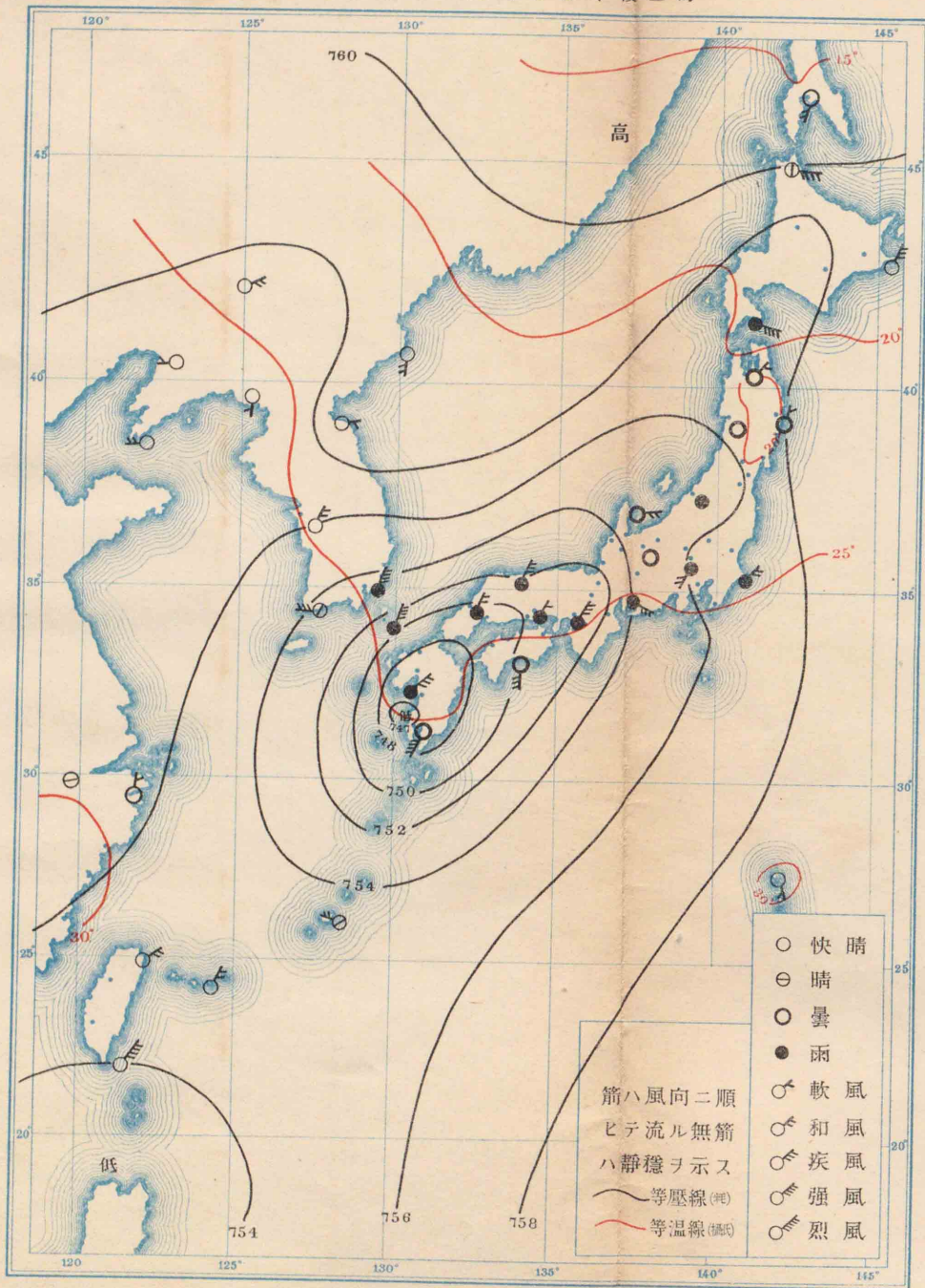


(量年均平) 圖布配量雨本日



天氣圖

明治四十三年九月七日午後二時



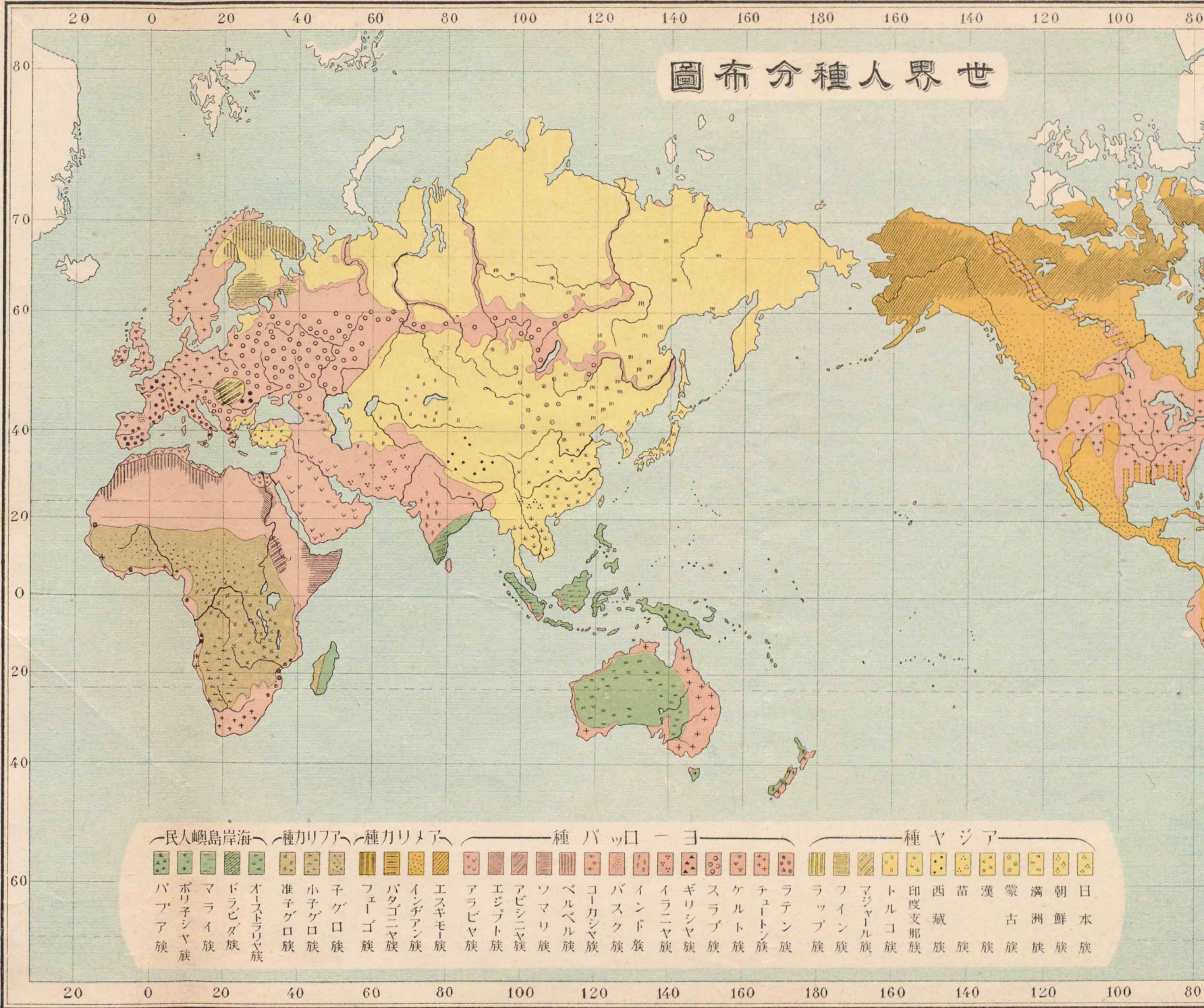
世界人種分布圖



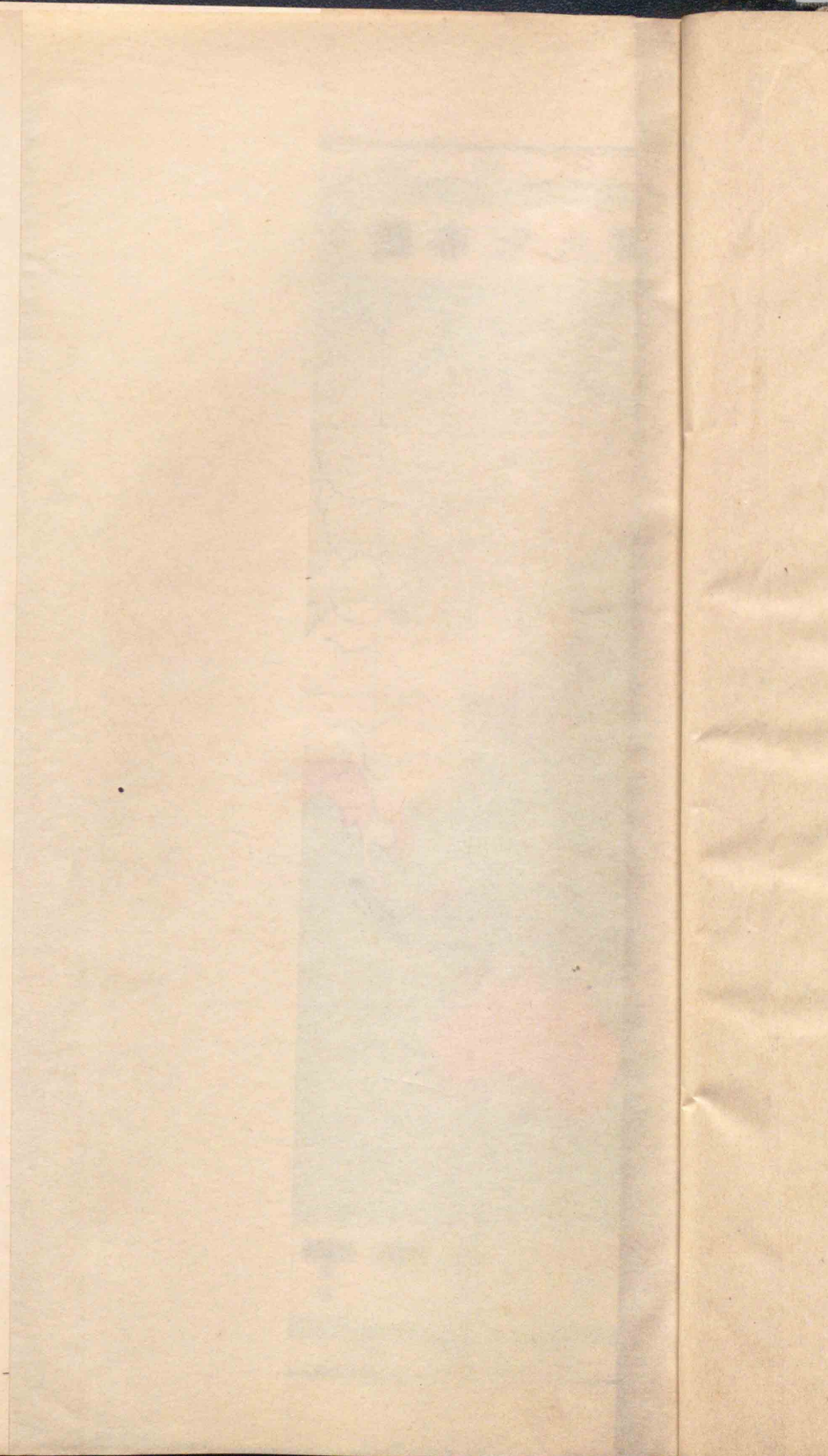
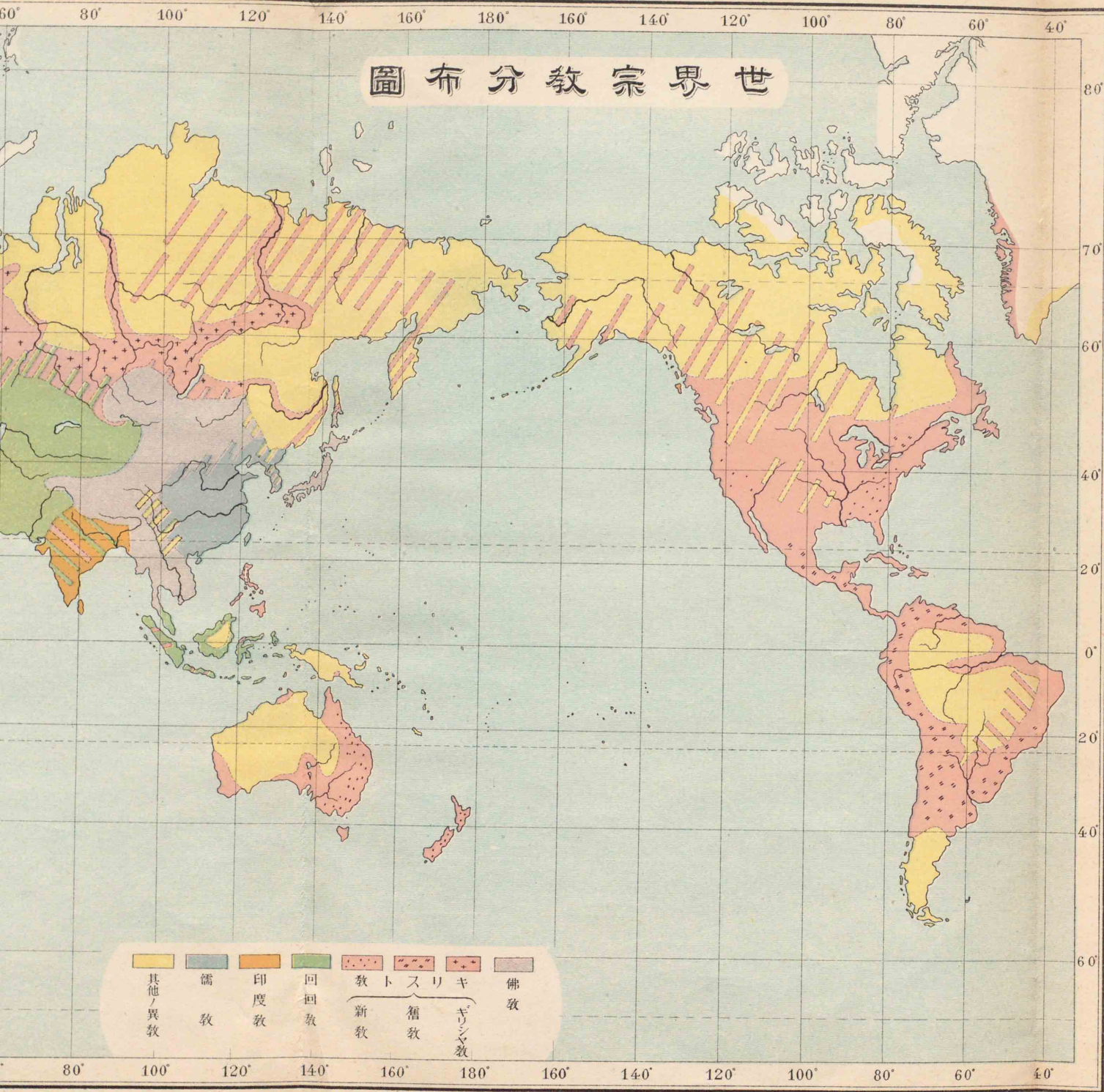
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 種 ヲ ッ | | | | | | | | | | 種 ヤ ジ ア | | | | | | | | | |
| ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |

エスキモー族
 アラビヤ族
 エジプト族
 アビシニヤ族
 ソマリ族
 ベルベル族
 コーカシヤ族
 バスク族
 インド族
 イラニヤ族
 ギリシヤ族
 スラブ族
 ケルト族
 チュートン族
 ラテン族
 ラップ族
 フイン族
 マンヤール族
 トルコ族
 印度支那族
 西蔵族
 苗族
 漢族
 蒙古族
 満洲族
 朝鮮族
 日本族

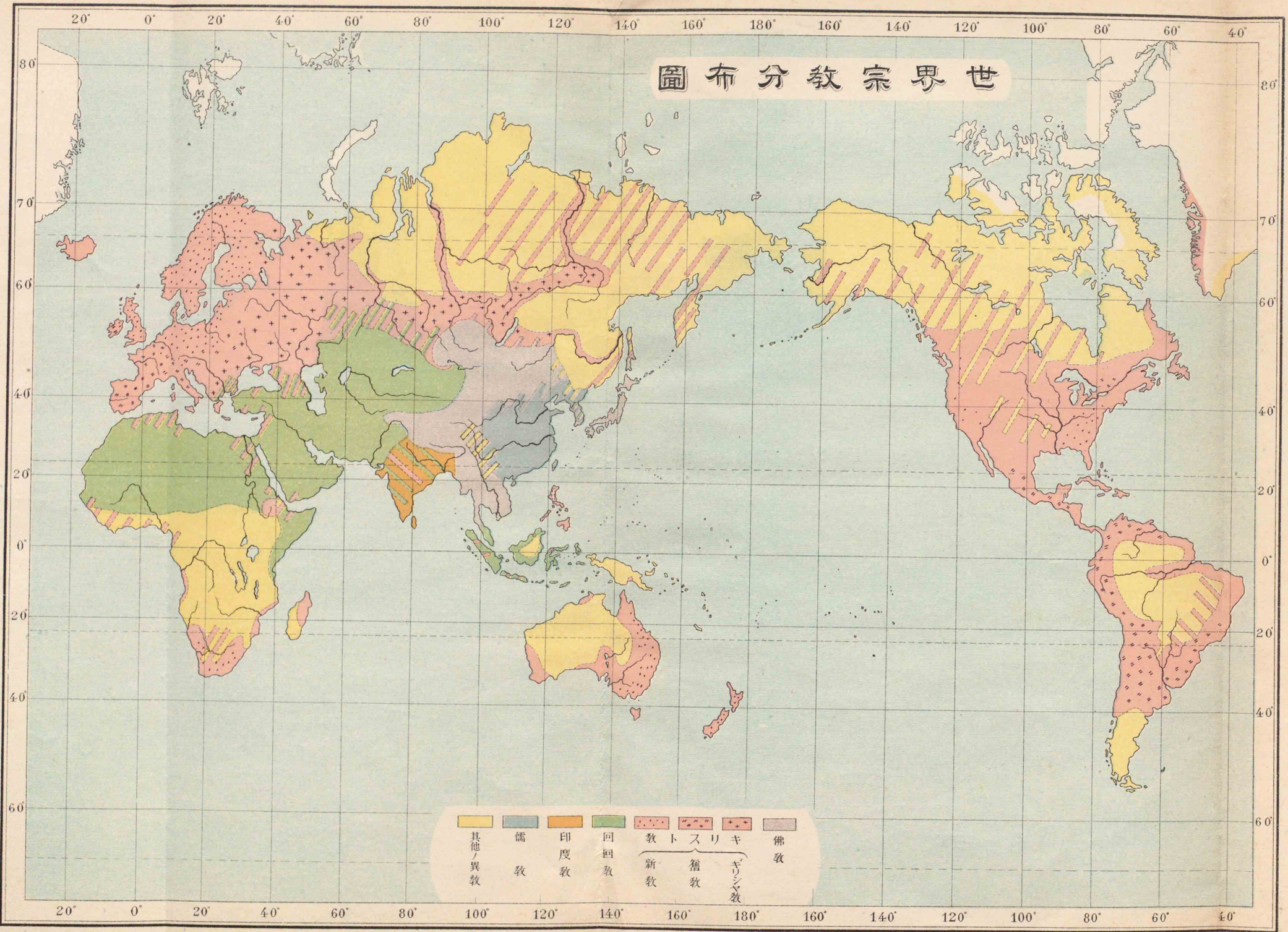
世界人種分布圖



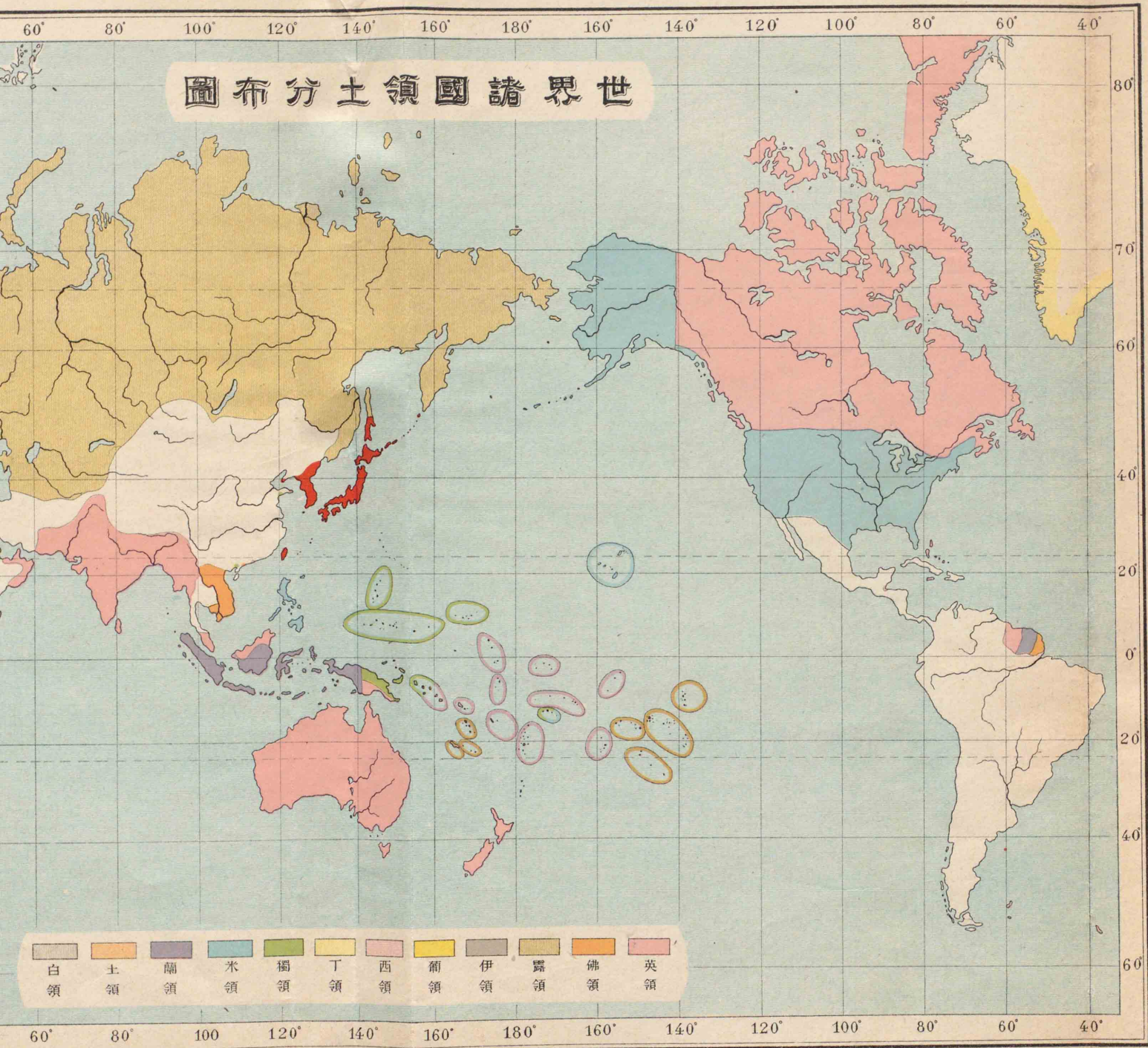
世界宗教分布圖



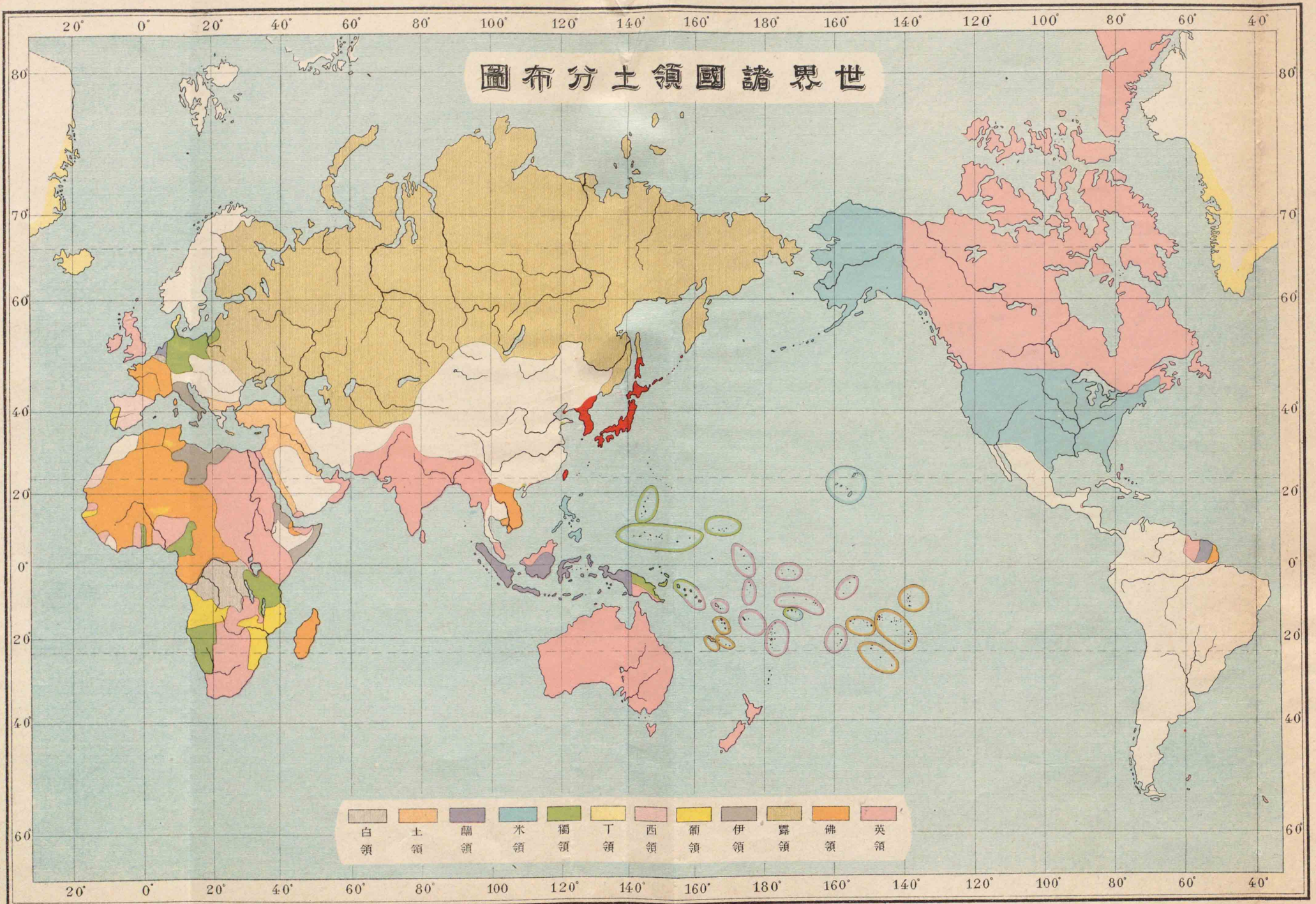
世界宗教分布圖



世界諸國領土分布圖



世界諸國領土分布圖

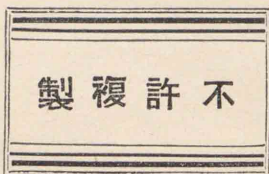


文部省檢定濟

大正二年十一月一日

大正	大正	大正	大正	明	明	明
二	二	二	二	治	治	治
二	二	二	二	四	四	四
年	年	年	年	十	十	十
十	十	十	十	三	三	三
一	一	一	一	年	年	年
八	八	八	八	十	十	十
月	月	月	月	一	一	一
十	十	十	十	月	月	月
一	一	一	一	廿	廿	廿
月	月	月	月	四	四	四
十	十	十	十	日	日	日
七	七	七	七	修	修	修
日	日	日	日	訂	訂	訂
四	四	四	四	正	正	正
日	日	日	日	正	正	正
修	修	修	修	再	再	再
訂	訂	訂	訂	版	版	版
正	正	正	正	發	發	發
正	正	正	正	行	行	行
三	三	三	三	行	行	行
版	版	版	版	刷	刷	刷
發	發	發	發			
印	印	印	印			
行	行	行	行			
刷	刷	刷	刷			

明治四十四年二月三日
文部省檢定濟



發行所

(東京
神田區
保町)

三省堂書店

電話本局(七)一五七九 振替口座東京一五七九番



編纂者

三省堂編輯所

發行兼
印刷所

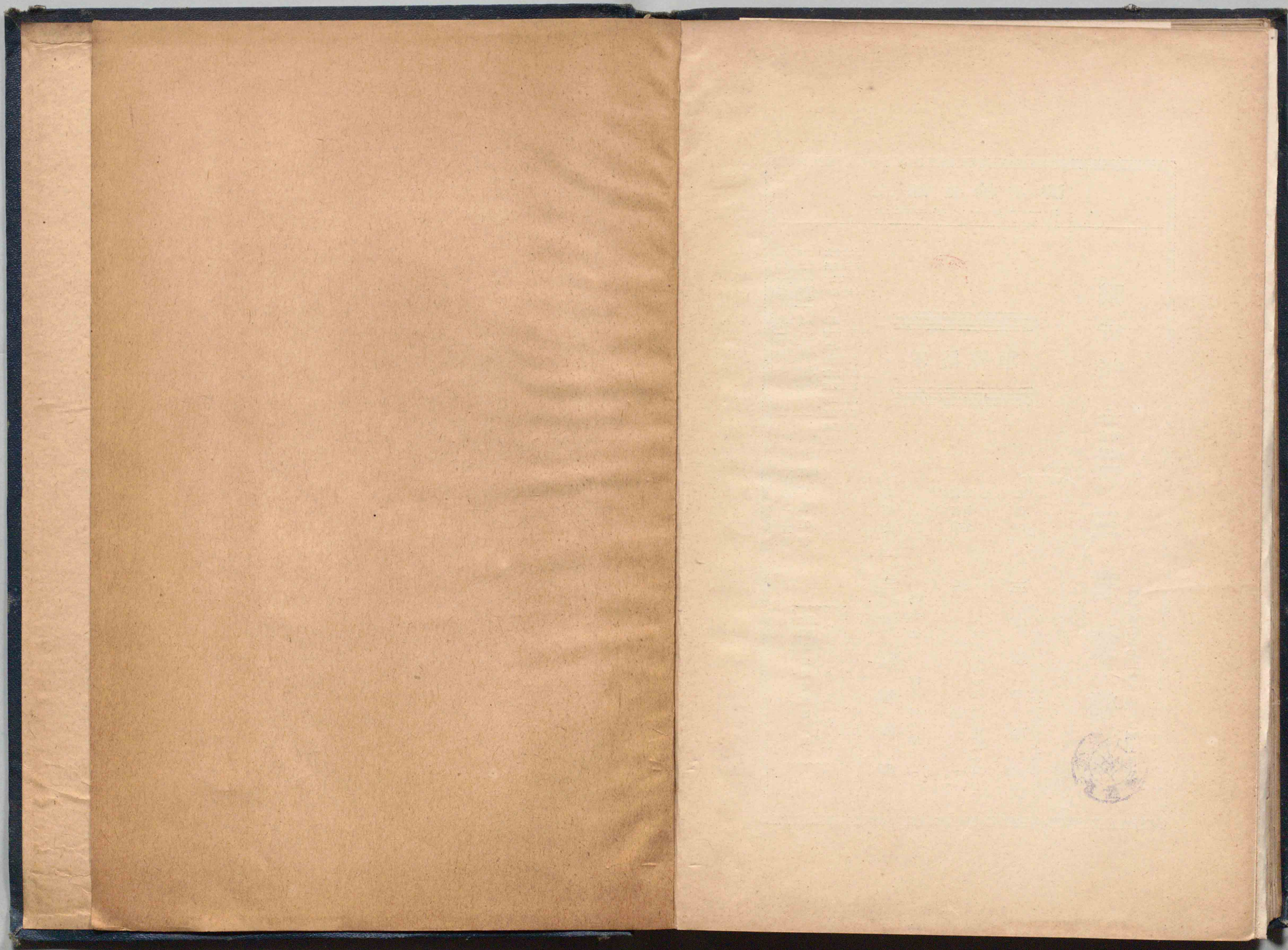
龜井忠一

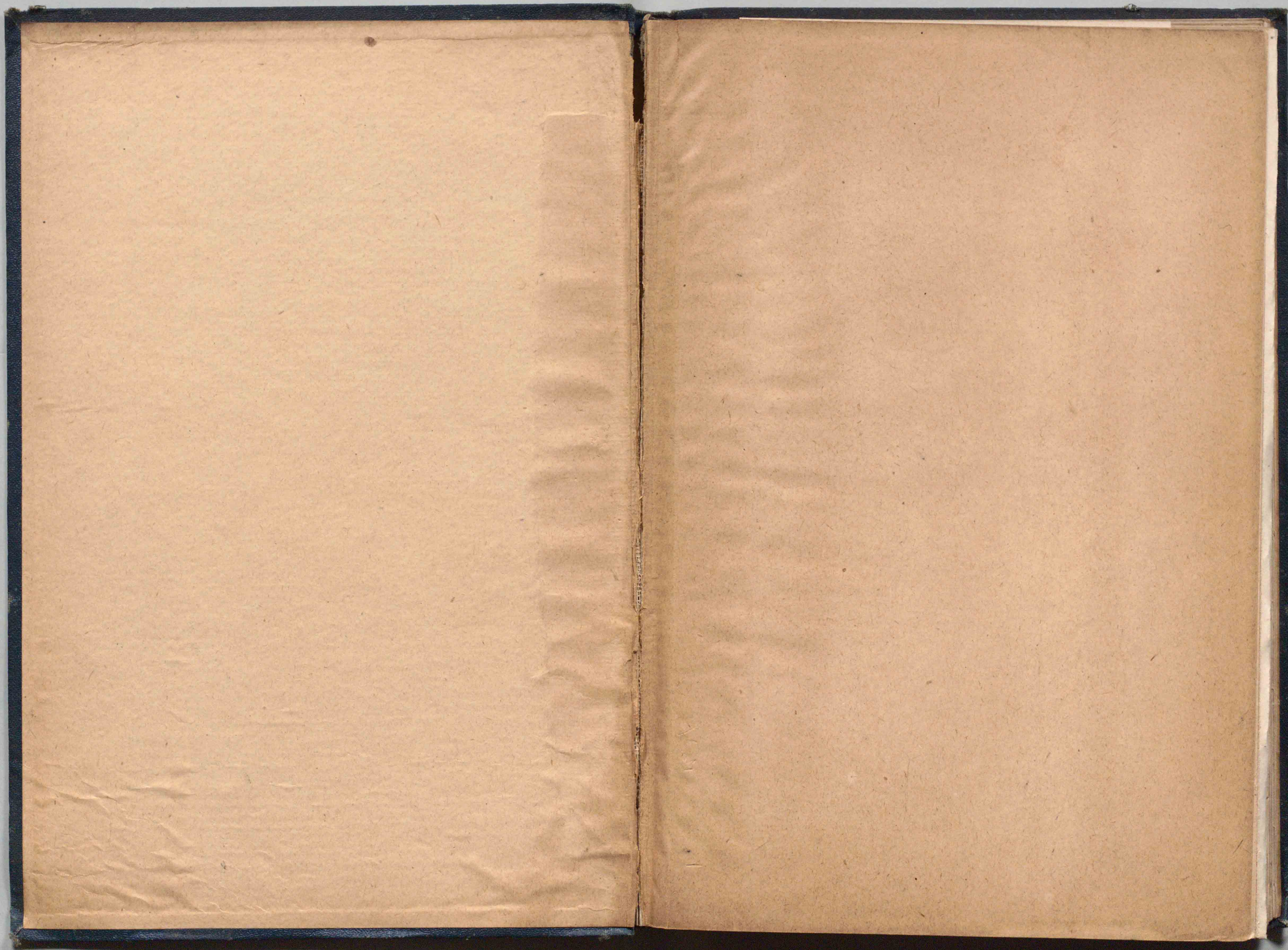
印刷所

三省堂印刷部

東京市神田區三崎河岸十二號地

敬請最近地理概說與附
定價金六拾錢







広島大学図書

2000071959

